

# 田川市障がい福祉に関する アンケート調査結果報告書

平成28年11月

田 川 市



## 目 次

---

第1部	調査の概要 .....	1
第2部	調査の結果 .....	3
I	調査対象者の基本属性等について .....	3
II	外出等について .....	13
III	就労・就学状況や障がいのある子どもの教育について.....	21
IV	災害対策について .....	32
V	情報収集について .....	43
VI	地域での生活について.....	46
VII	これからの暮らしのことについて .....	53
VIII	福祉全般について .....	58
IX	自由回答 .....	63

特定の個人等が識別される、または権利利益を害するおそれがある内容は非公開としています。



---

第 1 部  
調査の概要

---



## I 調査の目的

障がい者の日常生活の状況や障がい者福祉施策に関する要望等を把握し、「田川市障がい者福祉基本計画」見直しの基礎資料とするため。

## II 調査の対象

以下の4区分に分けて、区分ごとの生活実態やニーズ等を把握できるよう、各区分ごとに調査対象者数を決定し、抽出した1,500人。

- ① 障がい児（18歳未満の各種障害者手帳所持者及び障害児通所支援サービス利用者）  
204人（悉皆）
- ② 療育手帳所持者  
384人（悉皆）
- ③ 精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療（精神通院医療）受給者  
400人（無作為抽出）
- ④ 身体障害者手帳所持者  
512人（65歳以上の回答率が高いこと、原則として65歳以上は障がい福祉サービスより介護保健サービスが優先適用されることを考慮して、65歳未満300人、65歳以上212人をそれぞれ無作為抽出）

## III 調査の方法

郵送による配布・回収。

## IV 調査の期間

平成28年8月27日から平成28年9月12日まで。  
（ただし、平成28年9月28日回収分までを集計に含めている。）

## V 回収結果

配布数：1,500件、有効回収数：565件、有効回収率：37.7%

## VI 報告書の見方

- (1) 比率については小数点以下第2位を四捨五入しているため、比率が0.05未満の場合には0.0で表している。  
また、この四捨五入のため、比率計がちょうど100.0とならない場合がある。
- (2) グラフ中の「N」はその項目における回答者を合計した実数値であり、比率算出の基数となる。
- (3) 複数回答を許している項目については、原則として、サンプル数を基数として比率算出を行っているため、比率計は100%を超えている。

- (4) グラフにおいて、回答選択肢を簡略化して表記している場合がある。
- (5) 調査結果については、障がい種別のクロス集計結果を掲載しているが、便宜上、身体障害者手帳所持者を身体障がい者、療育手帳所持者を知的障がい者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療（精神通院医療）受給者を精神障がい者と表記している。また、回答者のうち、満18歳未満を障がい児と表記している。



---

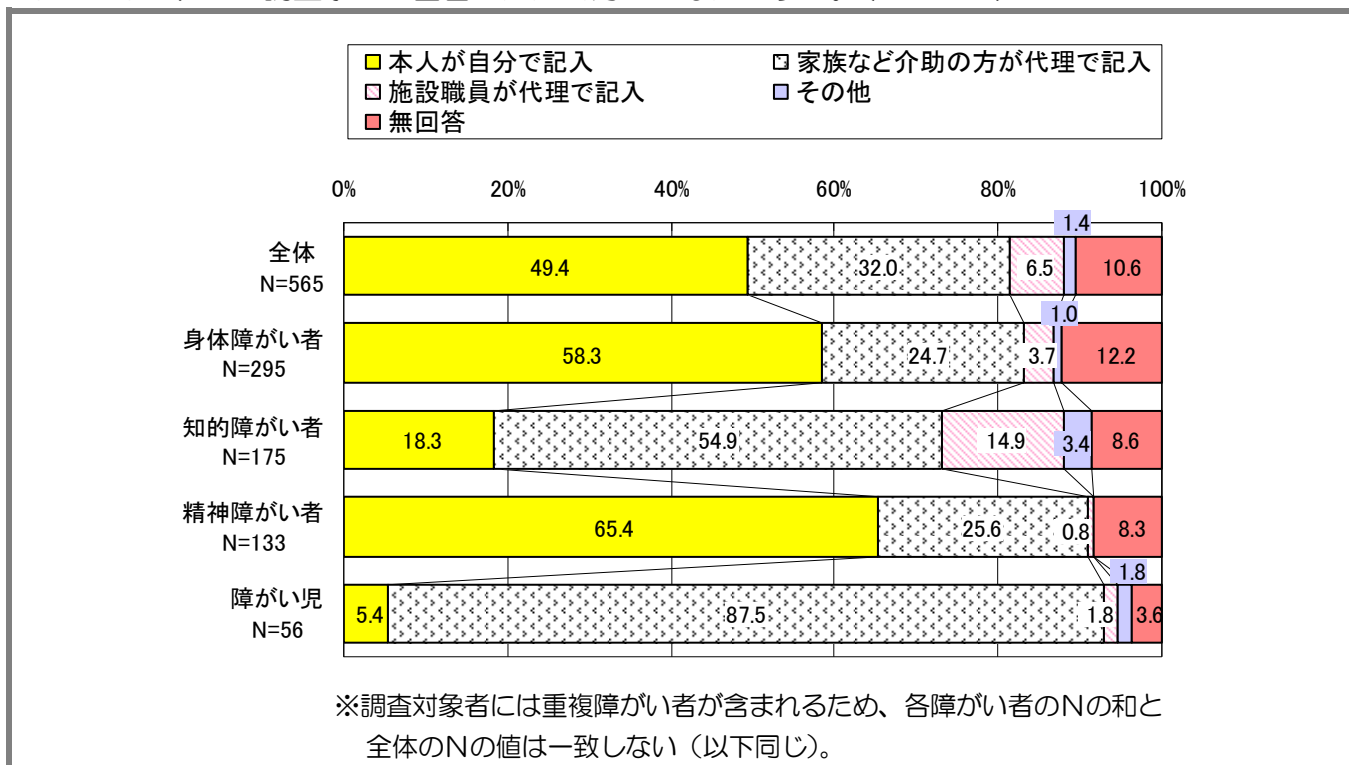
第 2 部  
調査の結果

---



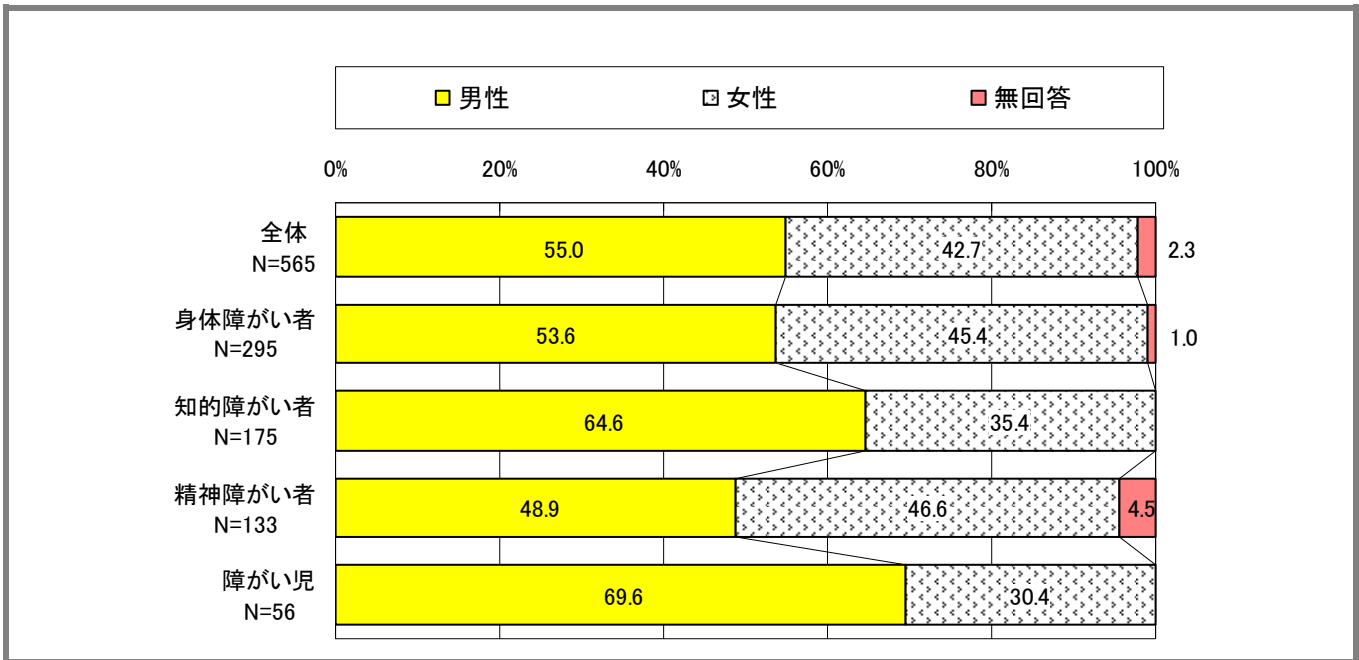
# I 調査対象者の基本属性等について

◎はじめに、この調査票にご回答いただく方はどなたですか。(1つに〇)



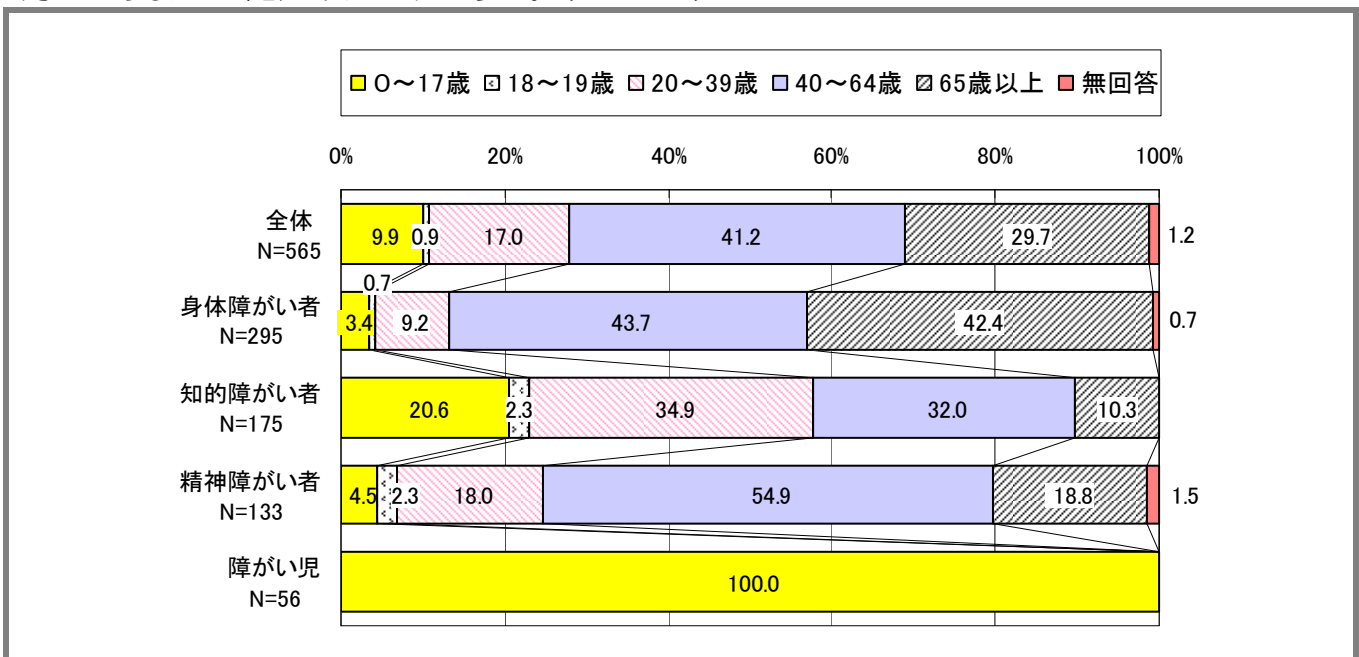
- 全体の 49.4%が本人による記入となっているが、知的障がい者については本人以外による記入の割合が高くなっている。

問1 あなた（手帳をお持ちの方）の性別はどちらですか。（1つに○）



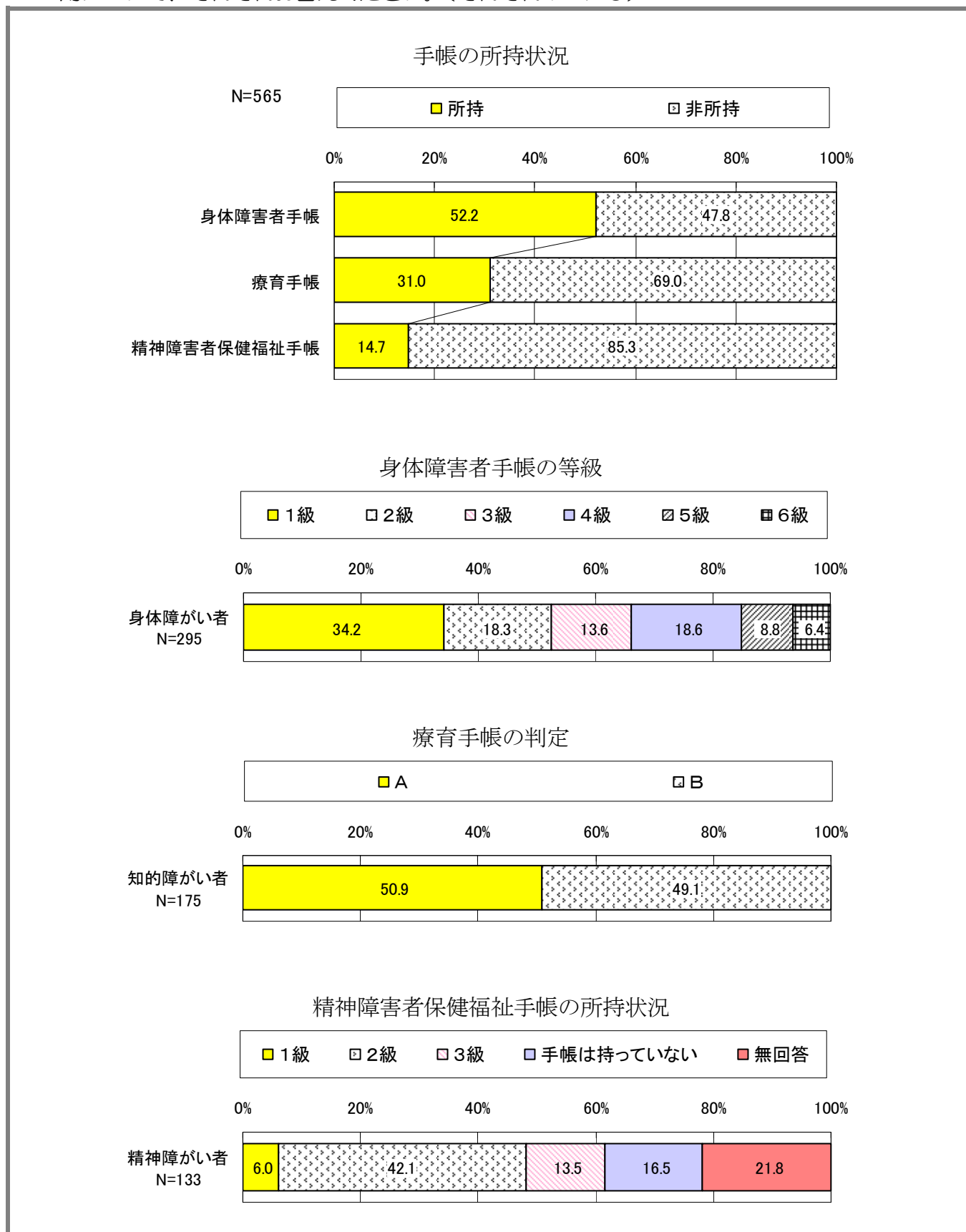
● 調査対象者の性別の分布は上のとおりで、すべての障がい種別で男性が女性を上回っている。

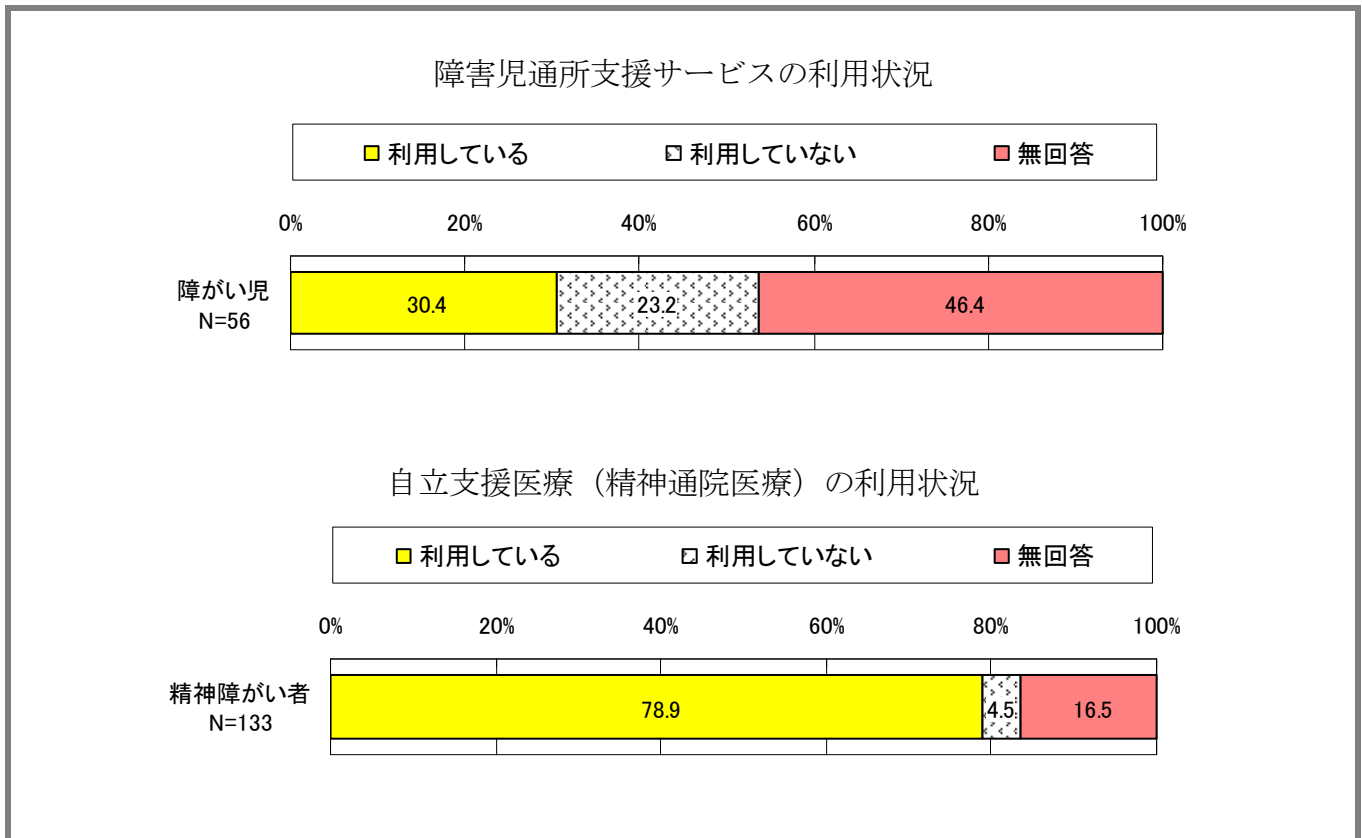
問2 あなたの年齢は次のどれですか。（1つに○）



● 年齢分布を見ると、全体の29.7%を「65歳以上」が占めているが、これは最も構成割合の高い身体障がい者の42.4%が「65歳以上」であることに起因しており、知的障がい者では「18歳未満」の割合が20.6%と、他の障がい種別に比べ高くなっている。

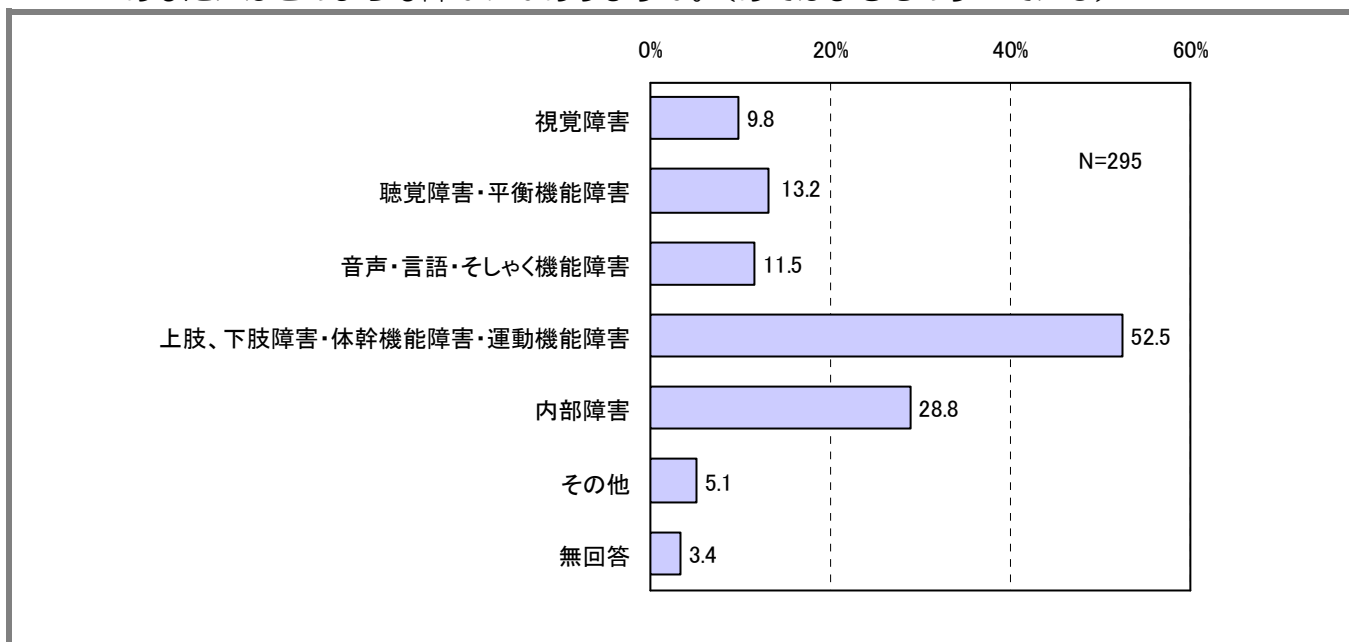
問3 あなたの手帳の等級、程度、障害児通所支援サービス、自立支援医療（精神通院医療）の利用について、それぞれお答えください。（それぞれ1つに○）





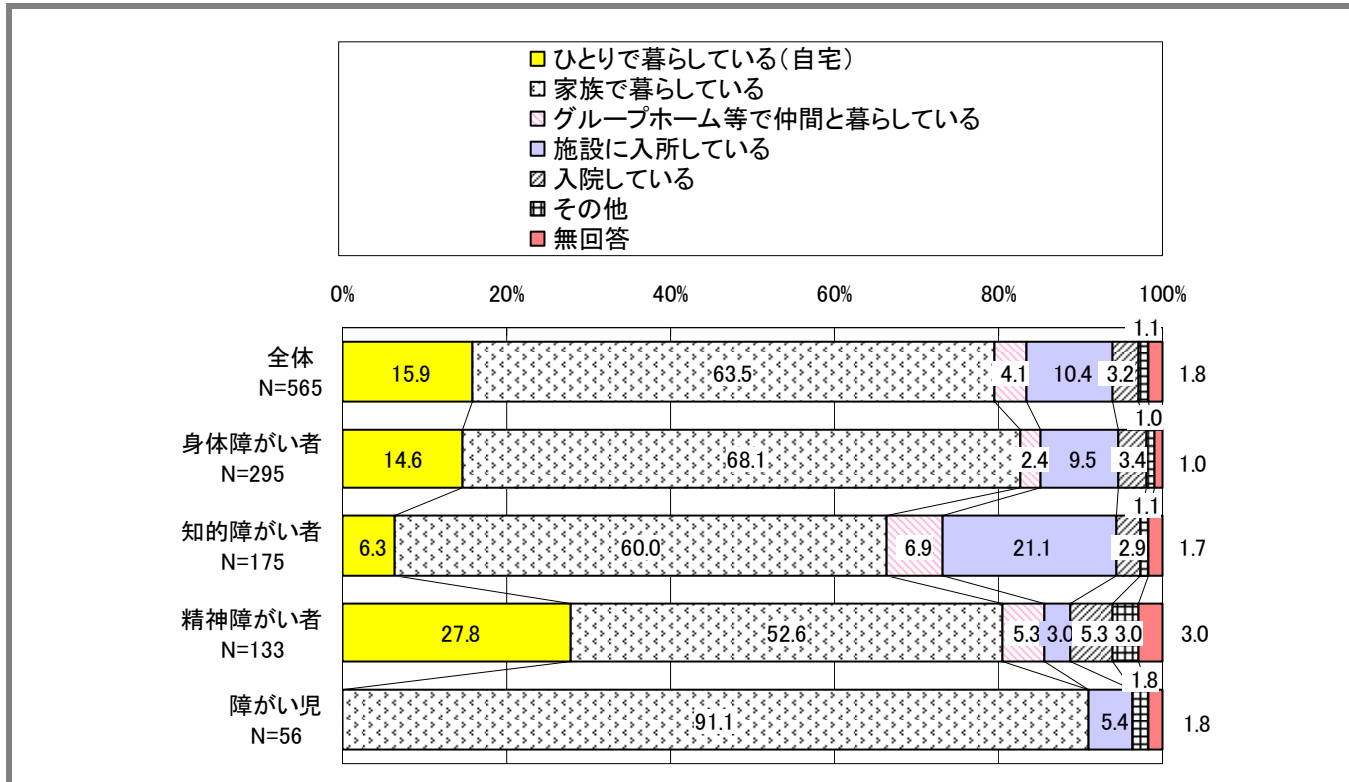
- 身体障害者手帳所持者は全体の 52.2%、療育手帳所持者は全体の 31.0%、精神障害者保健福祉手帳所持者は全体の 14.7%となっている。
- 身体障害者手帳の等級は「1級」が 34.2%と最も多くなっている。
- 療育手帳の判定は「A」が 50.9%、「B」が 49.1%と、拮抗している。
- 精神障がい者のうち、精神障害者保健福祉手帳を所持している人の割合は 61.6%で、等級は「2級」が全体の 42.1%と最も多くなっている。
- 障がい児のうち、障害児通所支援サービスを「利用している」と回答した人は 30.4%となっている。
- 自立支援医療（精神通院医療）を「利用している」と回答した人は 78.9%となっている。

問3-1 【問3で1~6のいずれかに○をつけた方のみお答えください】  
あなたにはどのような障がいがありますか。(あてはまるものすべてに○)



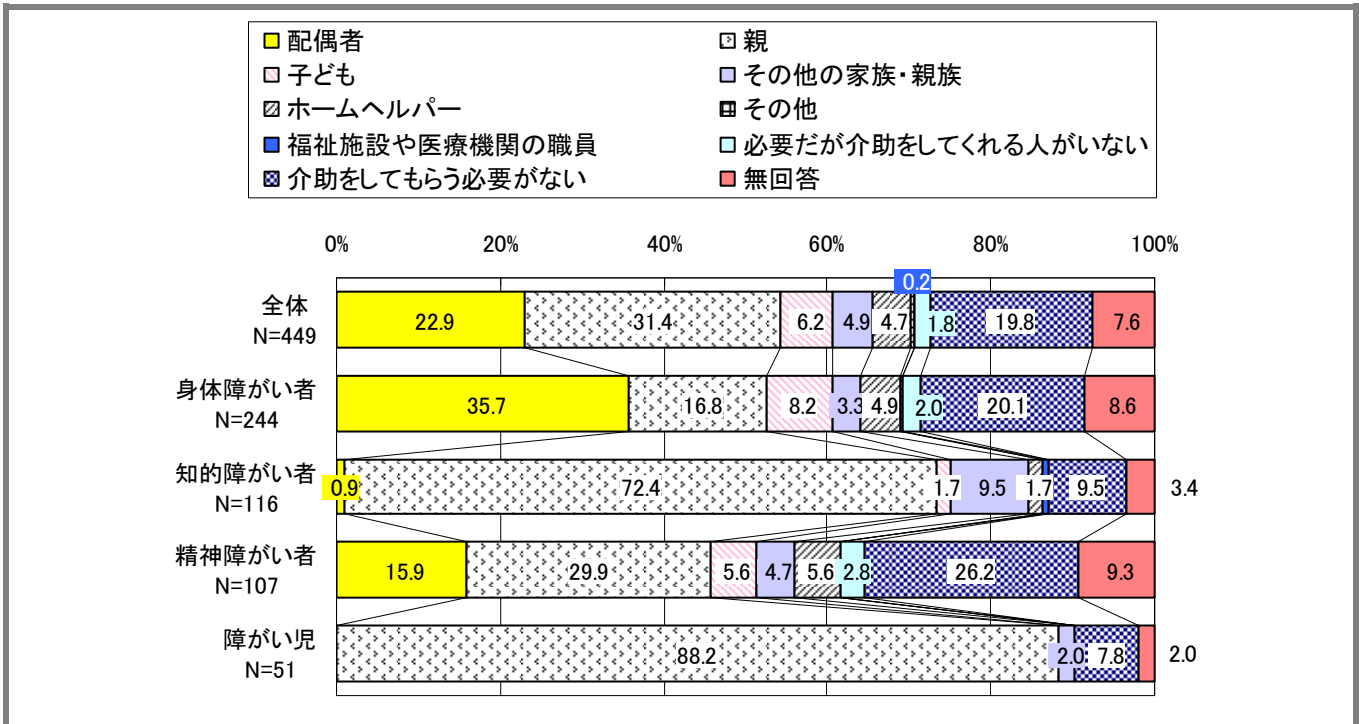
● 身体障がい者の障がい種別の内訳を見ると、「上肢、下肢障害・体幹機能障害・運動機能障害」が52.5%と最も多く、「内部障害」が28.8%で、それに続いている。

問4 あなたは、現在どのように暮らしていますか。(1つに○)



● 現在の暮らしについては、「家族で暮らしている」が全体の63.5%と最も多くなっているが、精神障がい者では、「一人で暮らしている(自宅)」と回答した人も27.8%と、他の障がい種別に比べて高い割合となっている。

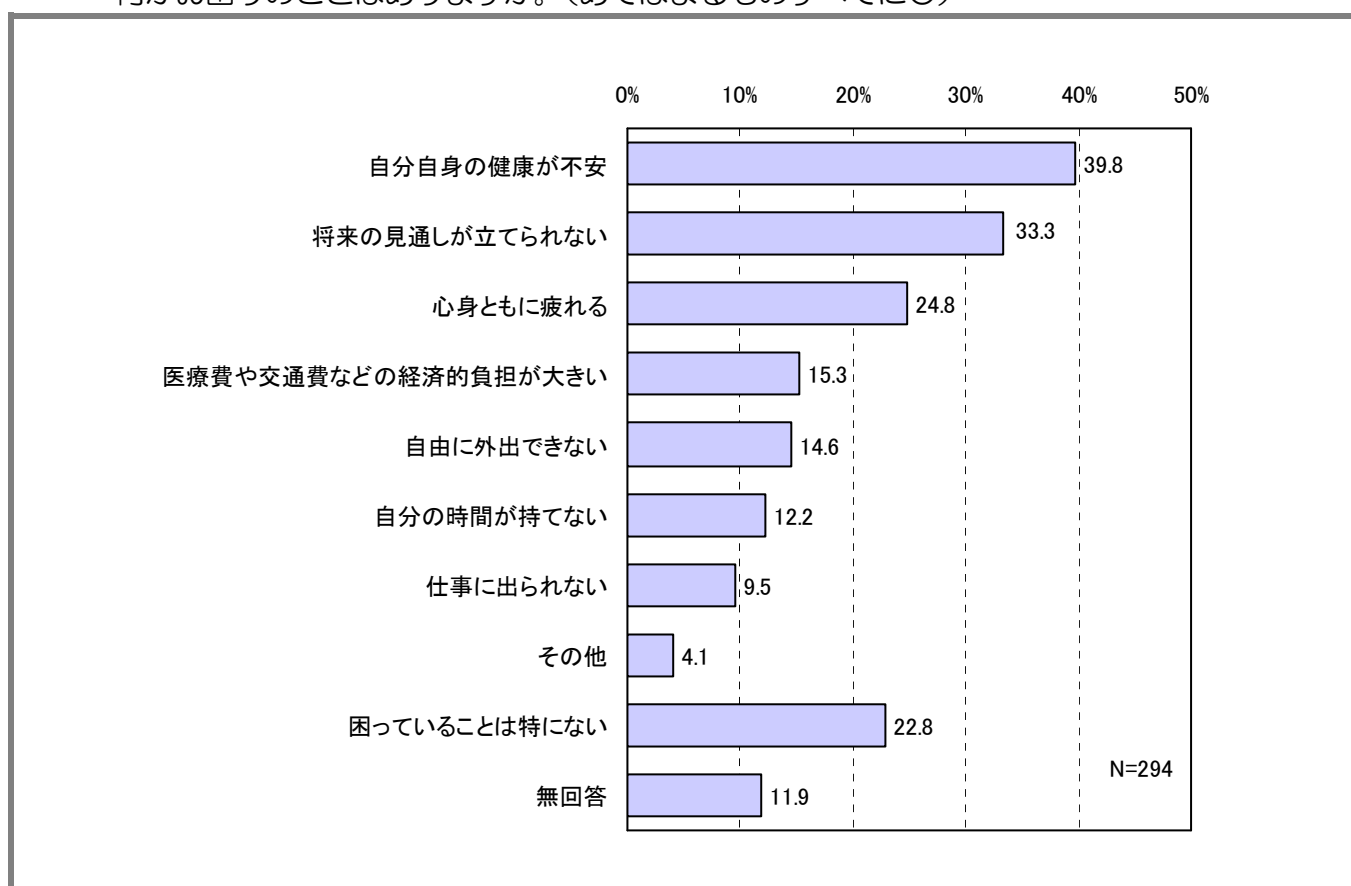
問4-1【問4で1または2に○をつけた方のみお答えください】  
主にどなたに介助してもらっていますか。(1つに○)



● 問4で「ひとりで暮らしている（自宅）」「家族で暮らしている」と回答した人に主な介助者を尋ねたところ、身体障がい者では「配偶者」（35.7%）、知的・精神障がい者では「親」（知的：72.4%、精神：29.9%）という回答が多くなっている。

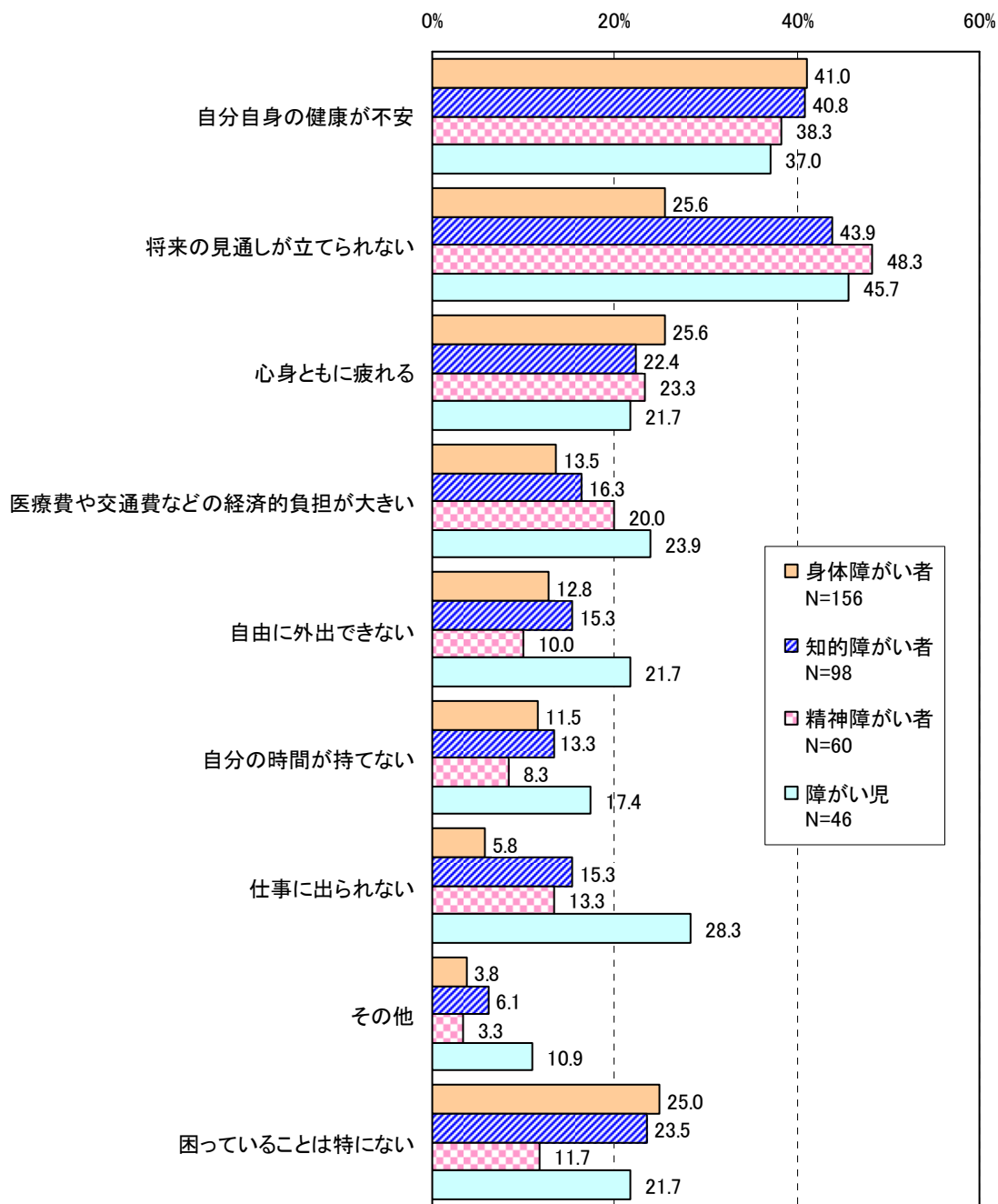


問4-2【主に介助されている家族や親族の方にお尋ねします】  
何かお困りのことはありますか。(あてはまるものすべてに○)



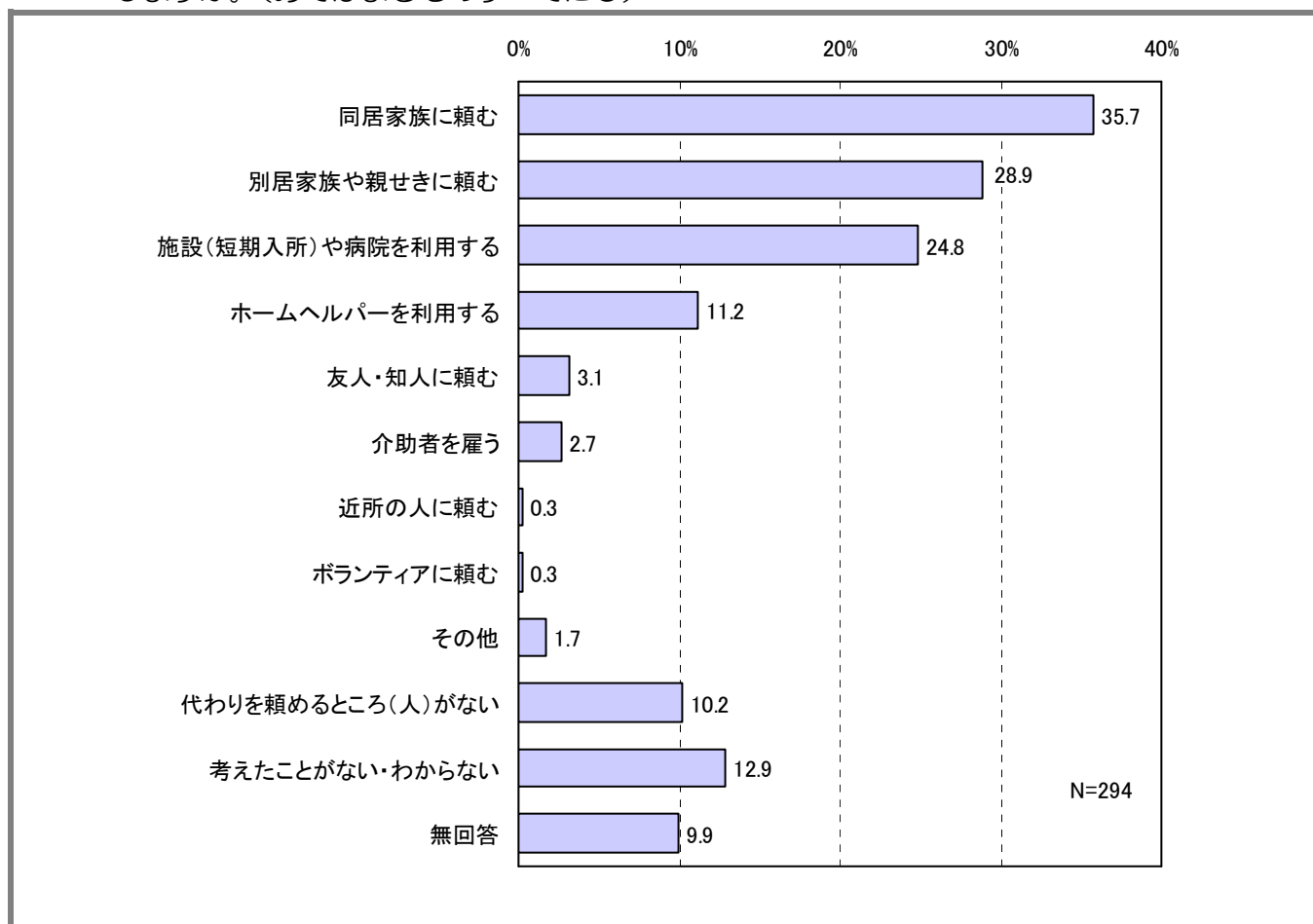
- 主に介助されている家族や親族にどんなことで困っているか尋ねたところ、「自分自身の健康が不安」が39.8%と最も多く、以下、「将来の見通しが立てられない」(33.3%)、「心身ともに疲れる」(24.8%)と続いている。
- 障がい種別に見ると、身体障がい者の介助者については「自分自身の健康が不安」が最も高い割合となっているが、それ以外の障がい種別では「将来の見通しが立てられない」が最も高い割合となっている(次ページ参照)。
- また、障がい児の介助者については、「仕事に出られない」(28.3%)という回答割合が、「将来の見通しが立てられない」(45.7%)、「自分自身の健康が不安」(37.0%)に次いで高い割合となっている(次ページ参照)。

【障がい種別クロス集計結果】



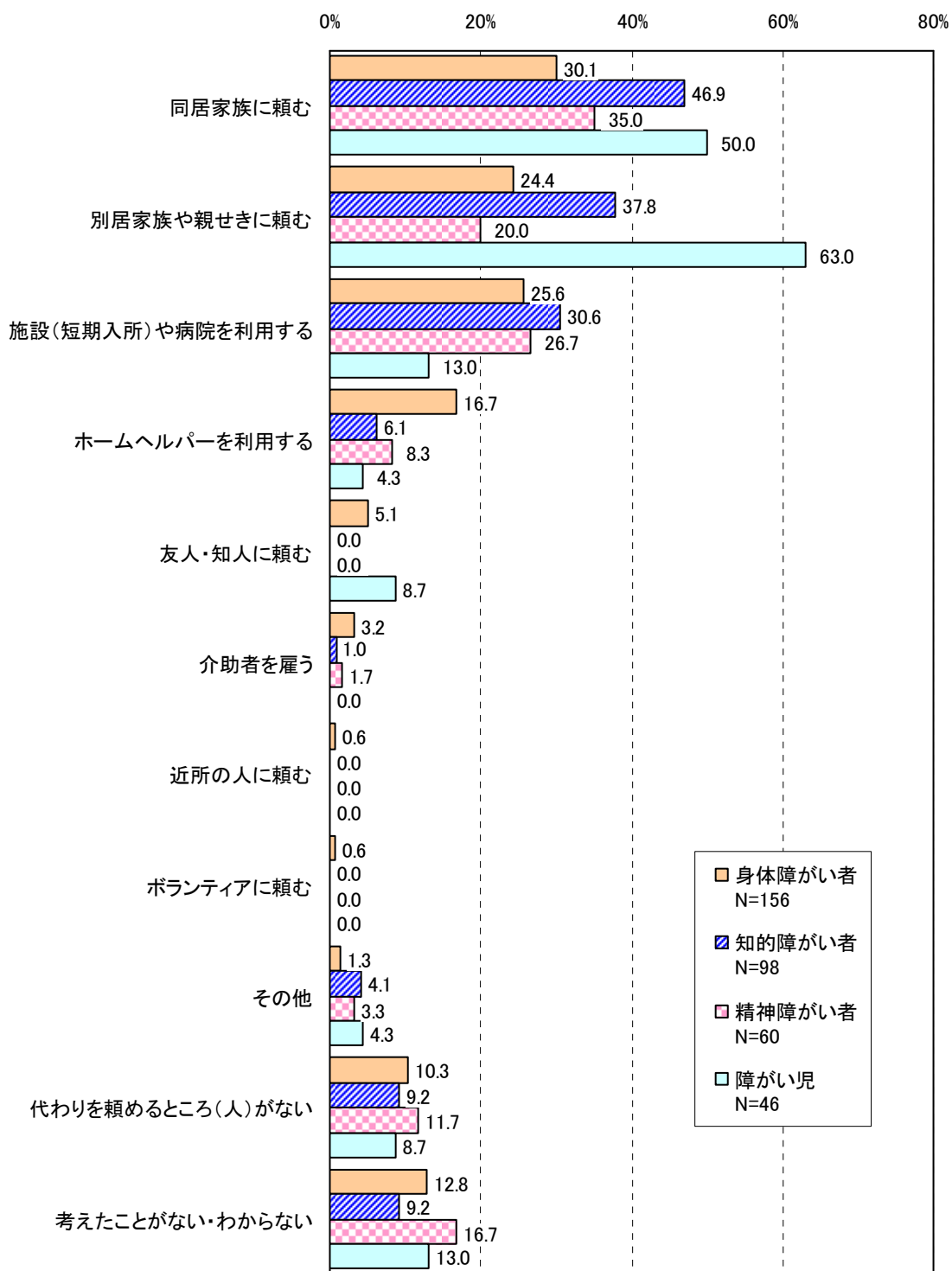
## 問4-3【主に介助されている家族や親族の方にお尋ねします】

あなたが、万一病気や事故等で、一時的に介助をすることができなくなった場合は、どうしますか。(あてはまるものすべてに○)



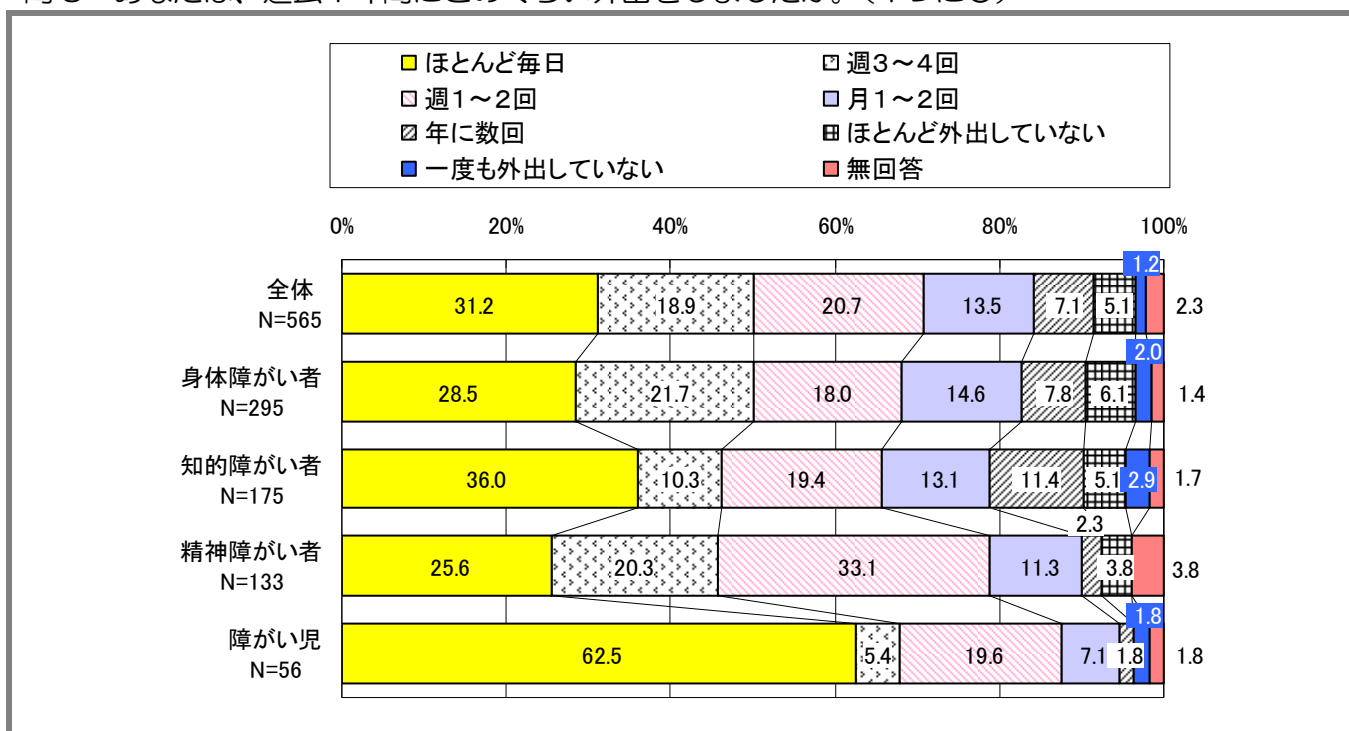
- 介助者が病気や事故等で一時的に介護ができなくなった場合については、「同居家族に頼む」が全体の35.7%と最も多く、次いで「別居家族や親せきに頼む」(28.9%)、「施設(短期入所)や病院を利用する」(24.8%)と続いている。
- 「代わりを頼めるところ(人)がない」と回答した人は全体の10.2%となっている。
- 障がい児の介助者については、「別居家族や親せきに頼む」が63.0%と最も高い割合となっている(次ページ参照)。

【障がい種別クロス集計結果】



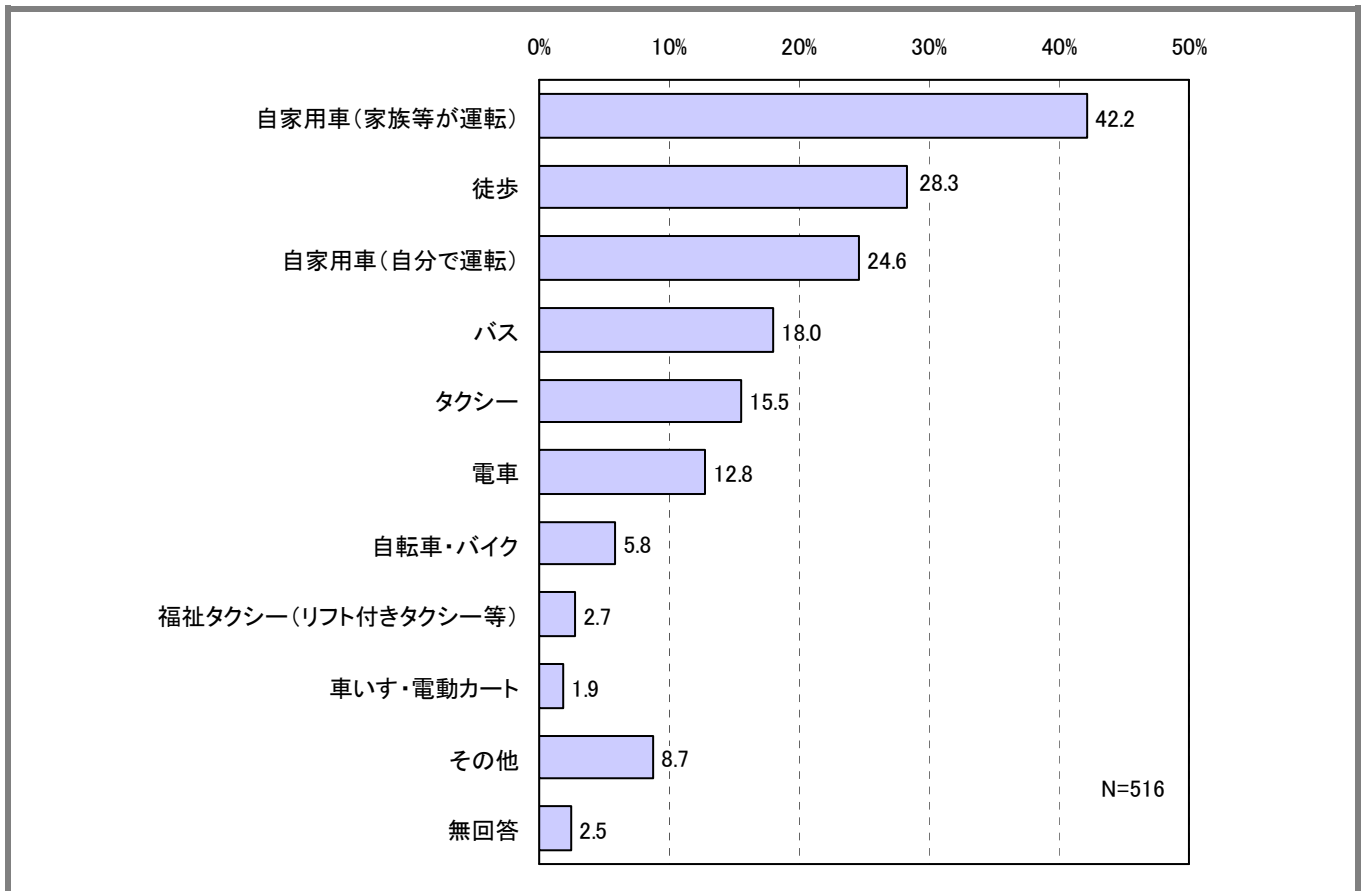
## Ⅱ 外出等について

問5 あなたは、過去1年間にどのくらい外出をしましたか。(1つに○)



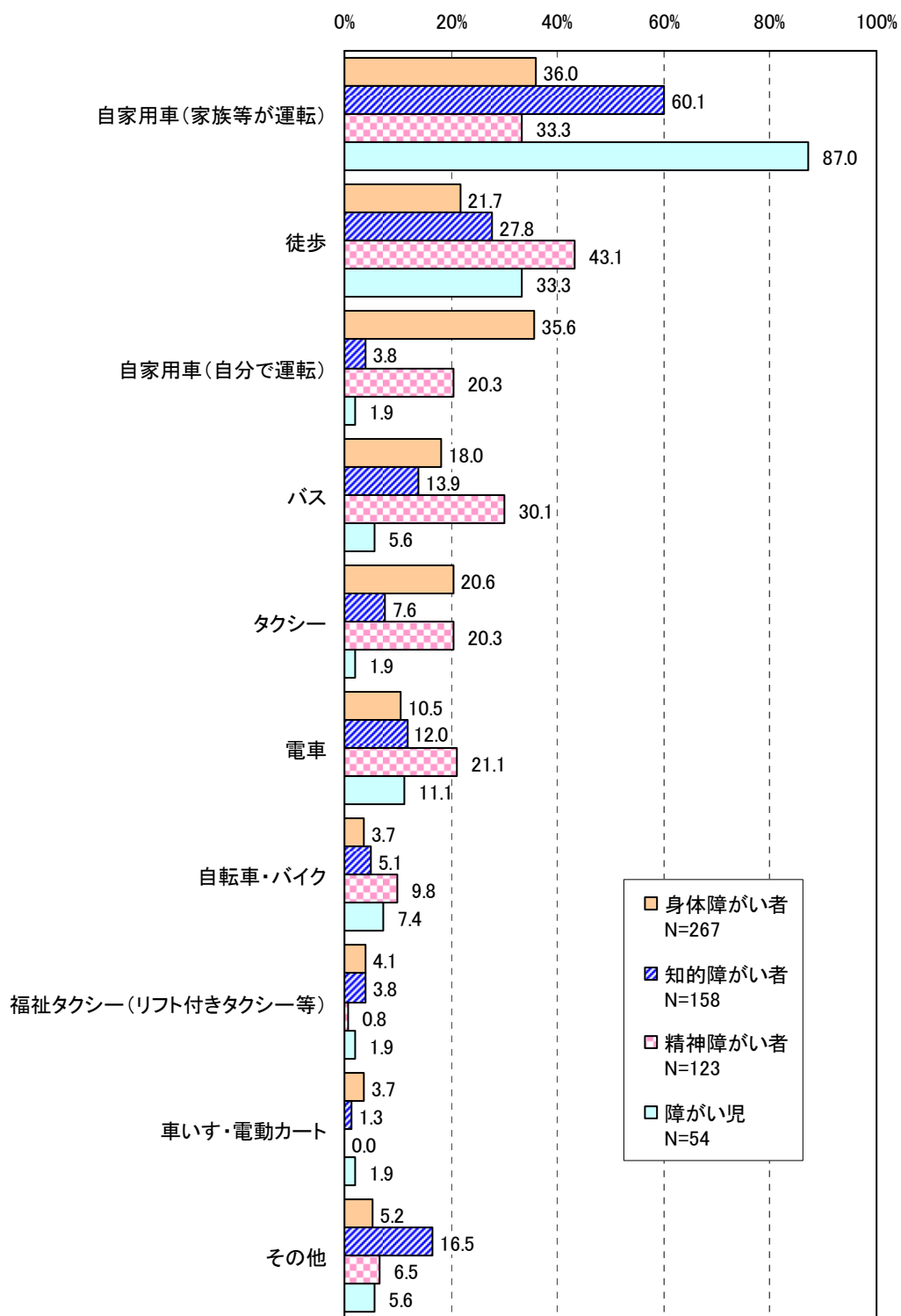
- 外出の頻度については、全体で見ると「ほとんど毎日」という回答割合が最も高くなっているが、精神障がい者については「週1~2回」という回答が最も高い割合となっている。
- 「月1~2回」以下の外出頻度の少ない人の割合が最も高かったのは知的障がい者で、32.5%となっている。

問5-1【問5で1~5のいずれかに○をつけた方のみお答えください】  
 外出の時の移動手段は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

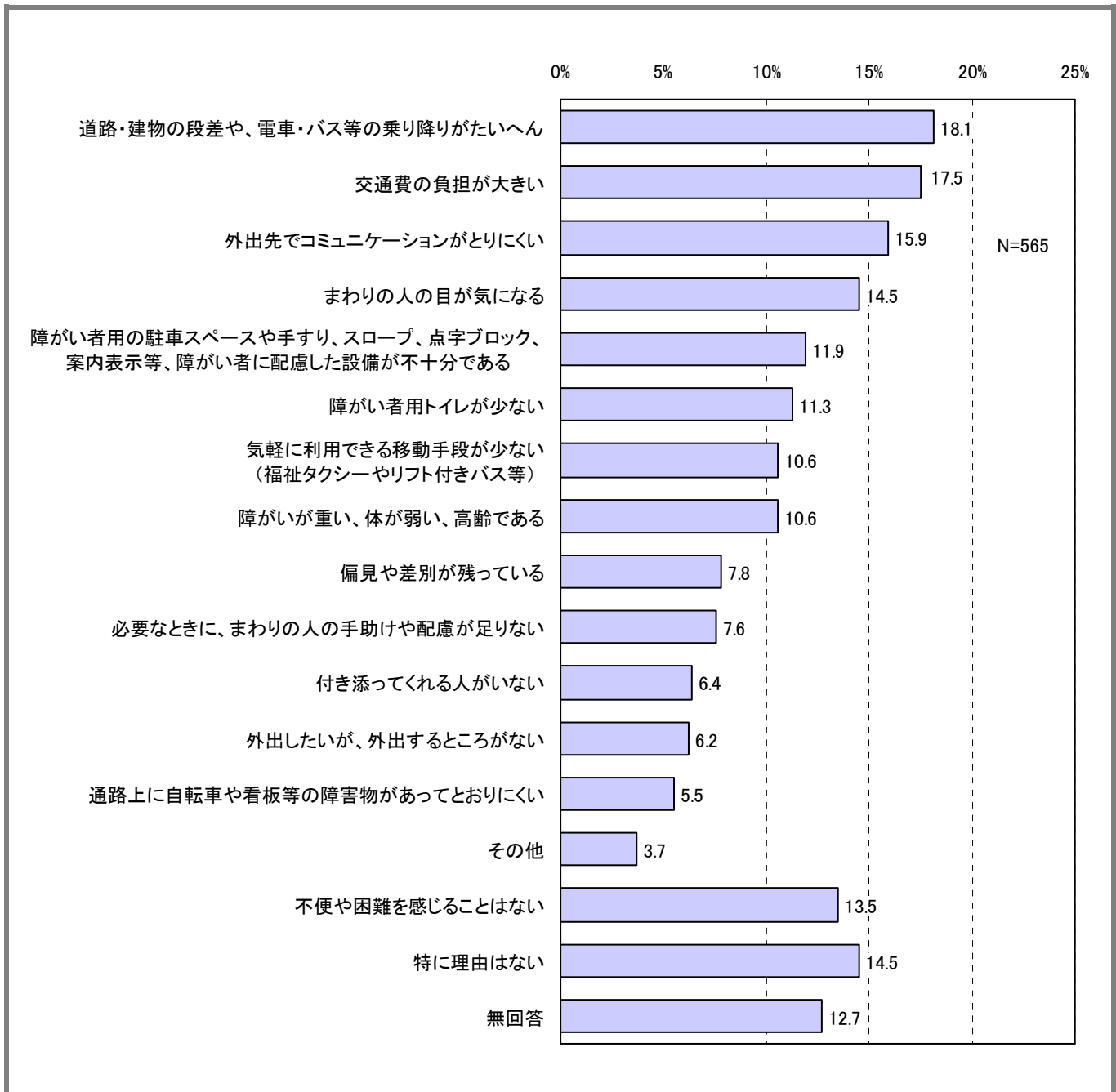


- 問5で外出をしていると回答した人に移動手段を尋ねたところ、「自家用車(家族等が運転)」が42.2%と最も多く、以下、「徒歩」(28.3%)、「自家用車(自分で運転)」(24.6%)、「バス」(18.0%)、「タクシー」(15.5%)と続いている。
- 障がい種別に見ると、身体障がい者では「自家用車(家族等が運転)」(36.0%)と「自家用車(自分で運転)」(35.6%)、知的障がい者と障がい児では「自家用車(家族等が運転)」(知的:60.1%、障がい児:87.0%)、精神障がい者では「徒歩」(43.1%)の回答割合が高くなっている(次ページ参照)。

【障がい種別クロス集計結果】



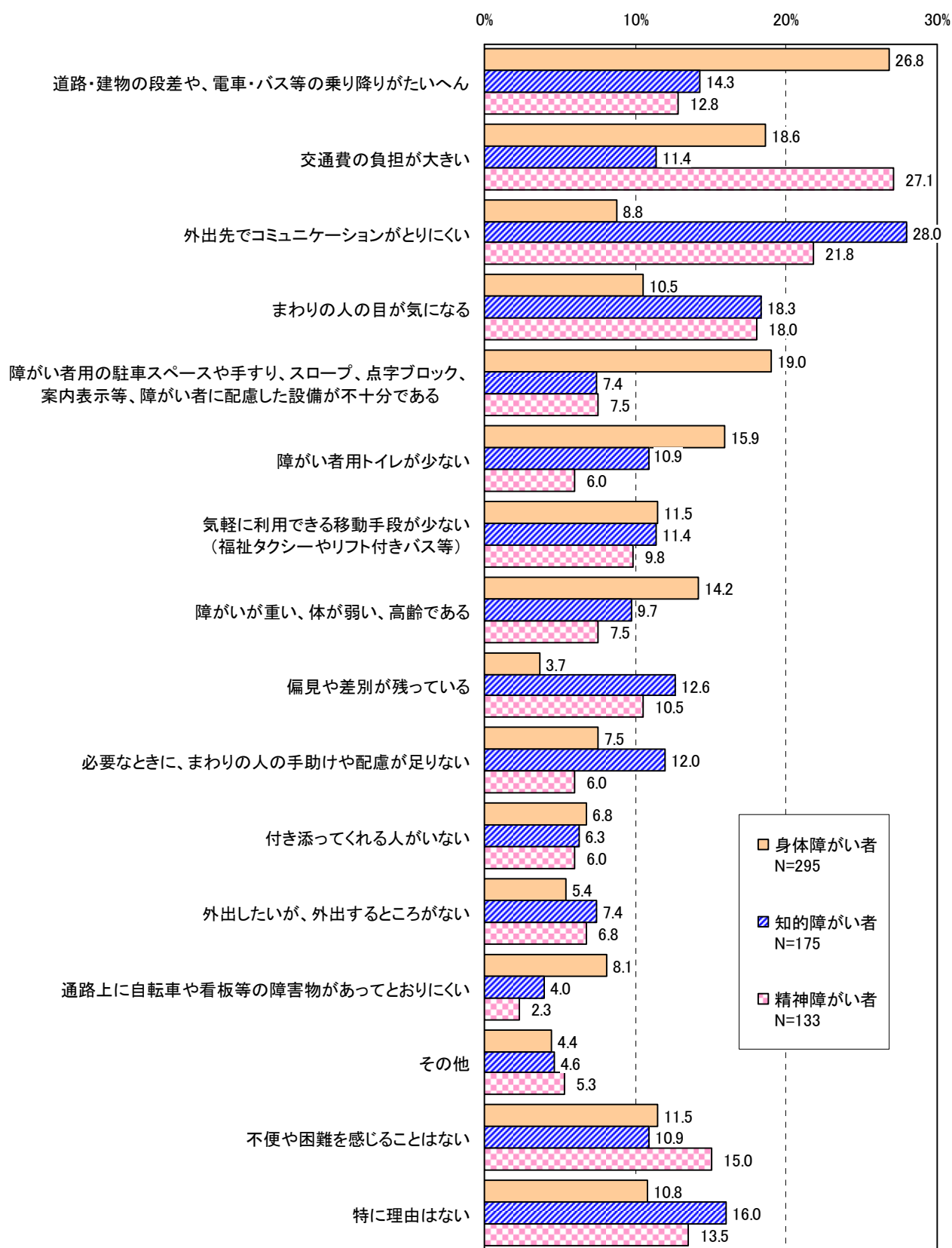
問6 あなたは外出に関して、どのようなことに不便や困難を感じることが多いですか。外出されない方は、外出しない（できない）理由をお答えください。（あてはまるものすべてに○）



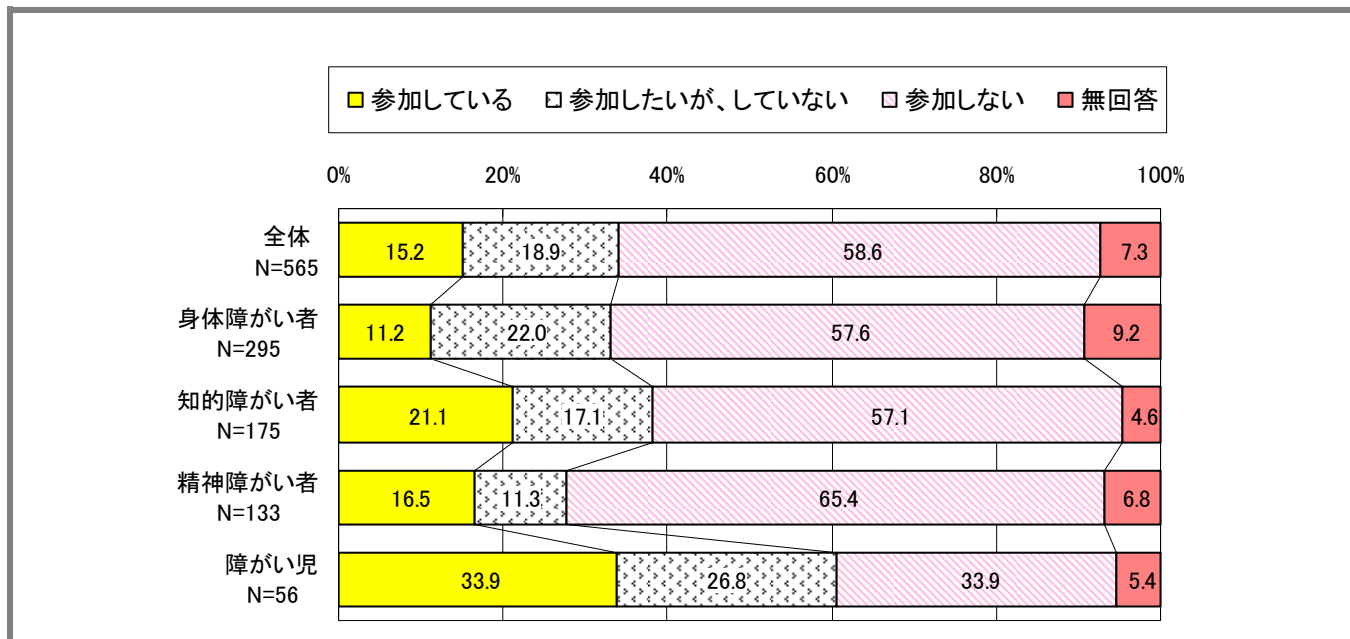
- 外出に関して不便や困難を感じることについては、「道路・建物の段差や、電車・バス等の乗り降りがたいへん」が全体の18.1%と最も多く、以下、「交通費の負担が大きい」（17.5%）、「外出先でコミュニケーションがとりにくい」（15.9%）、「まわりの人の目が気になる」（14.5%）と続いている。
- 障がい種別に見ると、身体障がい者では「道路・建物の段差や、電車・バス等の乗り降りがたいへん」（26.8%）、知的障がい者では「外出先でコミュニケーションがとりにくい」（28.0%）、精神障がい者では「交通費の負担が大きい」（27.1%）がそれぞれ最も多くなっている（次ページ参照）。



【障がい種別クロス集計結果】

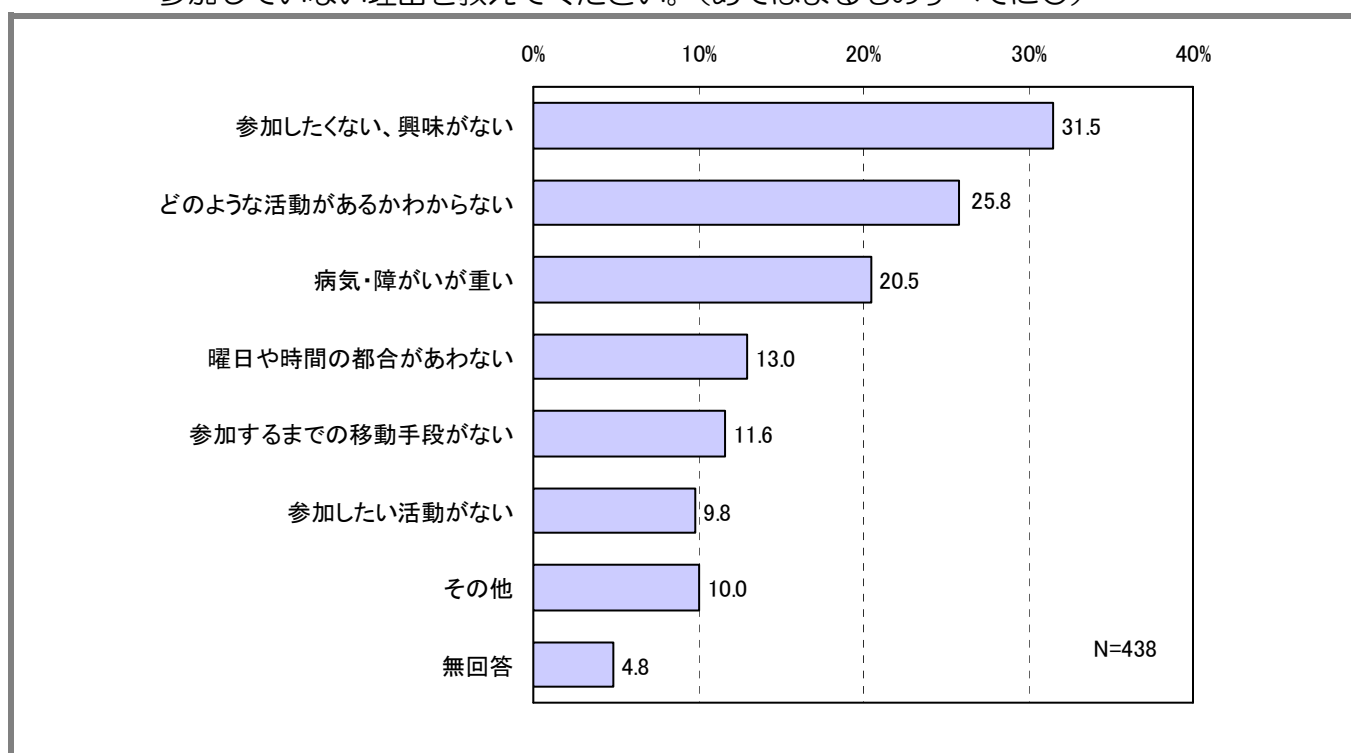


問7 あなたは、現在、スポーツや文化活動に参加していますか。(1つに○)



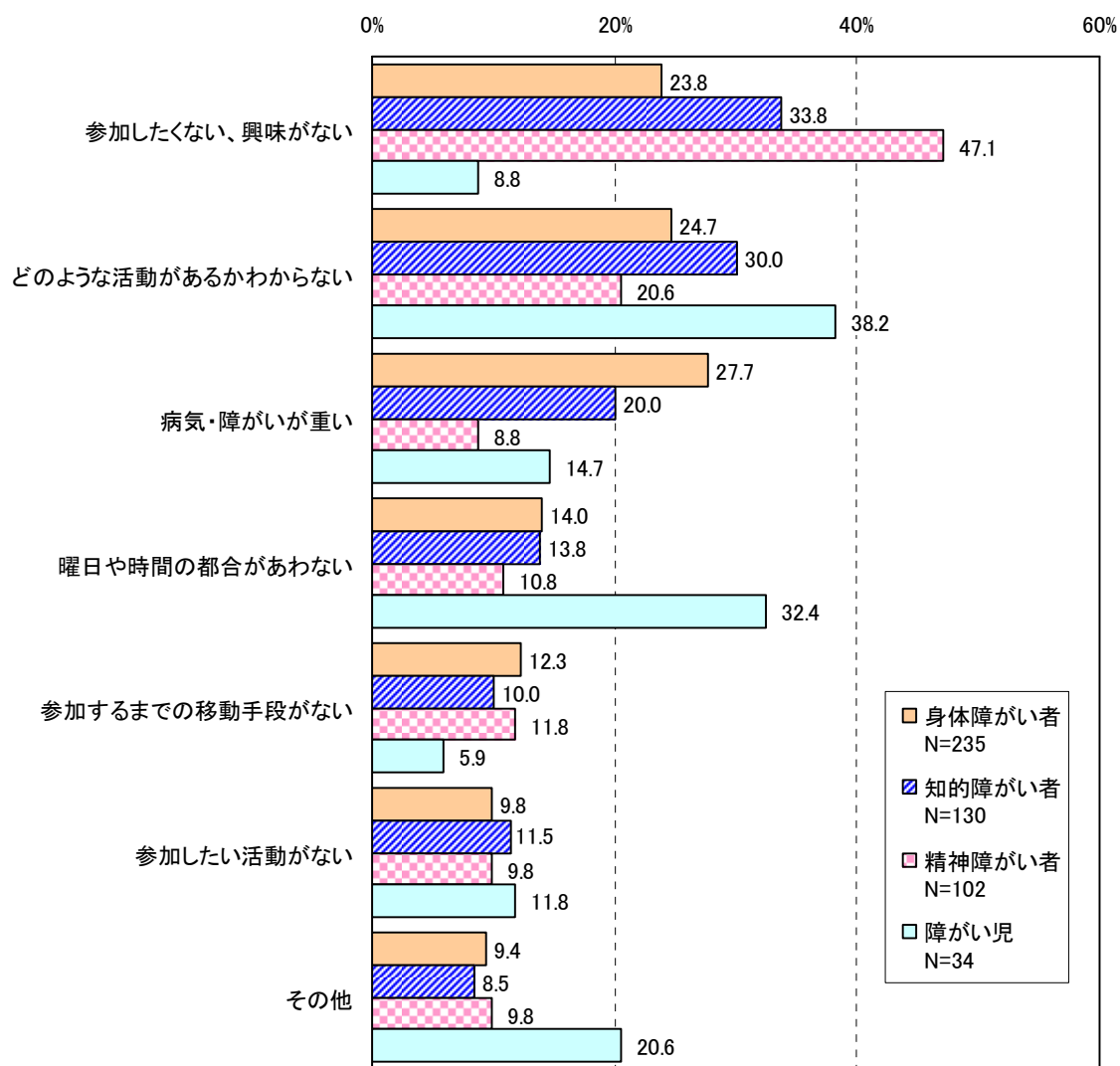
- スポーツや文化活動については「参加している」と回答した人は全体の15.2%、「参加したいが、していない」と回答した人は全体の18.9%となっている

問7-1【問7で2~3のいずれかに○をつけた方のみお答えください】  
参加していない理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)



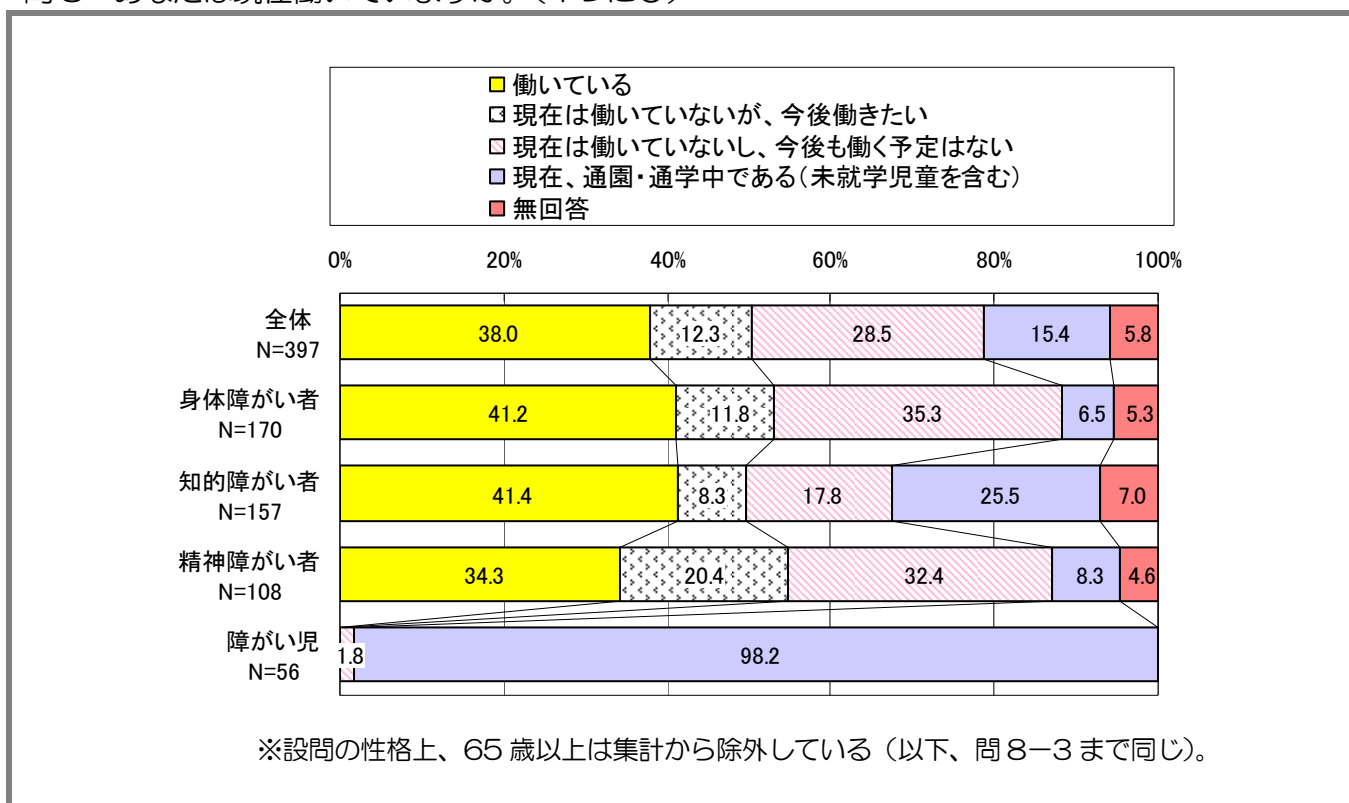
- 問7で「参加したいが、していない」または「参加しない」と回答した人に参加していない理由を尋ねたところ、「参加したくない、興味がない」が全体の31.5%と最も多く、「どのような活動があるかわからない」が25.8%でそれに続いている。
- 精神障がい者については、「参加したくない、興味がない」という回答が47.1%と、他の障がい種別に比べ高い割合となっている（次ページ参照）。

【障がい種別クロス集計結果】



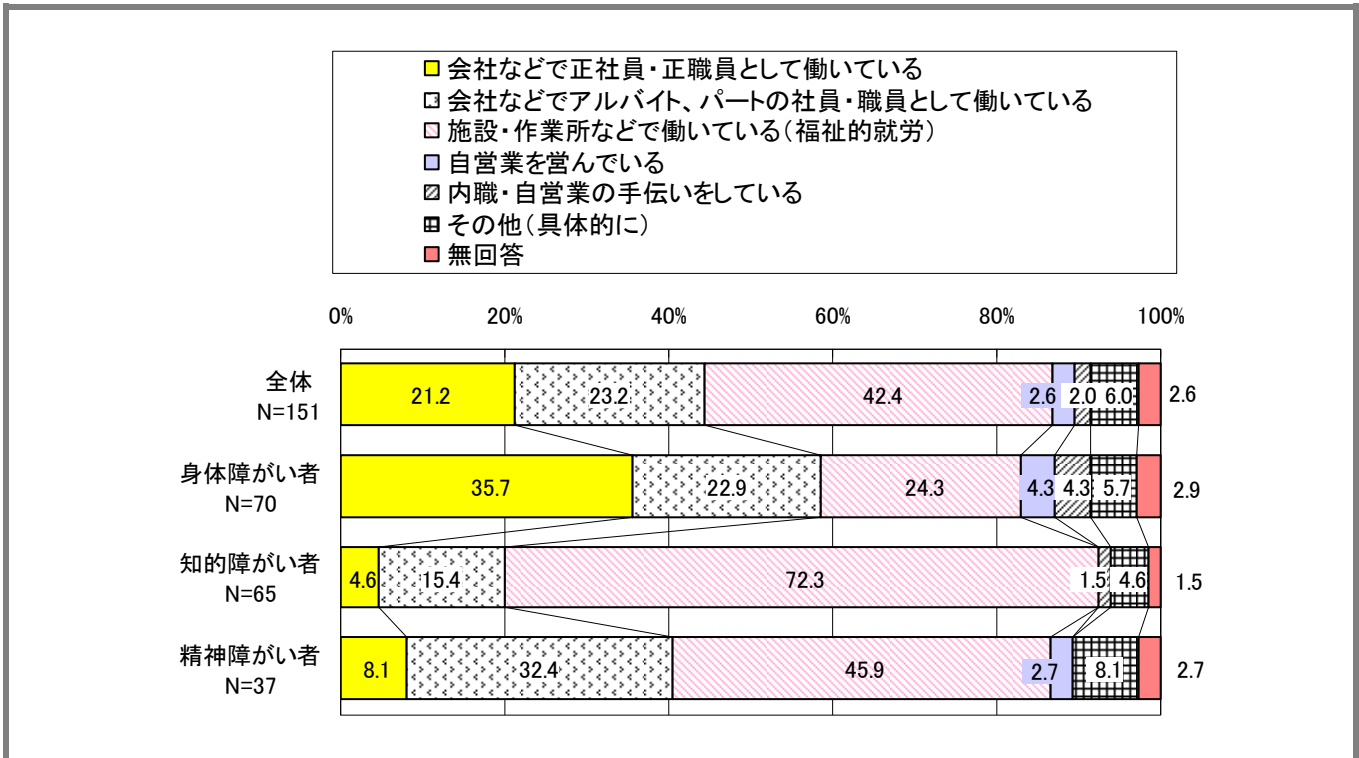
### Ⅲ 就労・就学状況や障がいのある子どもの教育について

問8 あなたは現在働いていますか。(1つに○)



- 現在「働いている」と回答した人は全体の38.0%で、「現在は働いていないが、今後働きたい」と回答した人は12.3%となっている。
- 障がい種別に見て、「現在は働いていないが、今後働きたい」と回答した人の割合が最も高かったのは精神障がい者で、20.4%となっている。

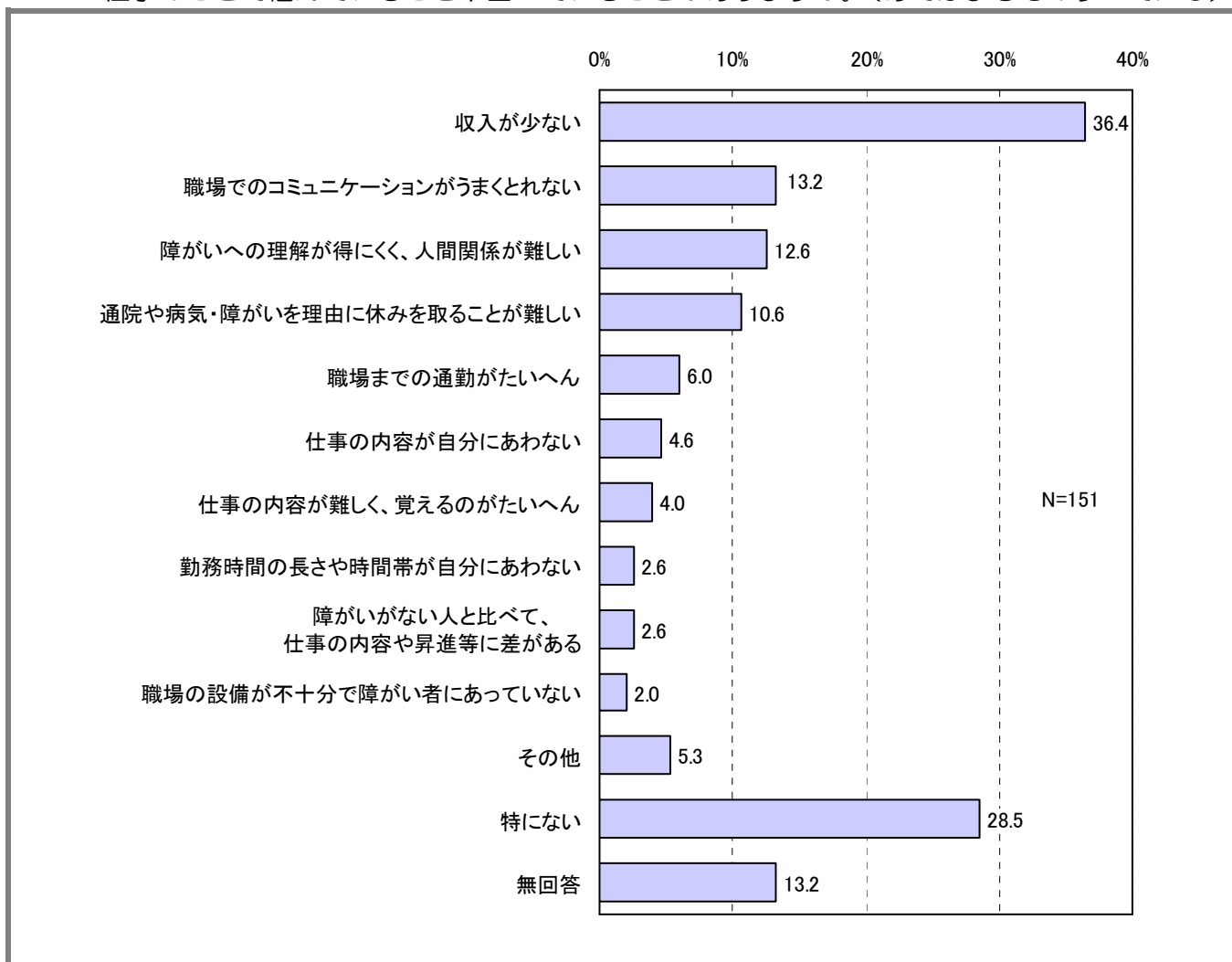
問8-1【問8で1に○をつけた方のみお答えください】  
あなたの就業形態はどれにあてはまりますか。(1つに○)



- 問8で「働いている」と回答した人にその就業形態を尋ねたところ、身体障がい者では「会社などで正社員・正職員として働いている」が35.7%と最も多くなっているが、知的・精神障がい者では「施設・作業所などで働いている(福祉的就労)」がともに最も高い割合(知的:72.3%、精神:45.9%)となっている。

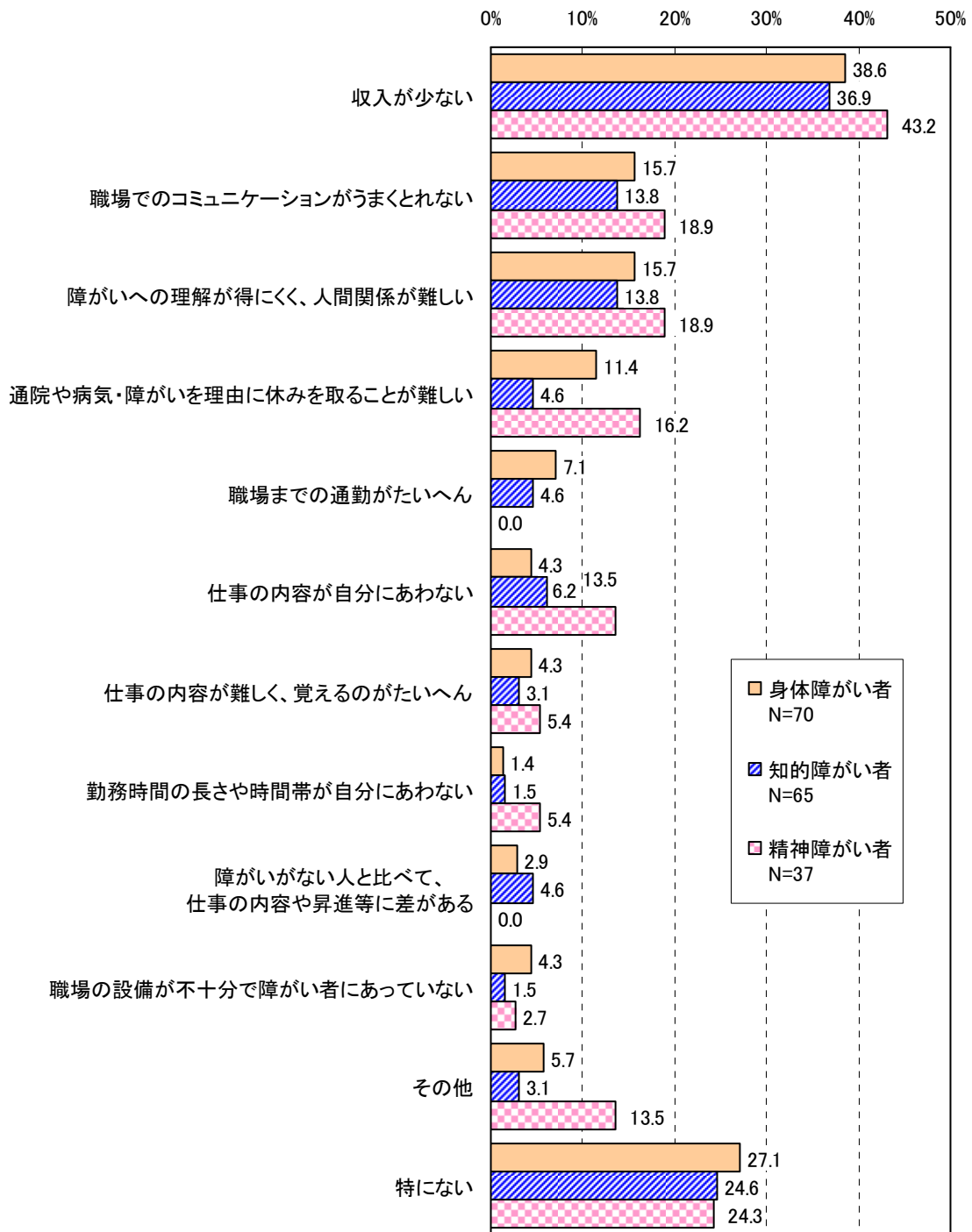
## 問8-2【問8で1に○をつけた方のみお答えください】

仕事のことで悩んでいることや困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)



- 問8で「働いている」と回答した人に、仕事のことで悩んでいることや困っていることがあるか尋ねたところ、全体の 58.3%は何らかの悩みや困っていることを回答しており、いずれの障がい種別においても「収入が少ない」という回答が最も高い割合となっている(次ページ参照)。

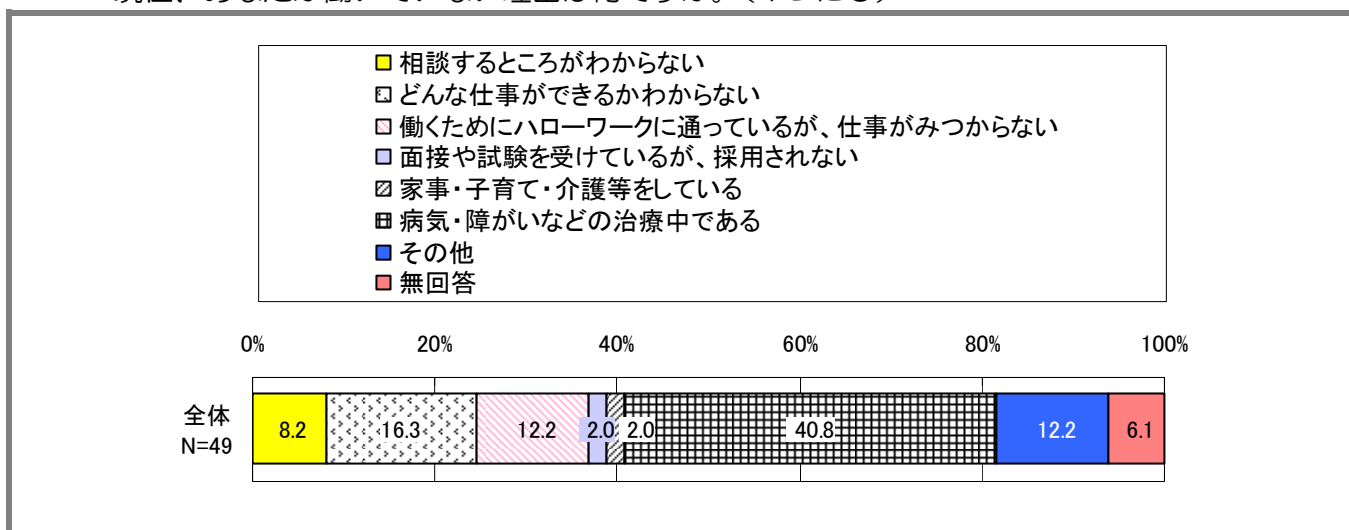
【障がい種別クロス集計結果】





## 問8-3【問8で2に○をつけた方のみお答えください】

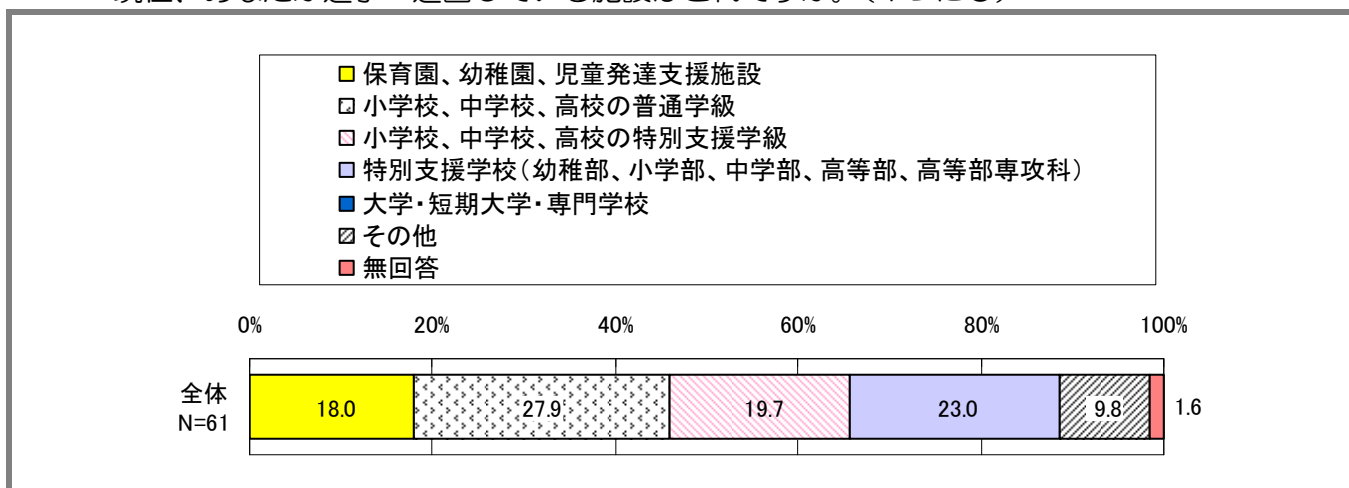
現在、あなたが働いていない理由は何ですか。(1つに○)



- 問8で「現在は働いていないが、今後働きたい」と回答した人に、働いていない理由を尋ねたところ、40.8%の人は「病気・障がいなどの治療中である」と回答しており、それ以外の理由としては「どんな仕事ができるかわからない」(16.3%)という回答が最も多くなっている。

## 問8-4【問8で4に○をつけた方のみお答えください】

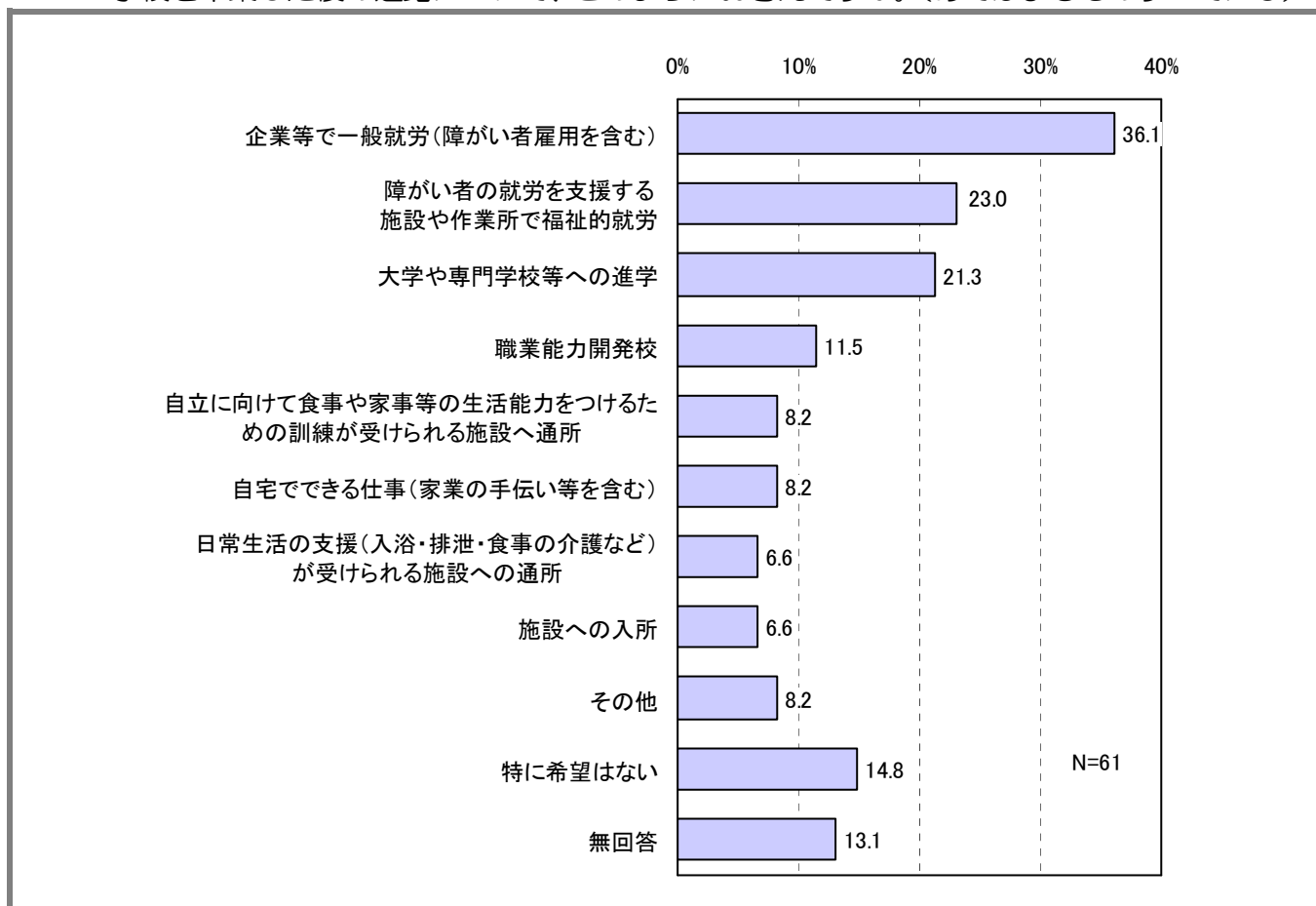
現在、あなたが通学・通園している施設はどれですか。(1つに○)



- 問8で「現在、通園・通学中である(未就学児童を含む)」と回答した人にその施設を尋ねたところ、「小学校、中学校、高校の普通学級」が27.9%と最も多く、「特別支援学校」が23.0%でそれに続いている。

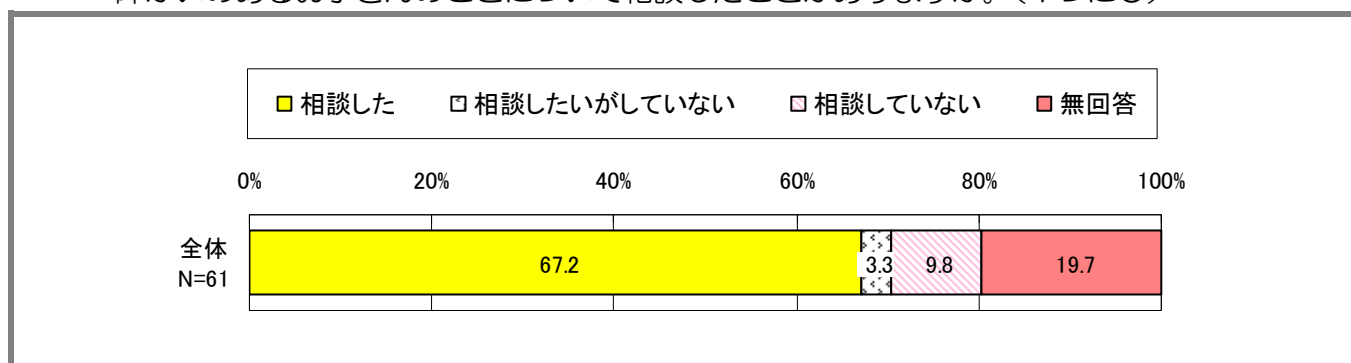
## 問8-5【問8で4に○をつけた方のみお答えください】

学校を卒業した後の進路について、どのようにお考えですか。(あてはまるものすべてに○)



- 問8で「現在、通園・通学中である(未就学児童を含む)」と回答した人に卒業後の進路について尋ねたところ、「企業等で一般就労(障がい者雇用を含む)」が全体の36.1%と最も多く、以下、「障がい者の就労を支援する施設や作業所で福祉的就労」(23.0%)、「大学や専門学校等への進学」(21.3%)と続いている。

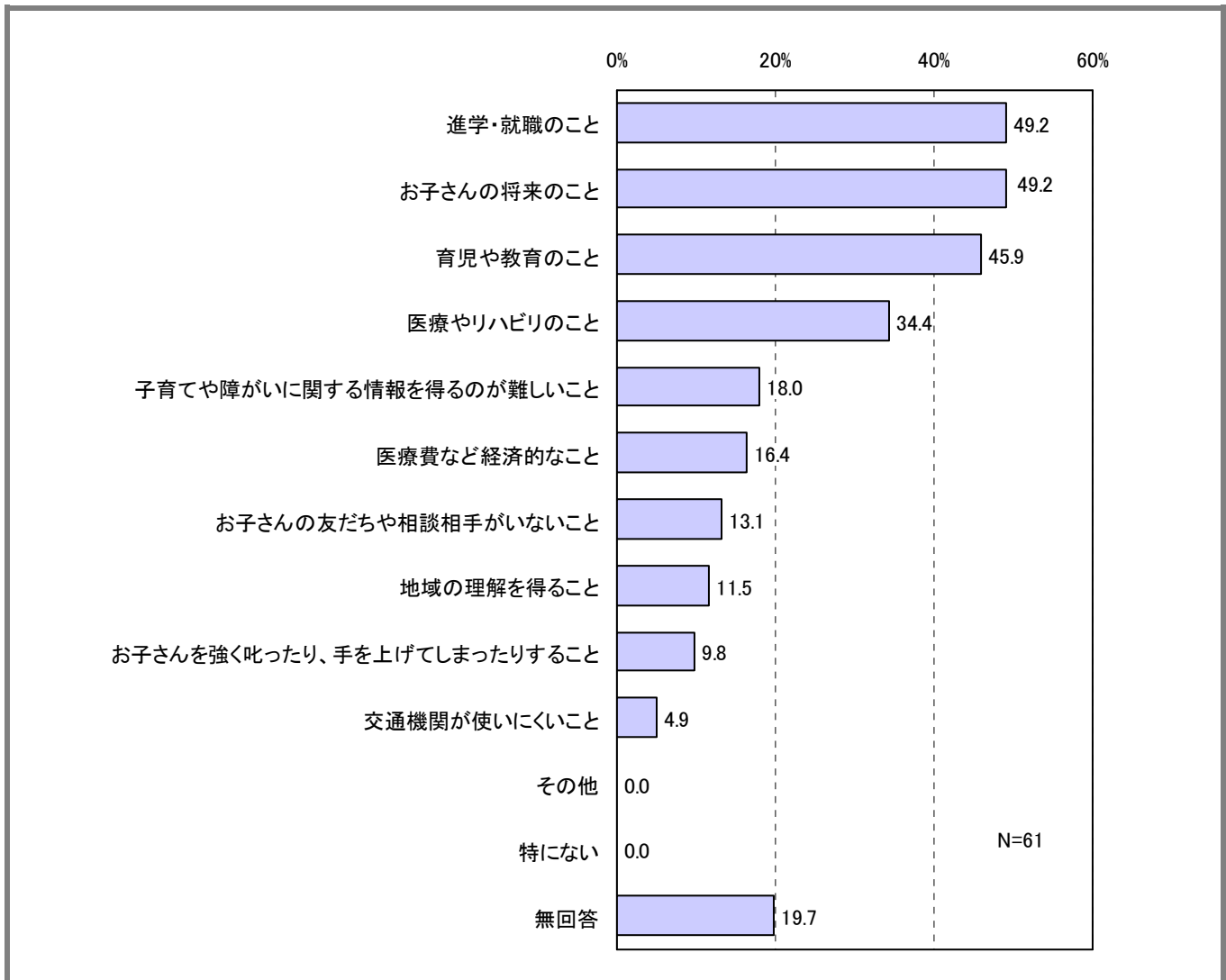
問8-6【問8で4に○をつけた方の保護者にお尋ねします】  
障がいのあるお子さんのことについて相談したことがありますか。(1つに○)



- 問8で「現在、通園・通学中である（未就学児童を含む）」と回答した人の保護者に障がいのあるお子さんのことについて相談したことがあるか尋ねたところ、全体の67.2%が「相談した」と回答しており、「相談したいがしていない」と回答した人は3.3%であった。

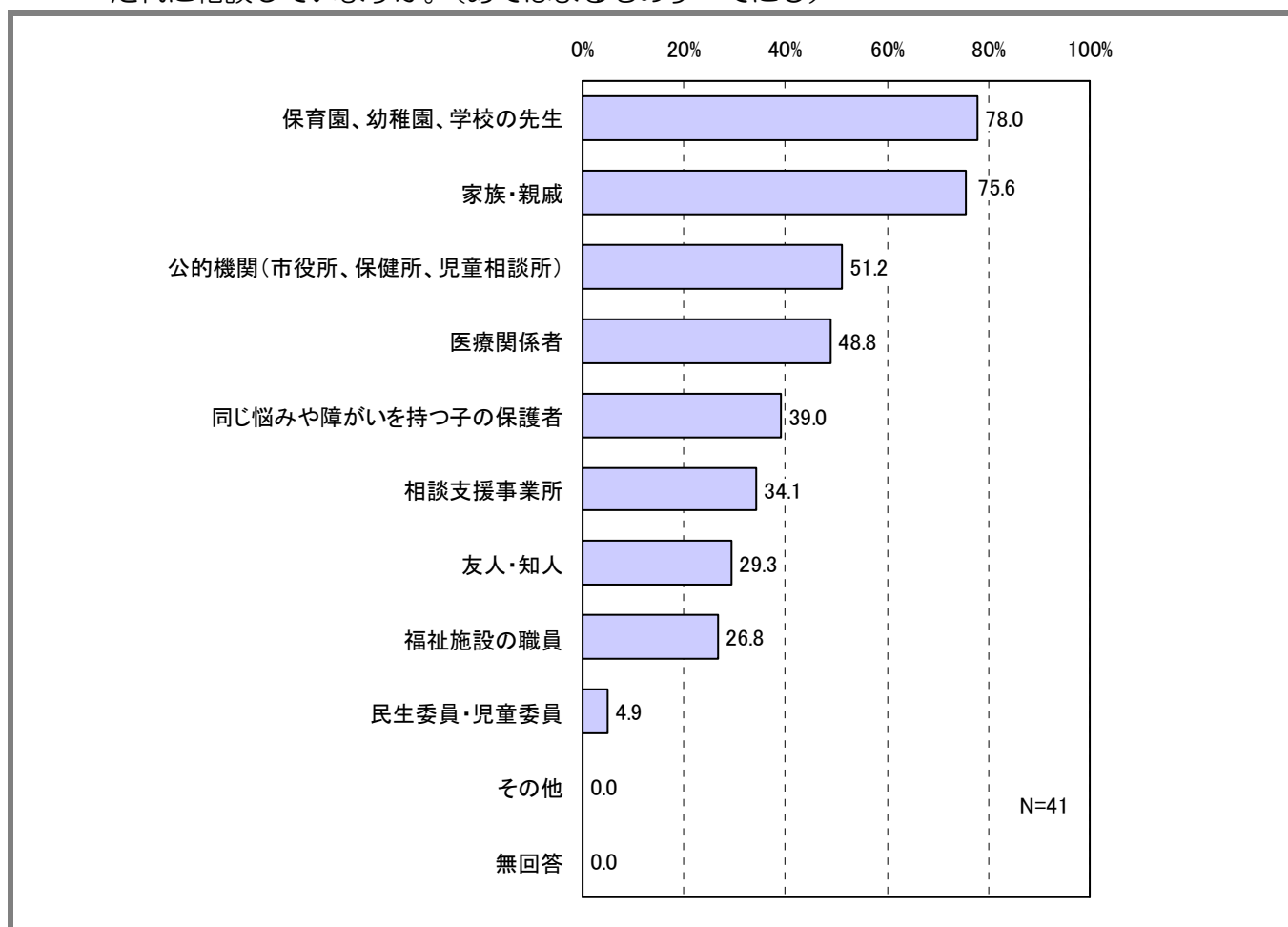
問8-7【問8で4に○をつけた方の保護者にお尋ねします】

障がいのあるお子さんのことで相談したい内容は何か。(あてはまるものすべてに○)



- 問8で「現在、通園・通学中である（未就学児童を含む）」と回答した人の保護者に障がいのあるお子さんのことで相談したい内容について尋ねたところ、「進学・就職のこと」と「お子さんの将来のこと」と回答した人がともに 49.2%と多く、次いで、「育児や教育のこと」(45.9%)、「医療やリハビリのこと」(34.4%)と続いている。

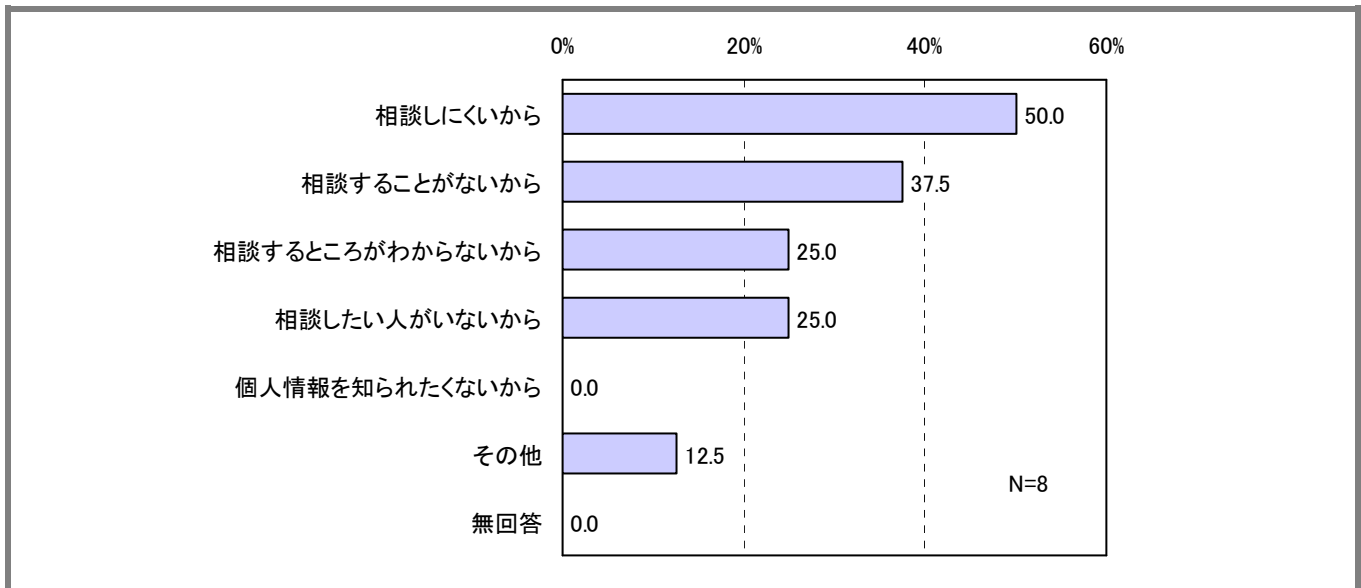
問8-8【問8-6で「1. 相談した」と回答した方にお尋ねします】  
だれに相談していますか。(あてはまるものすべてに○)



- 問8-6で「相談した」と回答した人に相談先を尋ねたところ、「保育園、幼稚園、学校の先生」(78.0%)と「家族・親戚」(75.6%)が多く、次いで、「公的機関(市役所、保健所、児童相談所)」(51.2%)や「医療関係者」(48.8%)が続いている。

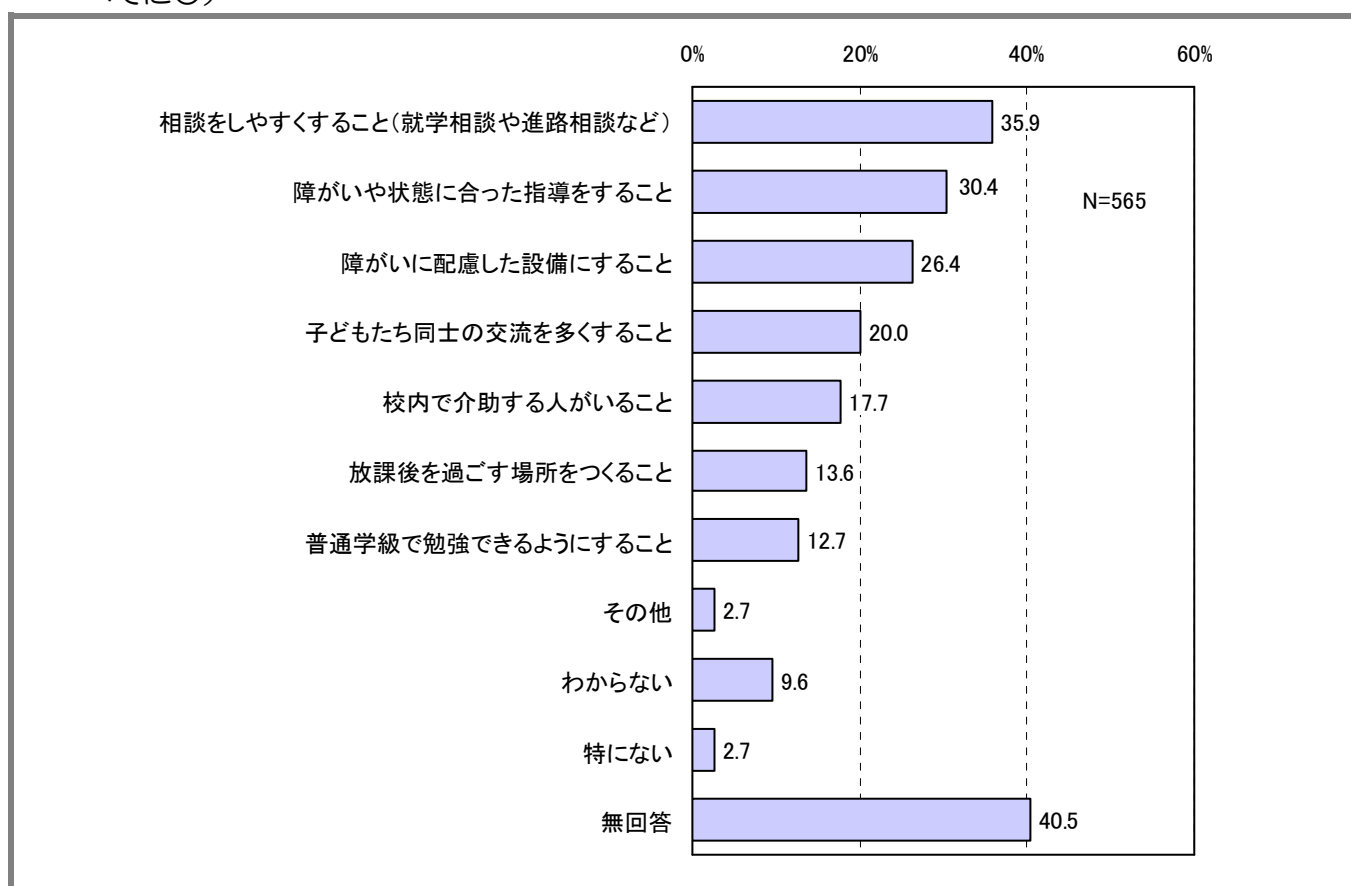
問8-9【問8-6で「2. 相談したいがしていない」「3. 相談していない」と回答した方にお尋ねします】

その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



- 問8-6で「2. 相談したいがしていない」と回答した人にその理由を尋ねたところ、「相談しにくいから」(50.0%)という回答が最も多く、「相談することがないから」(37.5%)がそれに続いている。

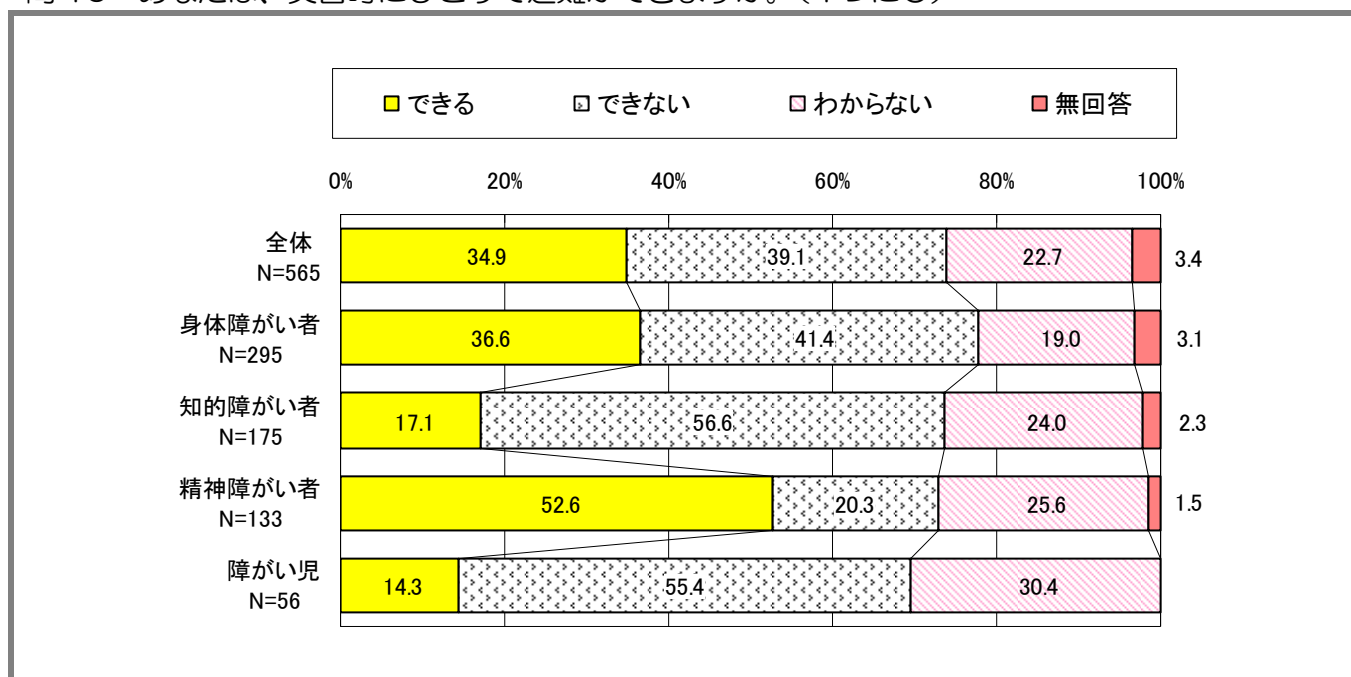
問9 障がいのある子どもの教育環境について、必要と思うものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)



- 障がいのある子どもの教育環境について、必要と思うものとしては、「相談しやすくすること(就学相談や進路相談など)」が全体の35.9%と最も多く、以下、「障がいや状態に合った指導をすること」(30.4%)、「障がいに配慮した設備にすること」(26.4%)と続いている。

## IV 災害対策について

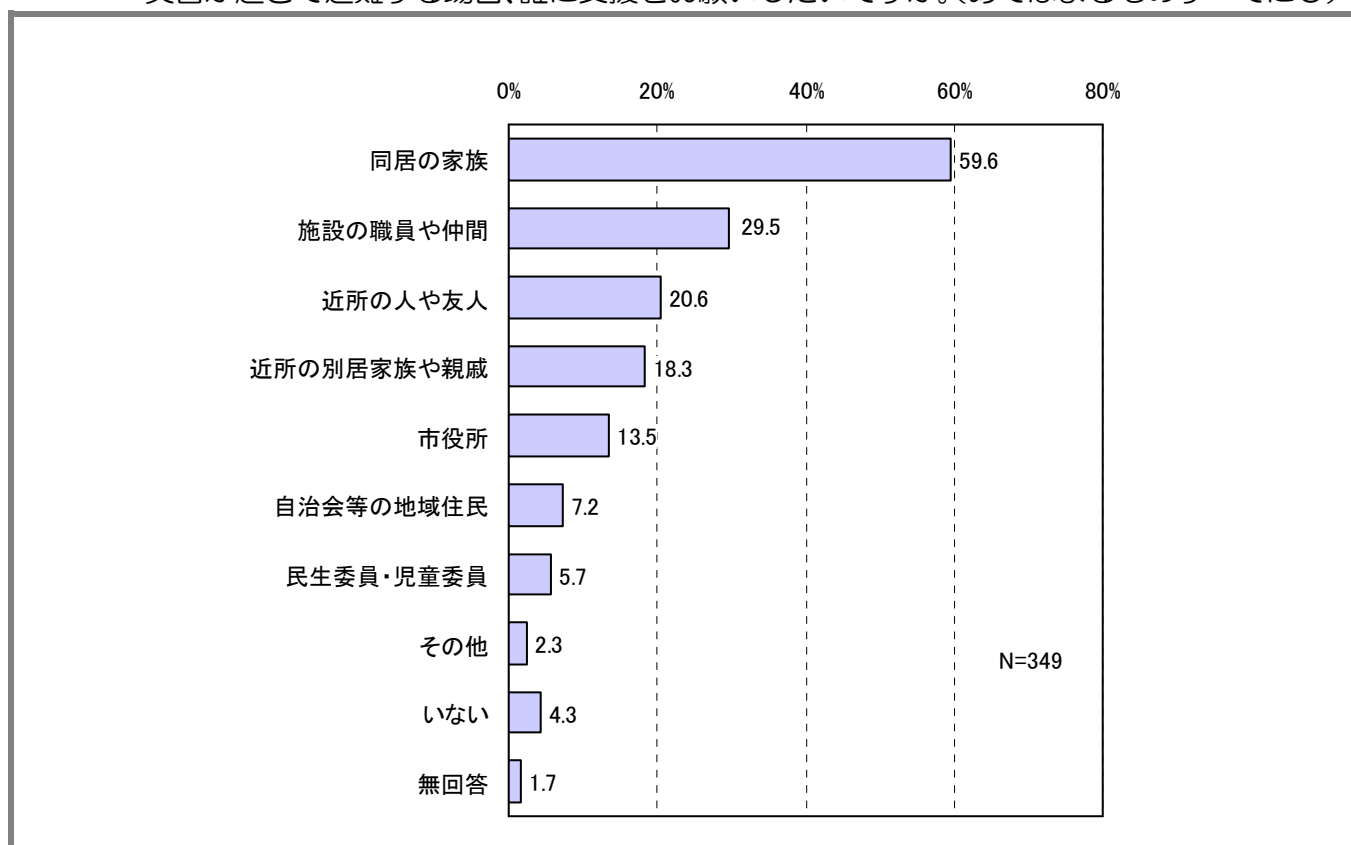
問 10 あなたは、災害時にひとりで避難ができますか。(1つに○)



- 災害時にひとりで避難「できる」と回答した人は全体の 34.9%で、障がい種別に見ると、他の障がい種別に比べ、知的障がい者の割合 (17.1%) が低くなっている。

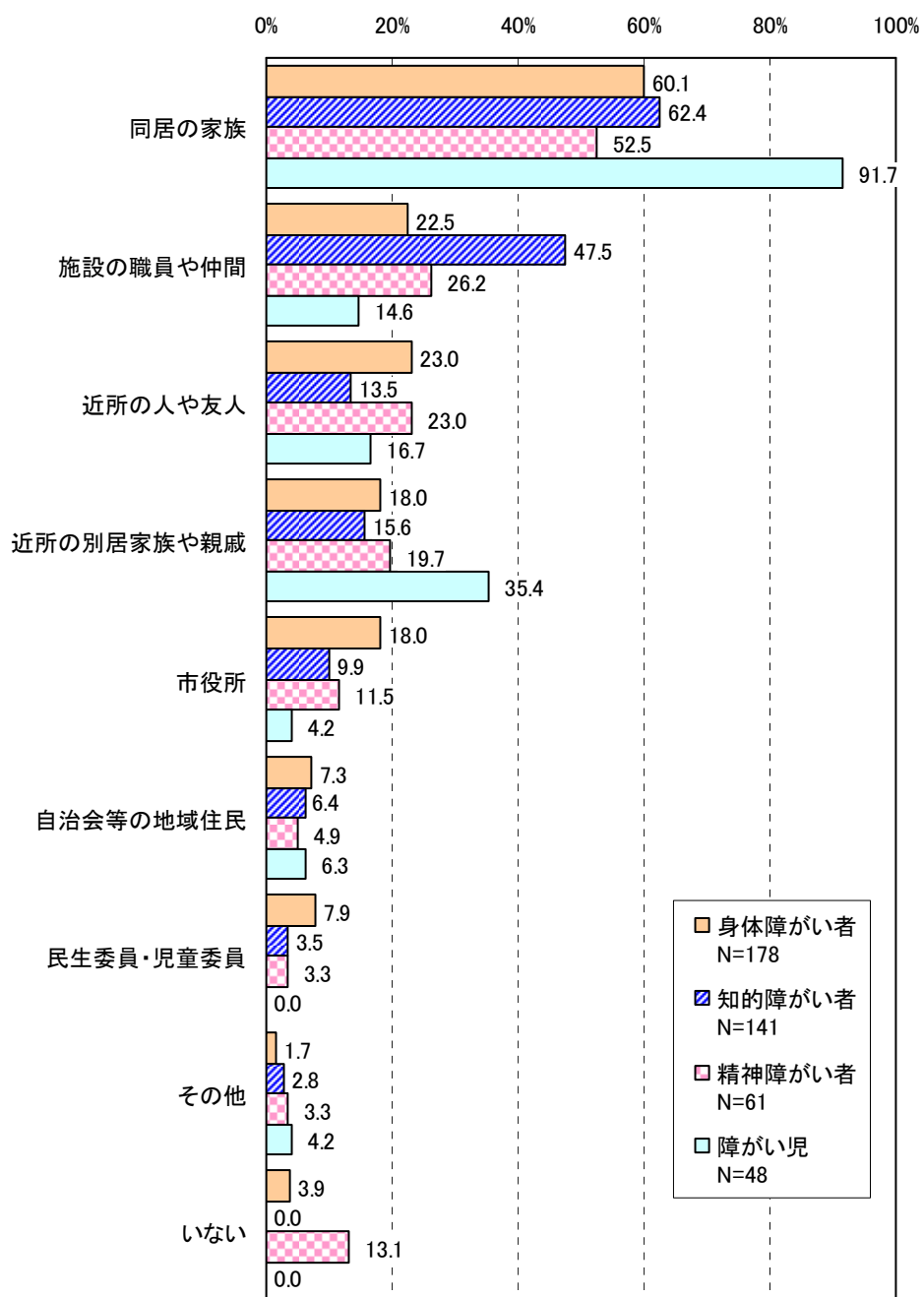


問10-1【問10で「2. できない」「3. わからない」と回答した方にお尋ねします】  
災害が起きて避難する場合、誰に支援をお願いしたいですか。(あてはまるものすべてに○)

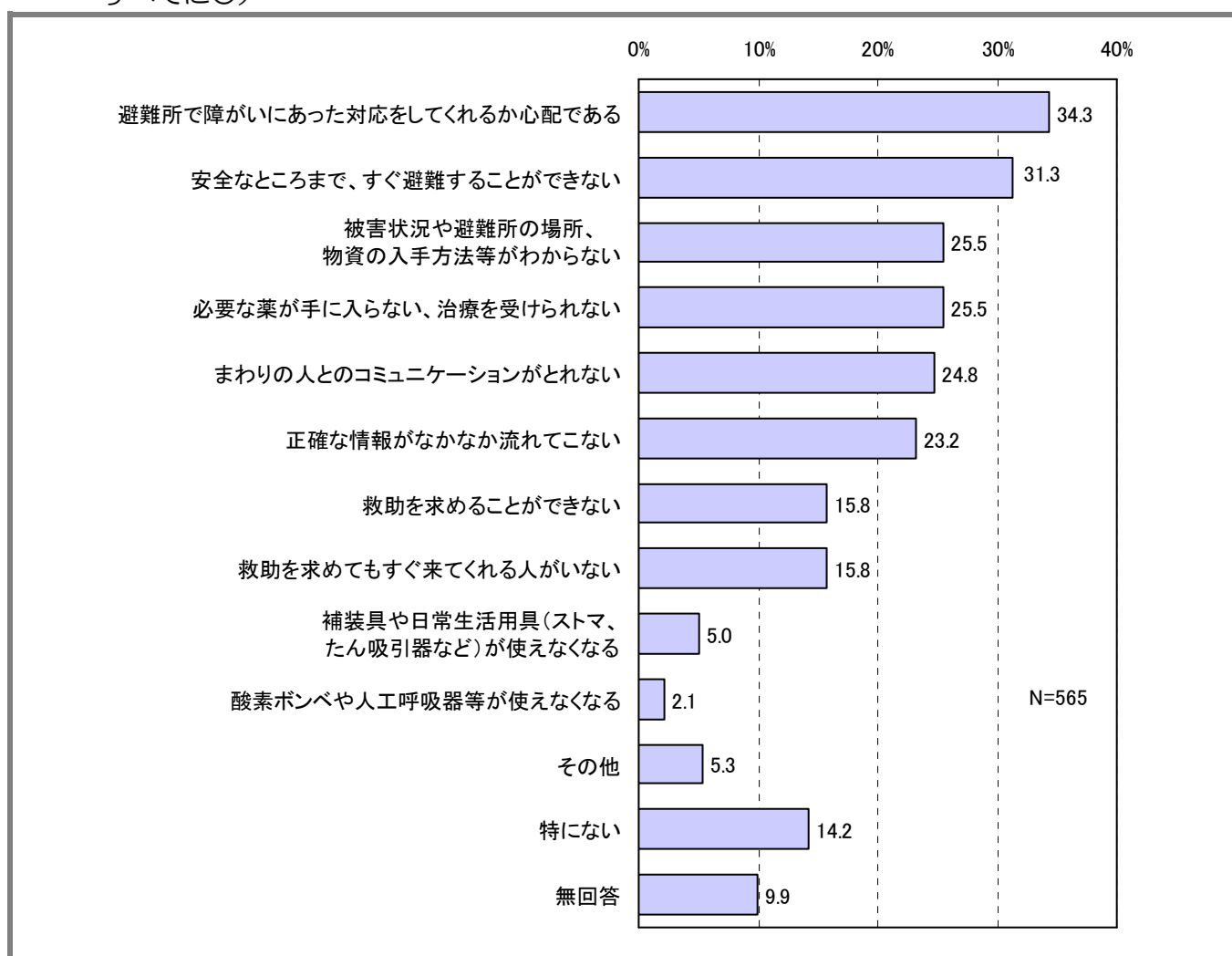


- 問10で災害時にひとりで避難が「できない」「(できるかどうか) わからない」と回答した人に、避難する際に誰に支援をお願いしたいか尋ねたところ、「同居の家族」という回答割合が全体の59.6%と最も高く、以下、「施設の職員や仲間」(29.5%)「近所の人や友人」(20.6%)、「近所の別居家族や親戚」(18.3%)、「市役所」(13.5%)と続いている。
- 障がい種別に見ると、知的障がい者については、他の障がい種別に比べ「施設の職員や仲間」(47.5%)、障がい児については「近所の別居家族や親戚」(35.4%)という回答割合が高くなっている(次ページ参照)。

【障がい種別クロス集計結果】

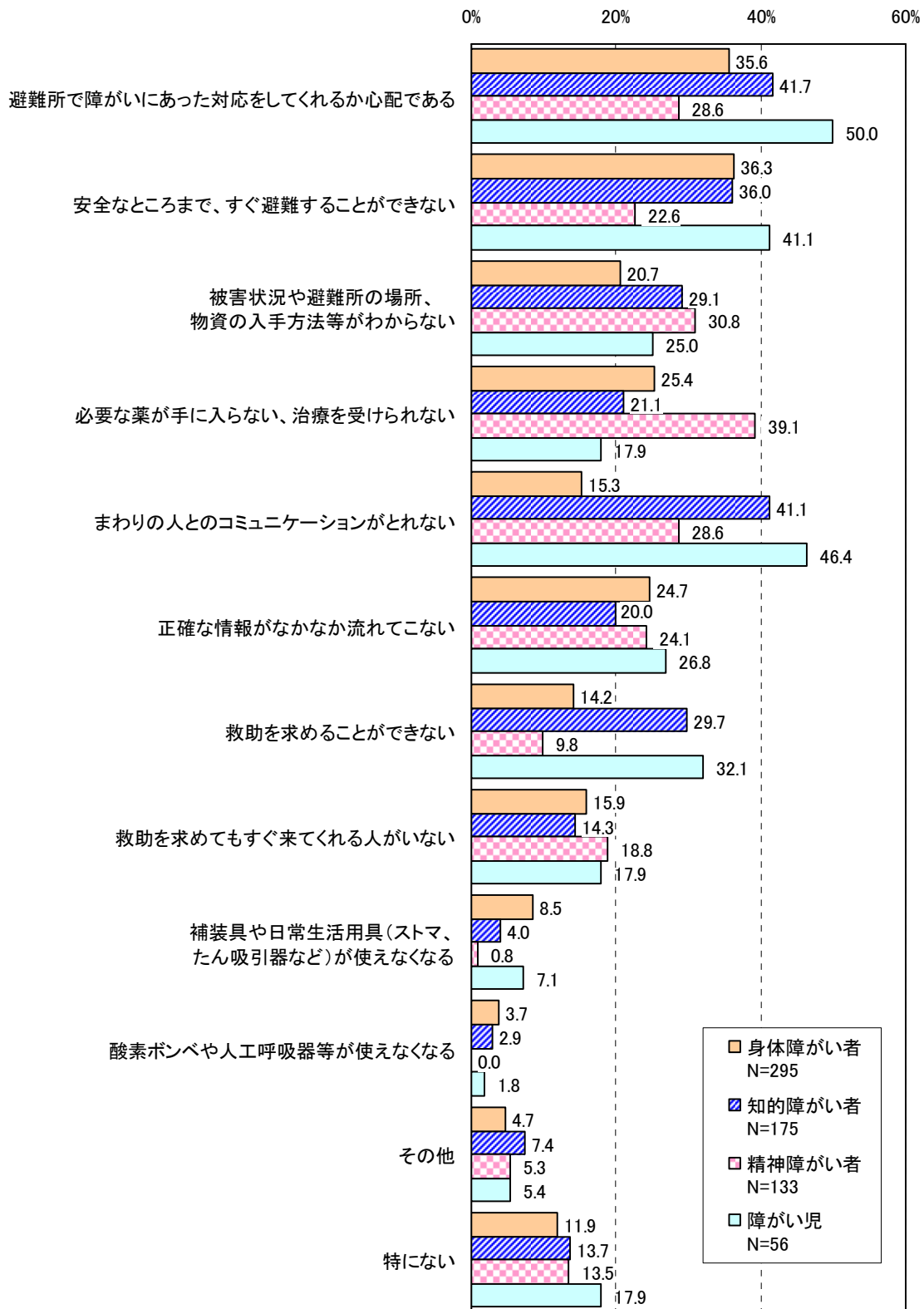


問11 地震や台風等の大きな災害が起きた場合、どのようなことが心配ですか。(あてはまるものすべてに○)

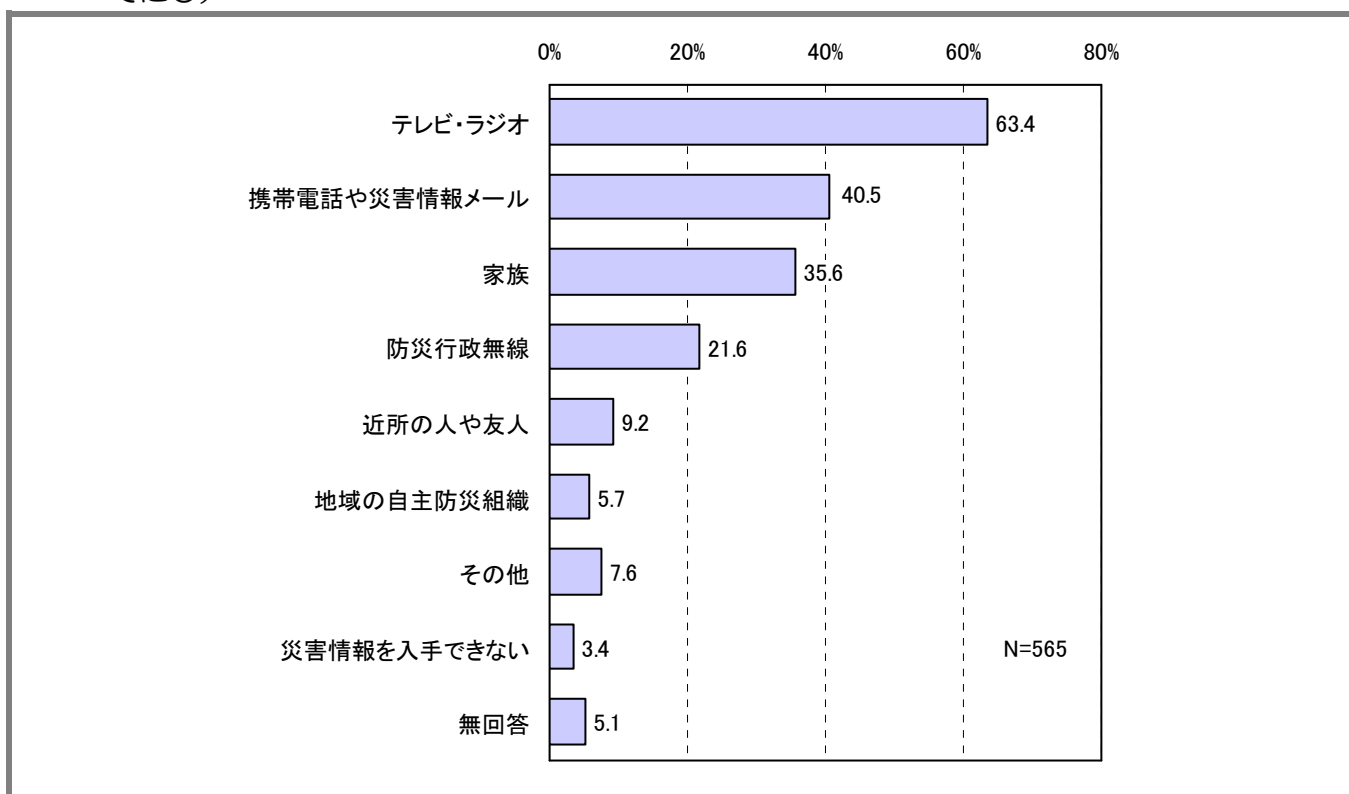


- 地震や台風等の大きな災害が起きた場合の心配ごとについては、「避難所で障がいがあった対応をしてもらえるか心配である」が全体の34.3%と最も多く、以下、「安全なところまで、すぐ避難することができない」(31.3%)、「被害状況や避難所の場所、物資の入手方法等がわからない」、「必要な薬が手に入らない、治療を受けられない」(ともに25.5%)、「まわりの人とのコミュニケーションがとれない」(24.8%)、「正確な情報がなかなか流れてこない」(23.2%)と続いている。
- 障がい種別に見ると、身体障がい者については「安全なところまで、すぐ避難することができない」(36.3%)と「避難所で障がいがあった対応をしてもらえるか心配である」(35.6%)、知的障がい者と障がい児については、「避難所で障がいがあった対応をしてもらえるか心配である」(知的：41.7%、障がい児：50.0%)と「まわりの人とのコミュニケーションがとれない」(知的：41.1%、障がい児：46.4%)、精神障がい者については「必要な薬が手に入らない、治療を受けられない」(39.1%)がそれぞれ上位にあがっている(次ページ参照)。

【障がい種別クロス集計結果】

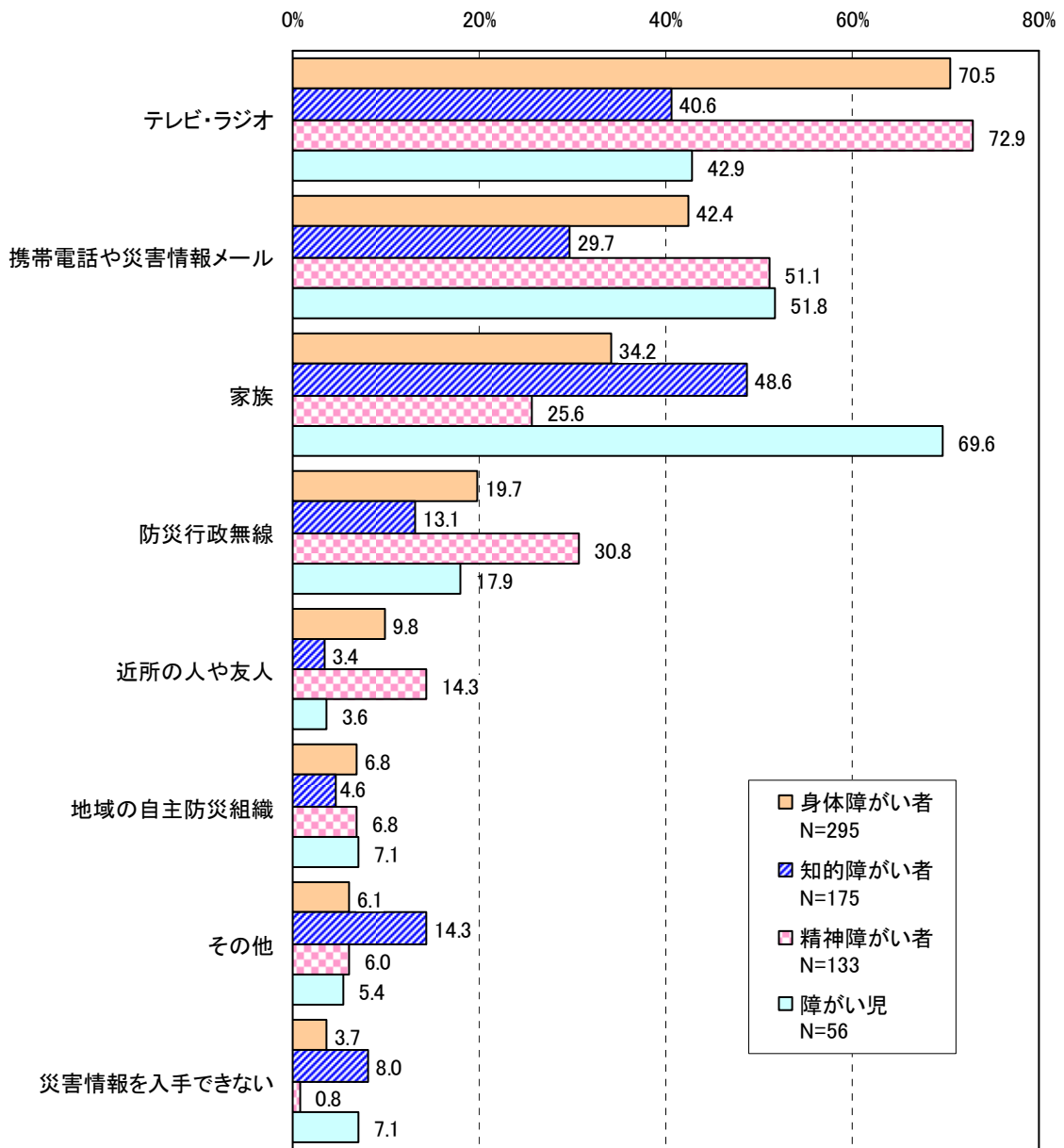


問12 あなたは災害情報や避難情報をどのような手段で入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

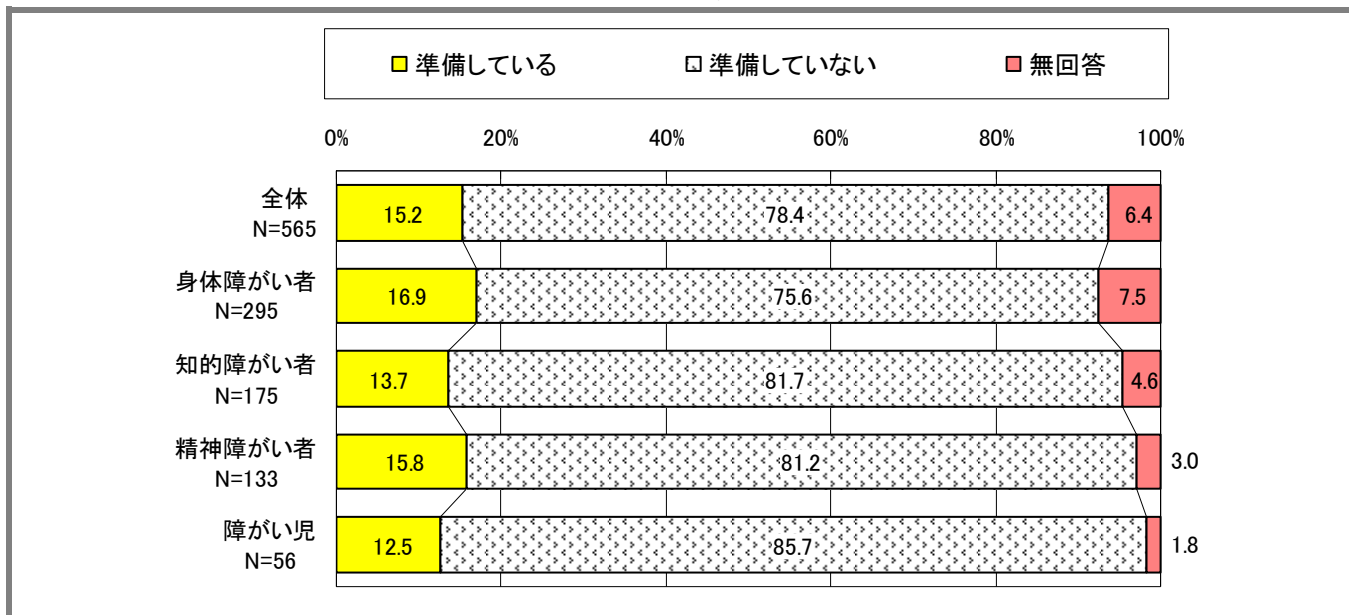


- 災害情報や避難情報の入手先については、「テレビ・ラジオ」が全体の 63.4%と最も多く、「携帯電話や災害情報メール」が 40.5%、「家族」が 35.6%でそれに続いている。
- 障がい種別に見ると、知的障がい者や障がい児では他の障がい種別に比べ「家族」(知的:48.6%、障がい児:69.6%)への依存度が高いことがうかがえる(次ページ参照)。

【障がい種別クロス集計結果】

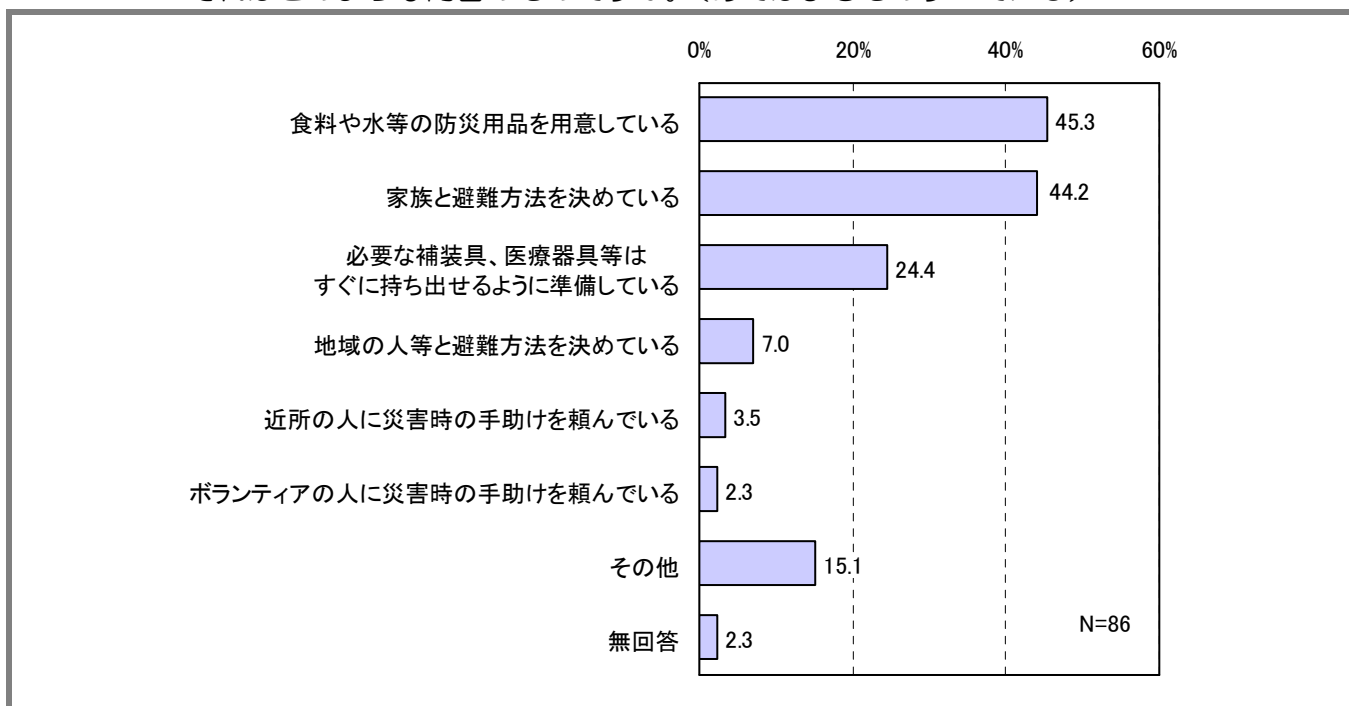


問 13 あなたは、災害が起きた時のために事前に準備をしていますか。(1つに○)



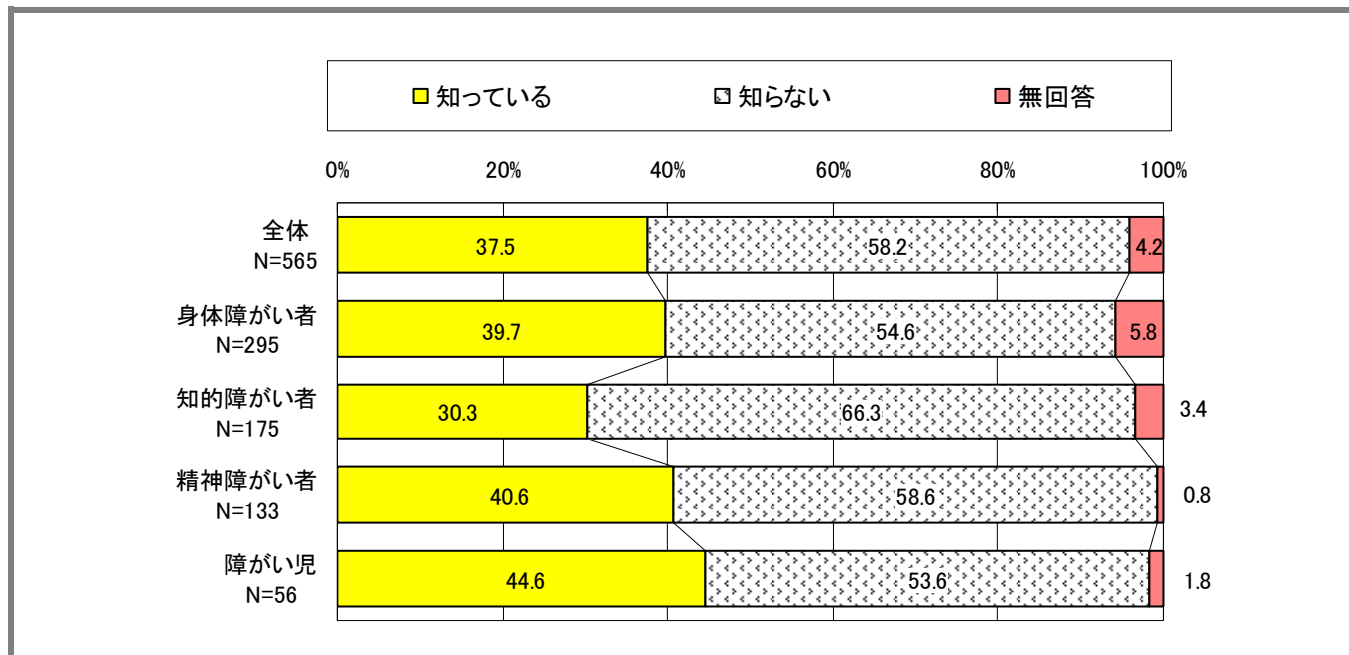
● 災害が起きた時のために「準備している」と回答した人は全体の15.2%であった。

問 13-1 【問 13 で1に○をつけた方のみお答えください】  
それはどのような内容のものですか。(あてはまるものすべてに○)



● 問13で災害が起きた時のために「準備している」と回答した人に、その内容を尋ねたところ、「食料や水等の防災用品を用意している」が全体の45.3%と最も多く、「家族と避難方法を決めている」が44.2%でそれに続いている。

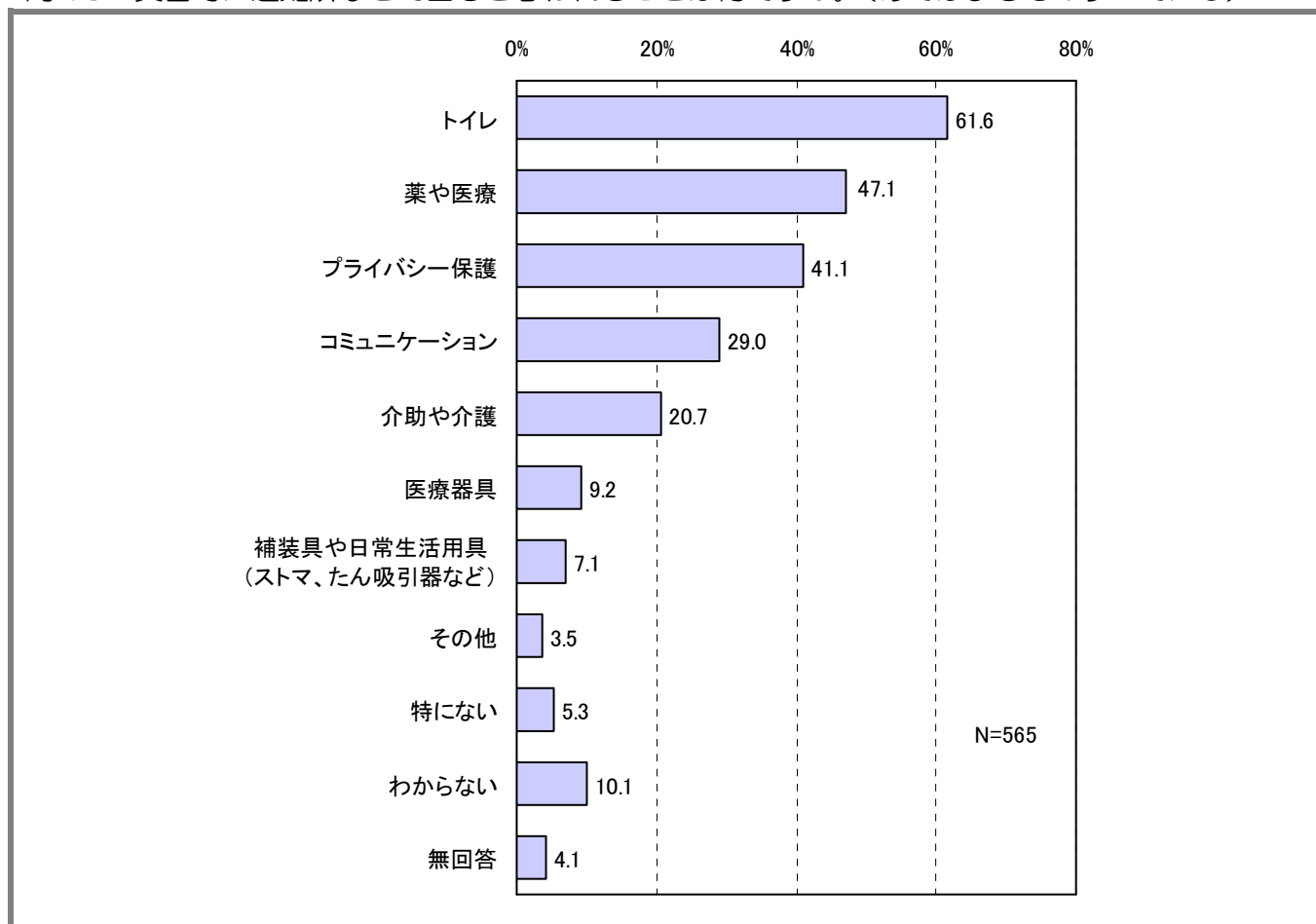
問 14 あなたは、災害時の避難先を知っていますか。(1つに○)



- 災害時の避難先を「知っている」と回答した人は全体の 37.5%で、障がい種別に見ると、知的障がい者の認知度がやや低くなっている。

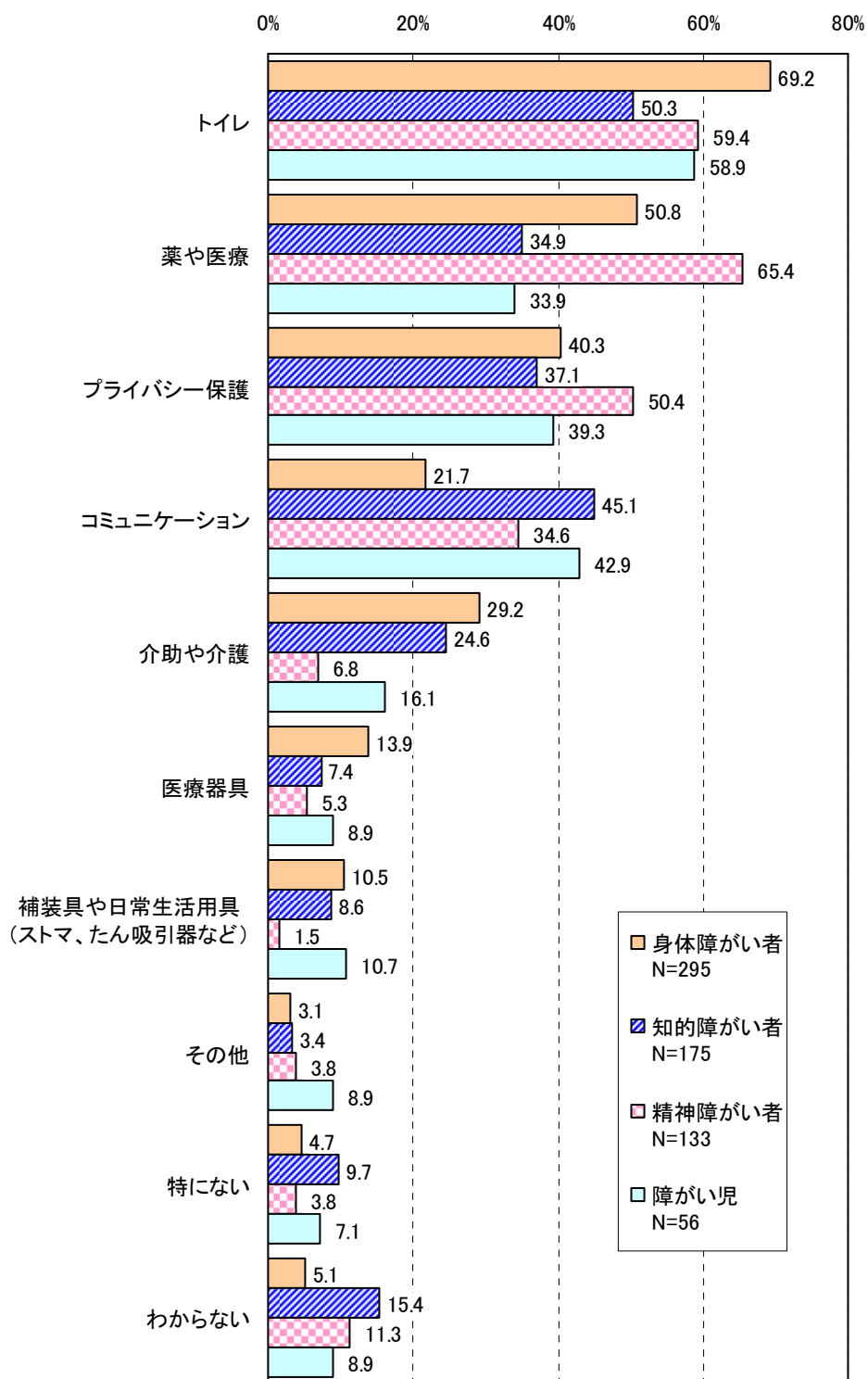


## 問 15 災害時に避難所などで困ると思われることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)



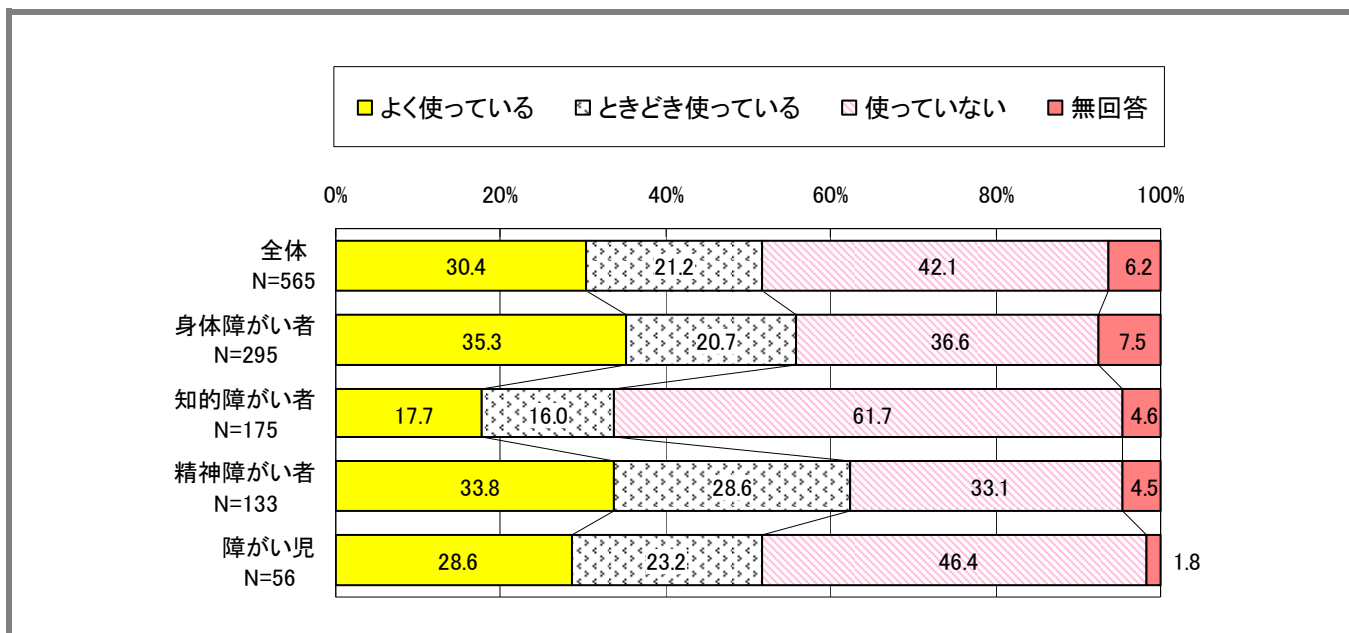
- 災害時に避難所などで困ると思われることについては、「トイレ」(61.6%)や「薬や医療」(47.1%)、「プライバシー保護」(41.1%)が上位にあがっている。
- 障がい種別に見ると、「トイレ」はいずれの障がい種別についても上位にあがっているが、身体障がい者と精神障がい者では「薬や医療」(身体：50.8%、精神：65.4%)、知的障がい者と障がい児では「コミュニケーション」(知的：45.1%、障がい児：42.9%)の回答割合がそれぞれ比較的高い割合となっている(次ページ参照)。

【障がい種別クロス集計結果】



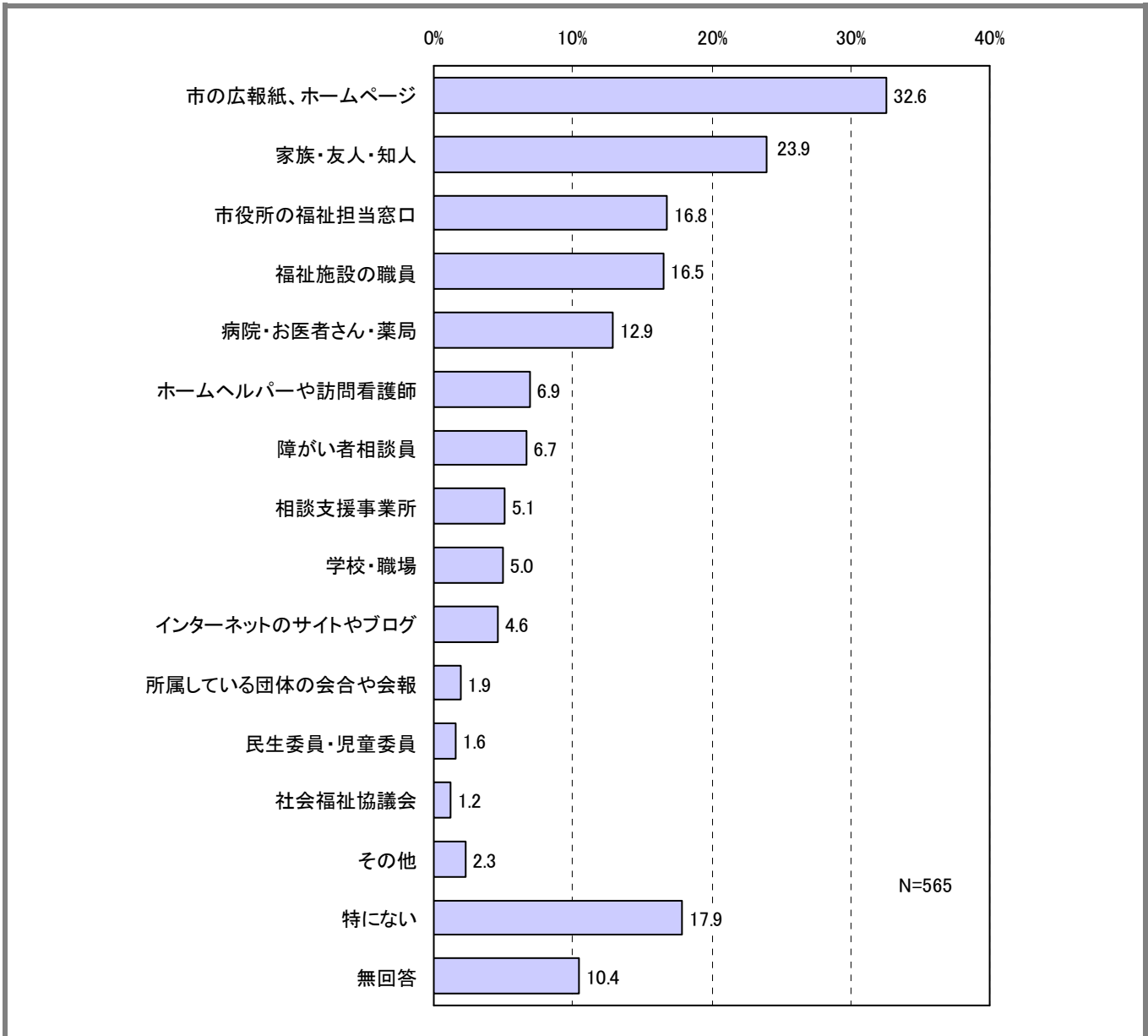
## V 情報収集について

問 16 あなたはふだん、携帯電話やメール、インターネットを使っていますか。(1つに○)



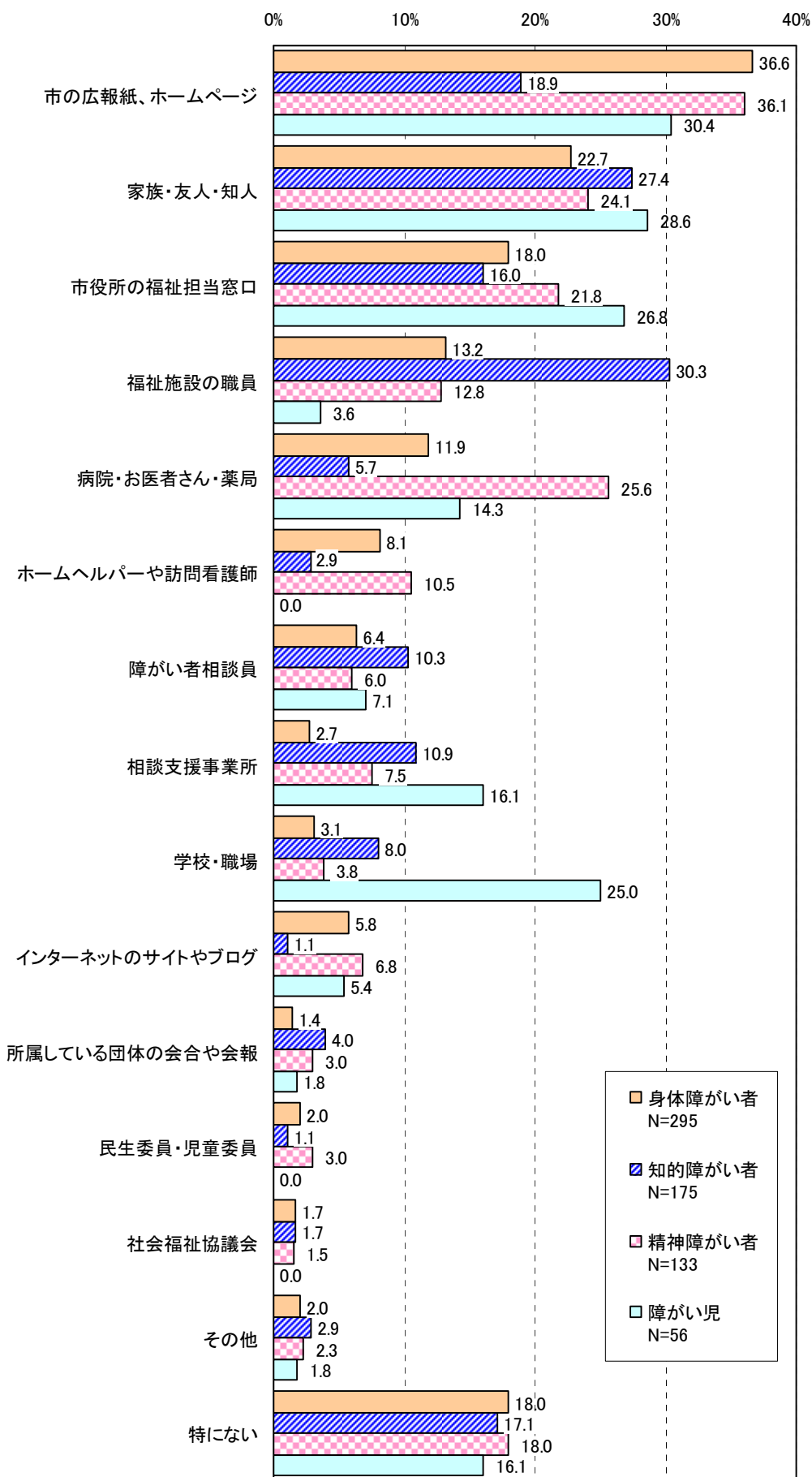
- 携帯電話やメール、インターネットを「よく使っている」「ときどき使っている」と回答した人の割合は全体の 51.6%、「使っていない」と回答した人の割合（42.1%）を 9.5 ポイント上回っている。
- 障がい種別に見ると、他の障がい種別に比べ、知的障がい者の使用率がやや低くなっている。

問 17 市が実施しているいろいろな福祉施策についての情報は何で知りますか。(あてはまるものすべてに○)



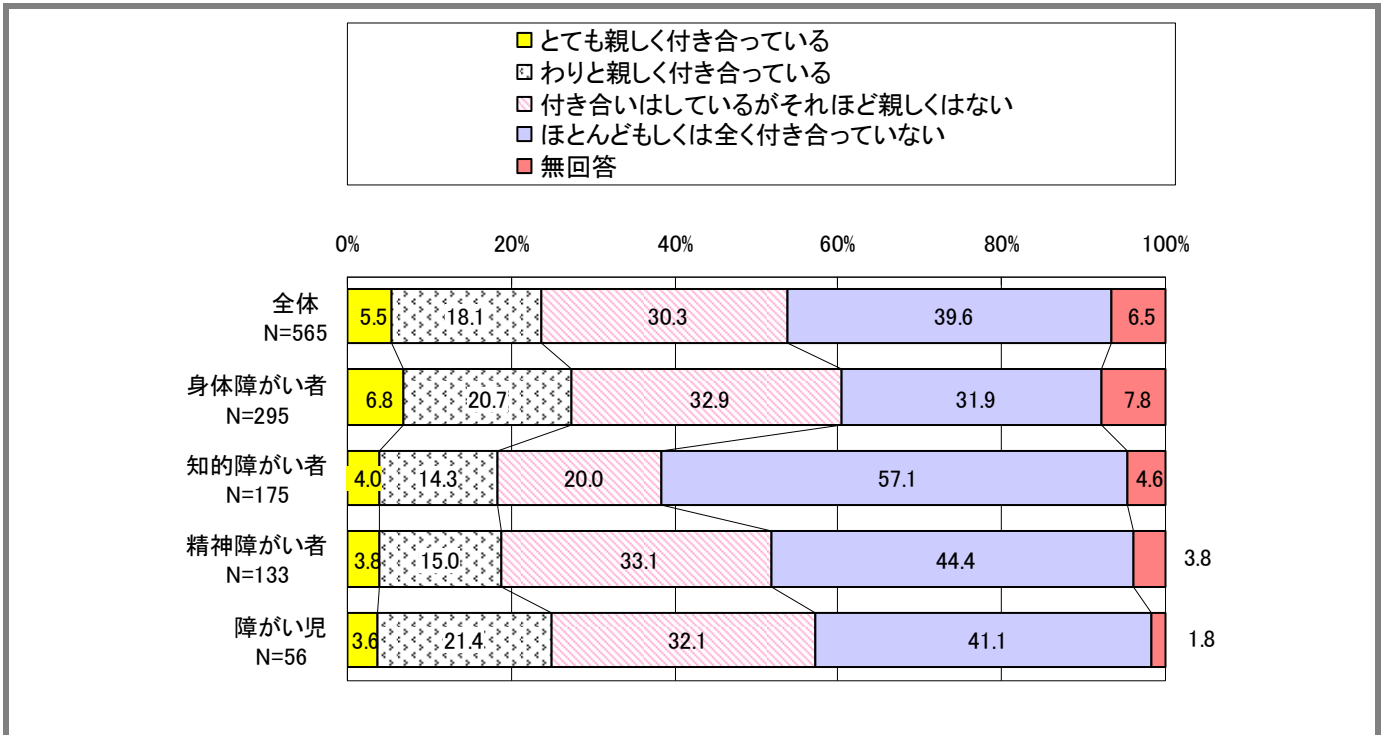
- 市が実施している福祉施策の情報源を尋ねたところ、「市の広報紙、ホームページ」と回答した人の割合が全体の32.6%と最も高く、以下、「家族・友人・知人」(23.9%)、「市役所の福祉担当窓口」(16.8%)、「福祉施設の職員」(16.5%)と続いている。
- 障がい種別に見ると、知的障がい者については「福祉施設の職員」(30.3%)や「家族・友人・知人」(27.4%)が「市の広報紙、ホームページ」(18.9%)よりも高い割合となっており、精神障がい者については「病院・お医者さん・薬局」(25.6%)の回答割合が高くなっている(次ページ参照)。

【障がい種別クロス集計結果】



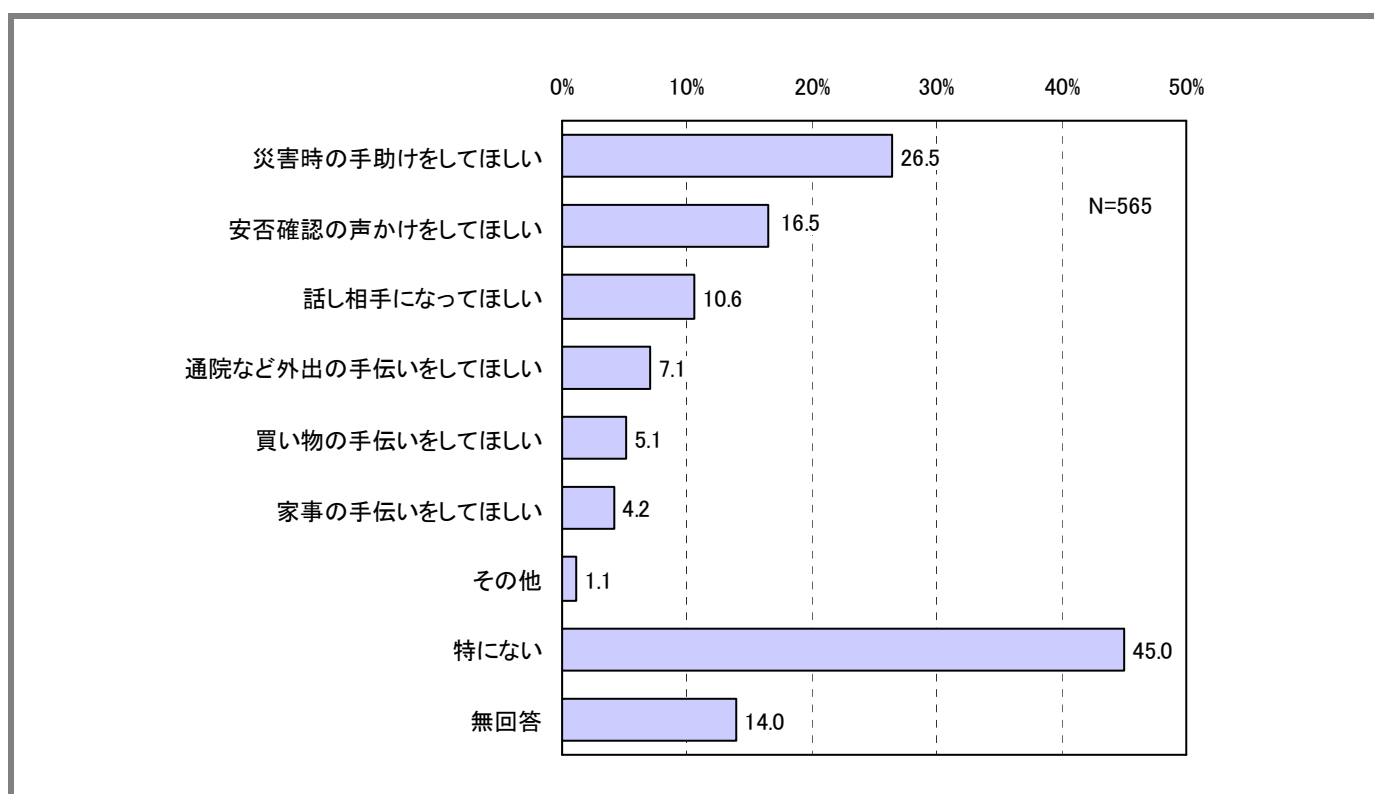
## VI 地域での生活について

問 18 あなたは、現在どの程度近所付き合いをしていますか。(1つに○)



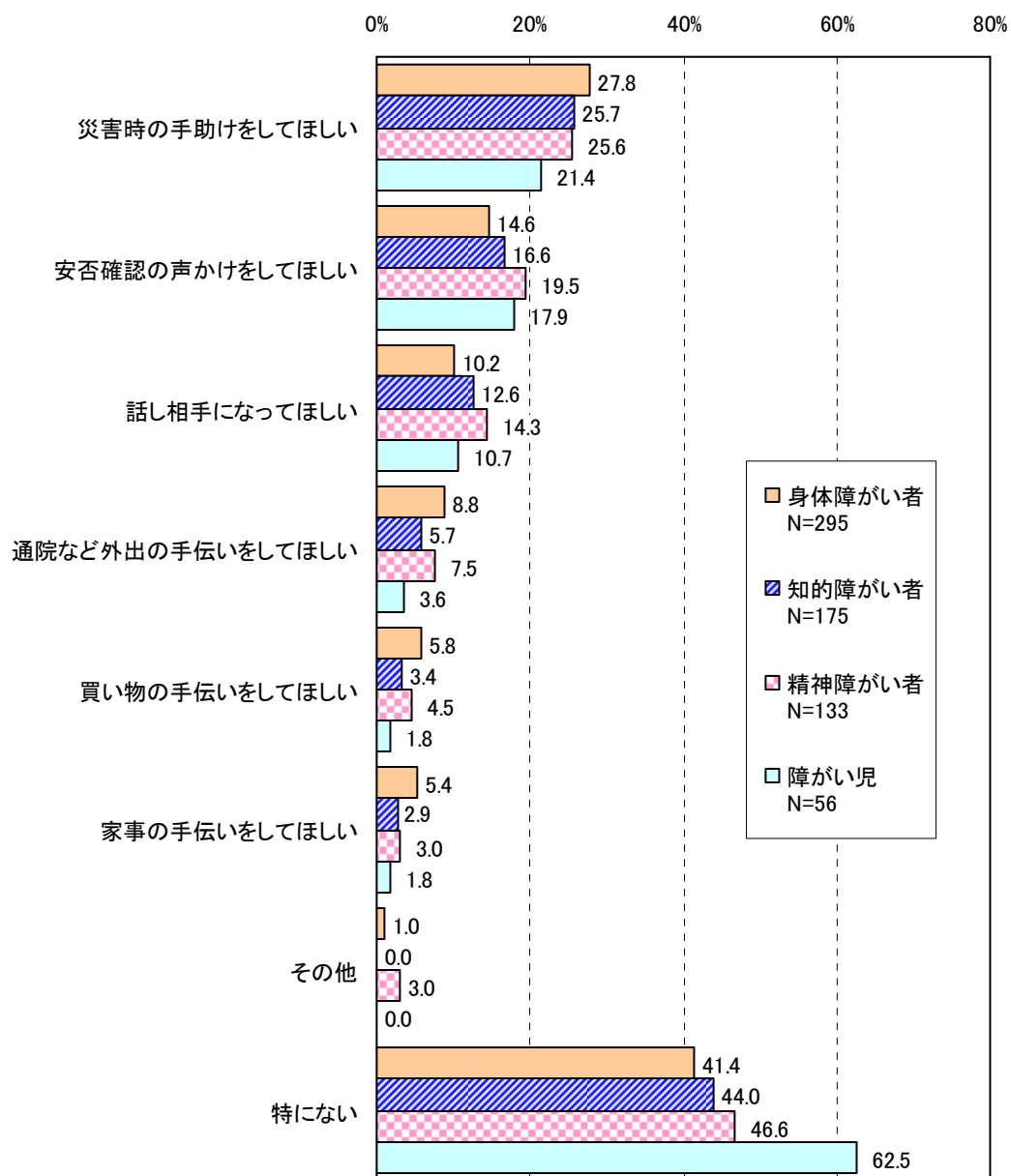
- 近所付き合いについて、「とても親しく付き合っている」「わりと親しく付き合っている」と回答した人の割合は全体の 23.6%で、「付き合いはしているがそれほど親しくはない」「ほとんどもしくは全く付き合っていない」と回答した人の割合 (69.9%) を 46.3 ポイント下回っている。
- 障がい種別に見ると、知的障がい者や精神障がい者については、身体障がい者に比べ「ほとんどもしくは全く付き合っていない」と回答した人の割合が高くなっている (身体: 31.9%、知的: 57.1%、精神: 44.4%)。
- 障がい児についても、身体障がい者と比べると「ほとんどもしくは全く付き合っていない」と回答した人の割合は 10 ポイント近く高くなっているが、知的障がい者や精神障がい者に比べると「わりと親しく付き合っている」と回答した人の割合がやや高くなっている (知的: 14.3%、精神: 15.0%、障がい児: 21.4%)。

問 19 あなたは、地域で手助けしてほしいと思うことがありますか。(あてはまるものすべてに○)



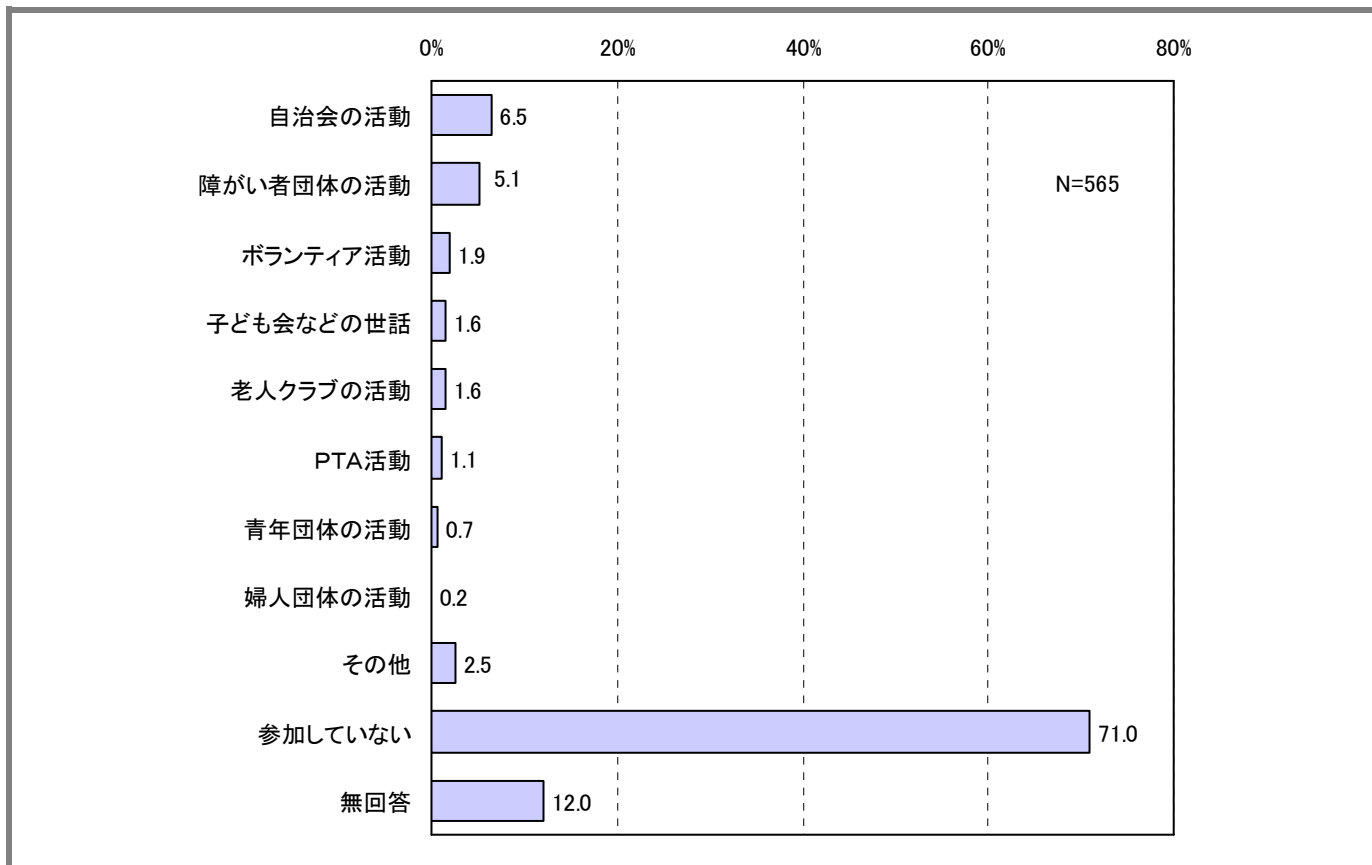
- 地域で手助けしてほしいと思うことがあるか尋ねたところ、「特にない」が全体の45.0%と最も多くなっているが、「災害時の手助けをしてほしい」(26.5%)、「安否確認の声かけをしてほしい」(16.5%)、「話し相手になってほしい」(10.6%)など、手助けを求める回答も少なくない。
- 障がい種別に見ても、回答割合の順位に差異は見られなかった(次ページ参照)。

【障がい種別クロス集計結果】



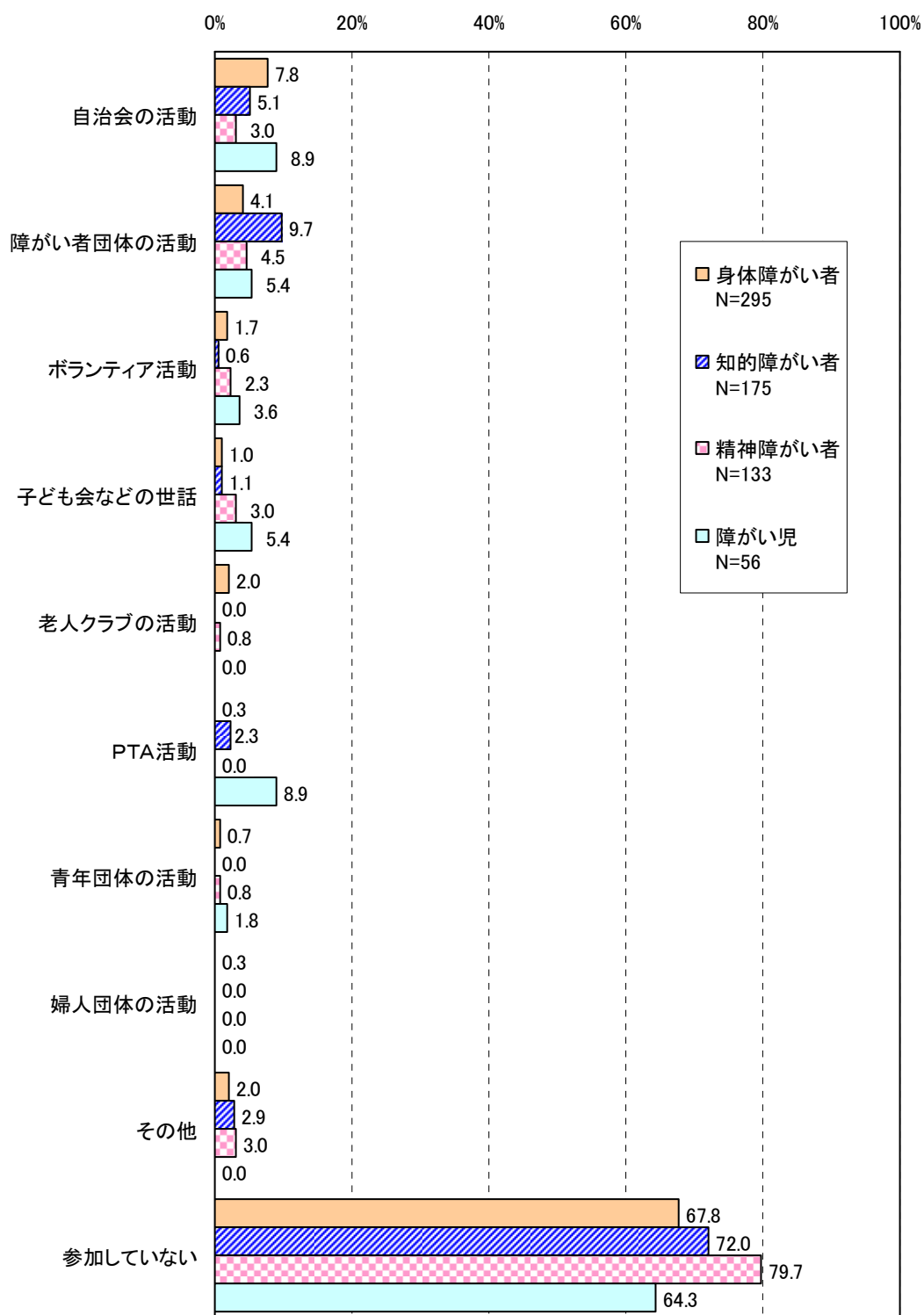


## 問20 あなたは現在どのような地域活動に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

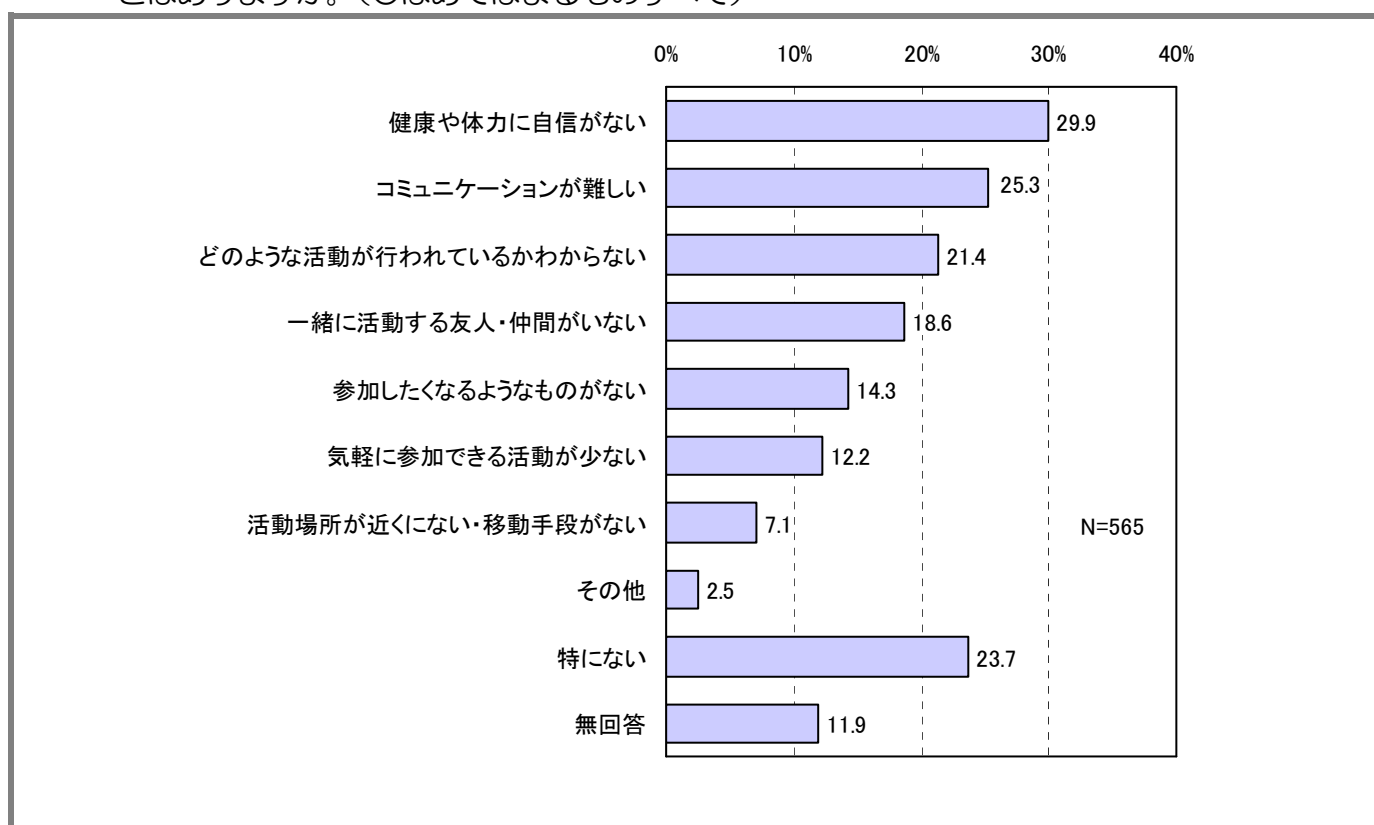


- 現在、地域活動に「参加していない」と回答した人の割合は全体の71.0%で、これと無回答を除く、何らかの地域活動に参加している人の割合は全体の17.0%となっている。
- 障がい種別に参加している活動内容を見ると、知的障がい者では「障がい者団体の活動」(9.7%)がやや高い割合となっている(次ページ参照)。

【障がい種別クロス集計結果】

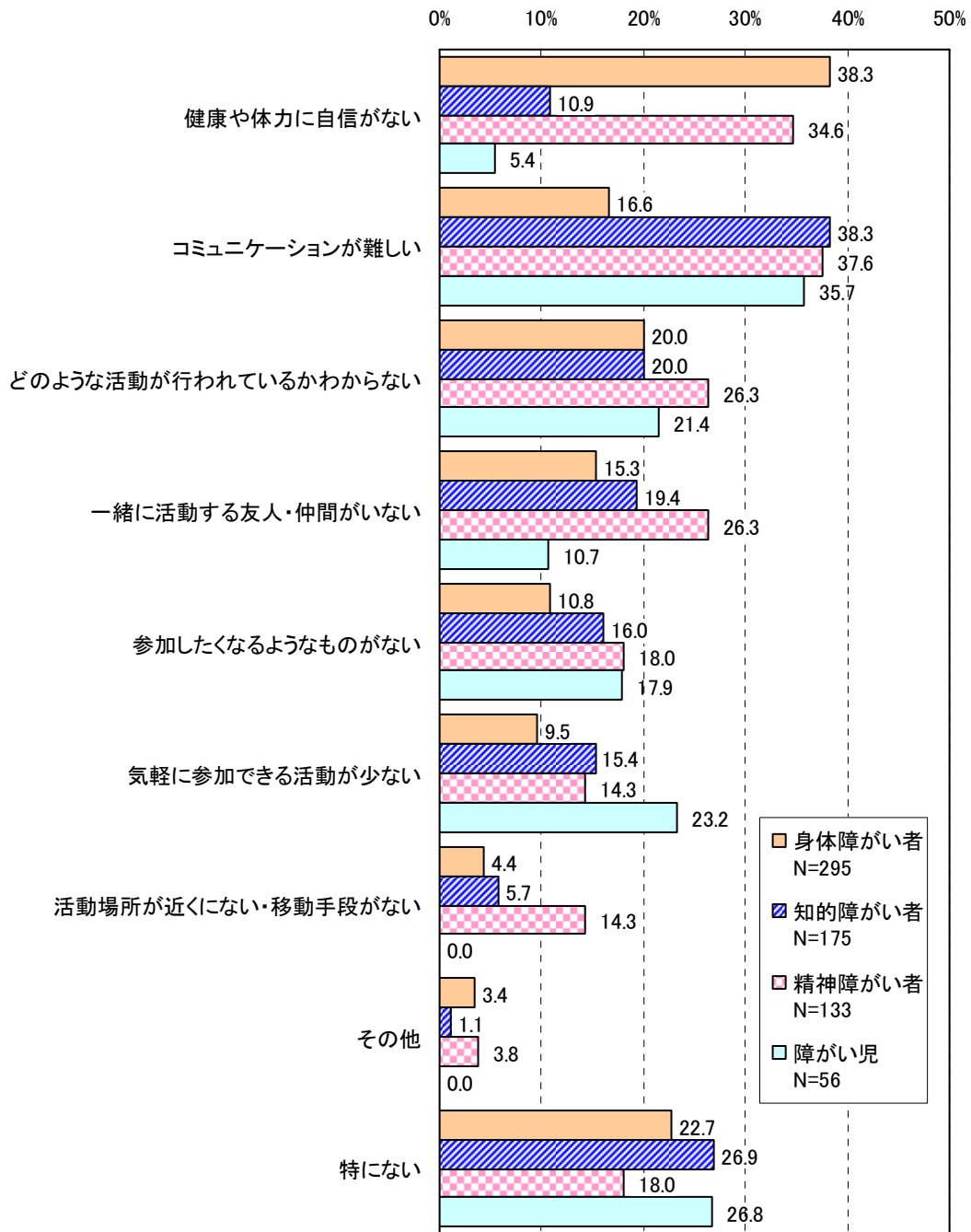


問 21 あなたが地域で行われる行事や余暇活動に参加しようとした場合、そのさまたげとなることはありますか。(〇はあてはまるものすべて)



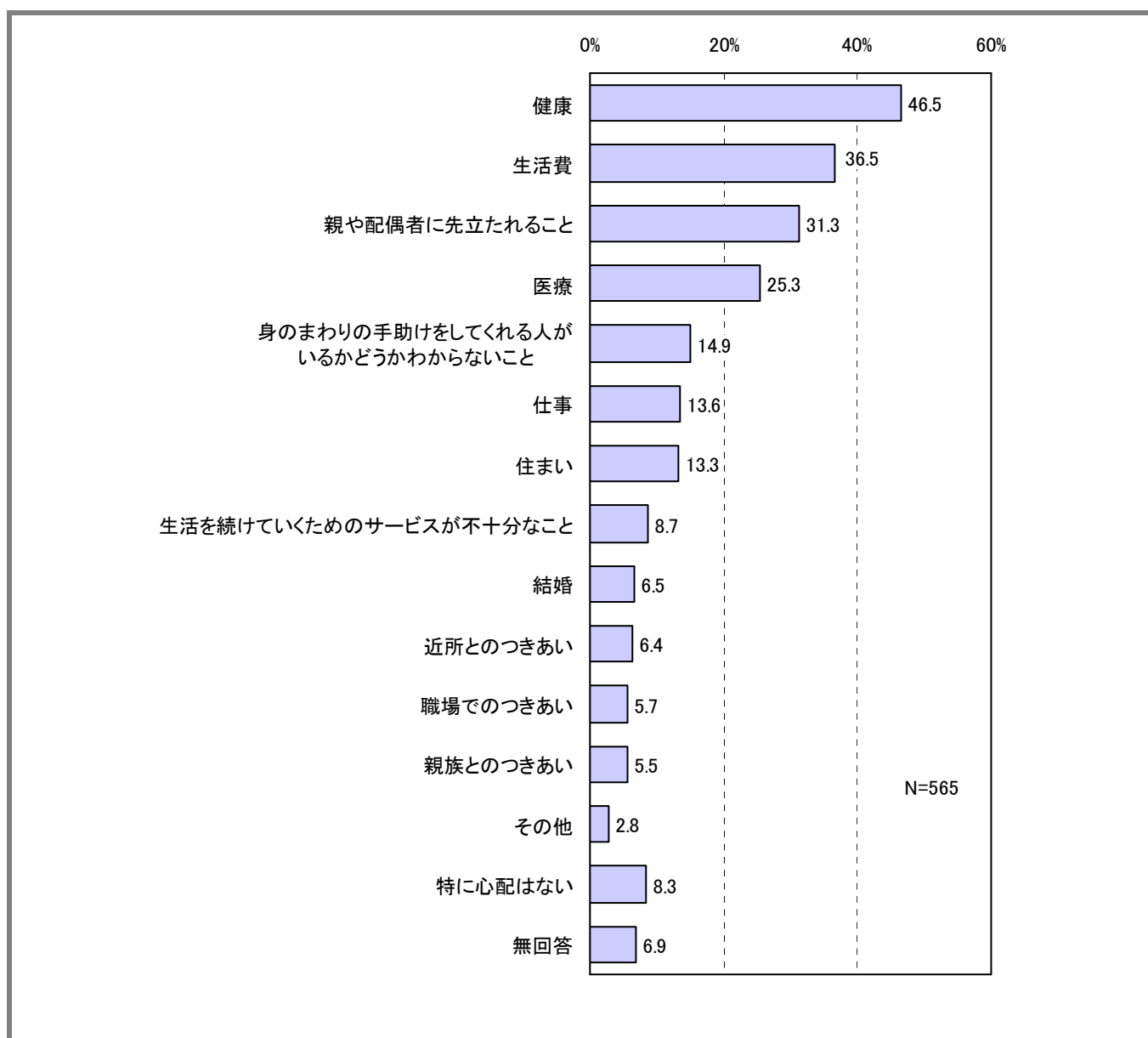
- 地域行事や余暇活動に参加しようとした場合、その妨げとなることを尋ねたところ、「健康や体力に自信がない」が全体の29.9%と最も多く、以下、「コミュニケーションが難しい」(25.3%)、「どのような活動が行われているかわからない」(21.4%)、「一緒に活動する友人・仲間がいない」(18.6%)と続いている。
- 障がい種別に見ると、「健康や体力に自信がない」は身体障がい者(38.3%)と精神障がい者(34.6%)の回答割合が高く、身体障がい者以外では「コミュニケーションが難しい」(知的：38.3%、精神：37.6%、障がい児：35.7%)がそれぞれ最も高い割合となっている(次ページ参照)。

【障がい種別クロス集計結果】



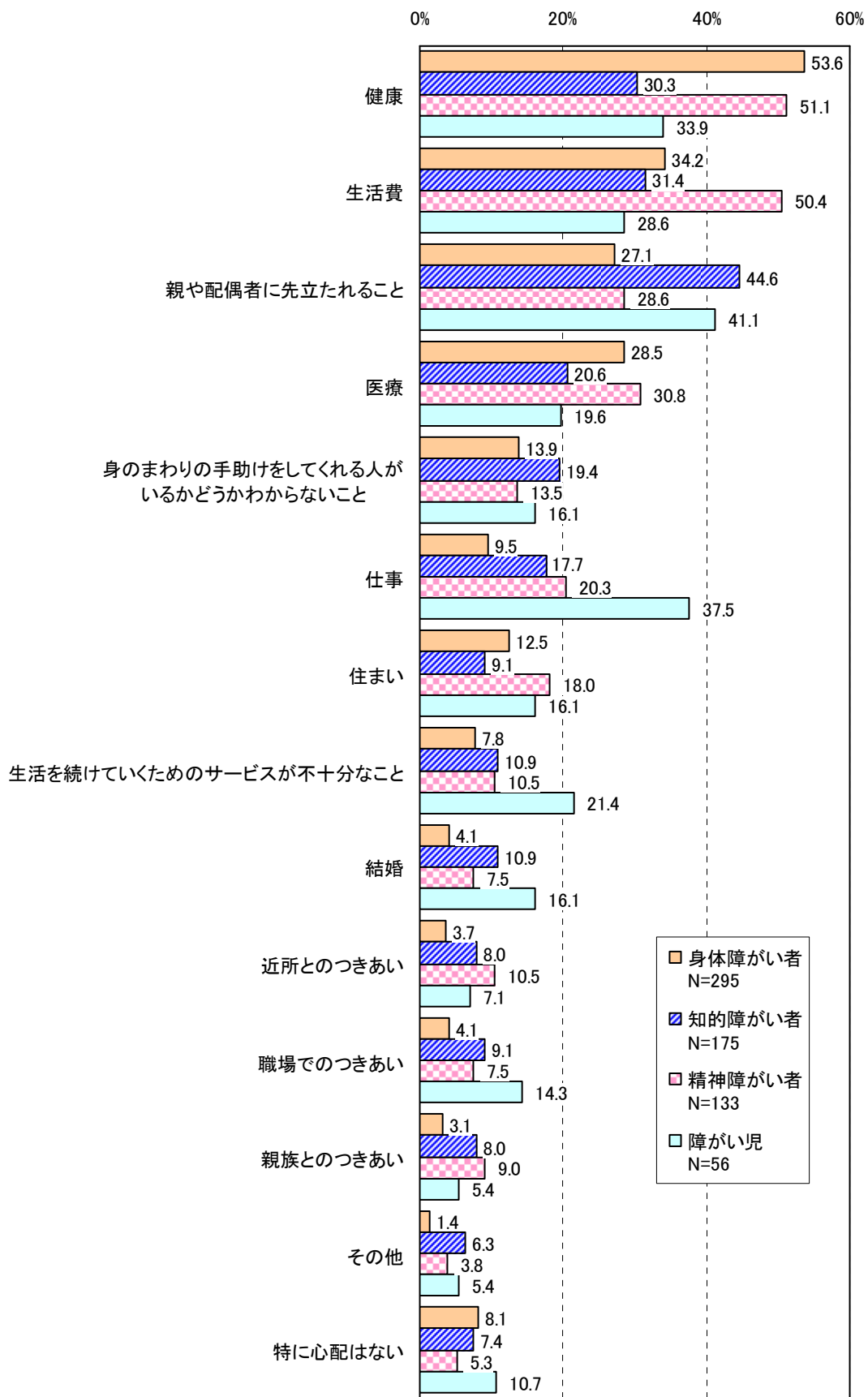
## Ⅶ これからの暮らしのことについて

問22 あなたが暮らしていくなかで、特に心配なことはありますか。(主なもの3つまでに○)

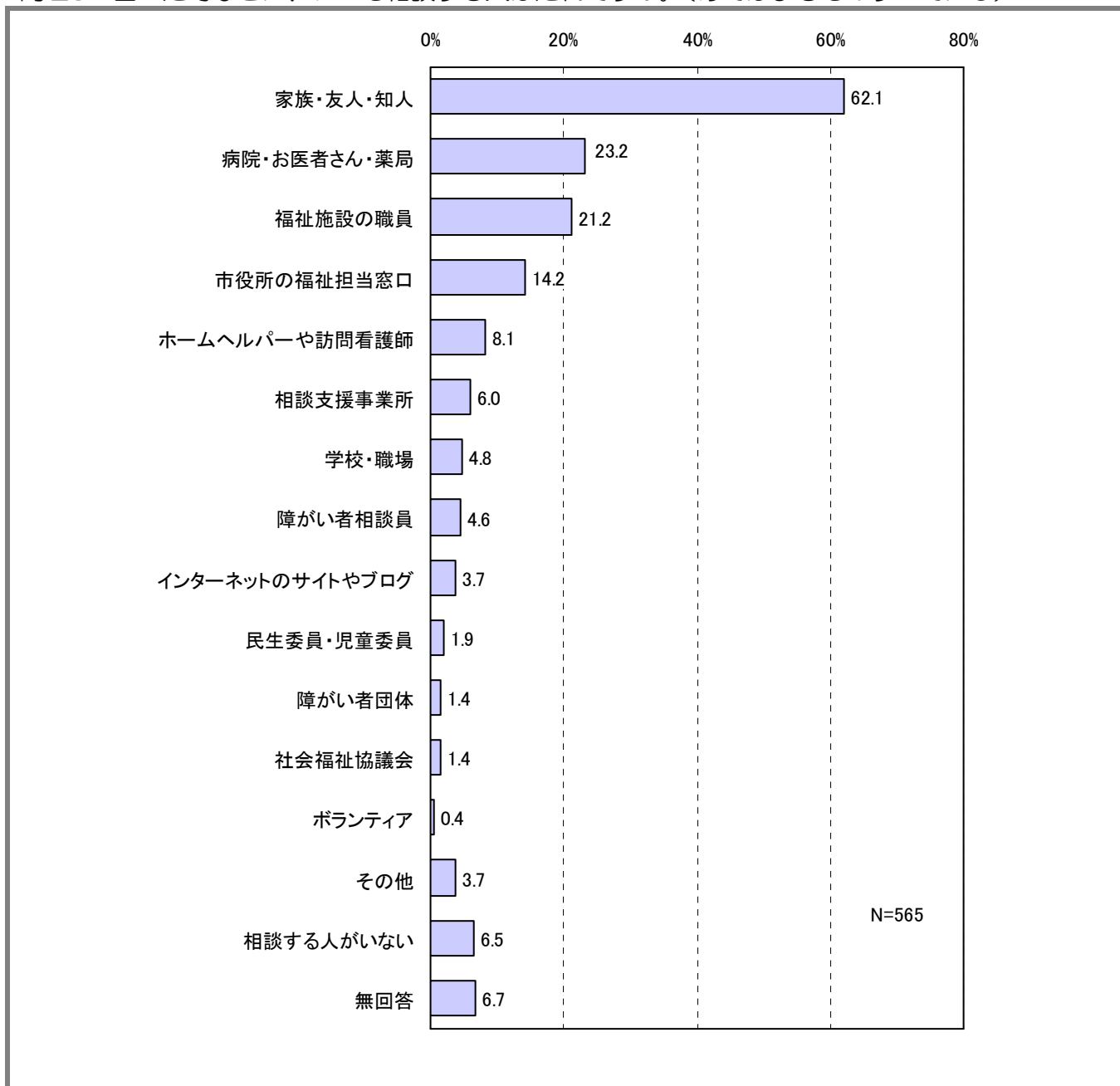


- 暮らしていくなかで特に心配なこととしては、「健康」という回答が全体の46.5%と最も多く、以下、「生活費」(36.5%)、「親や配偶者に先立たれること」(31.3%)、「医療」(25.3%)と続いている。
- 障がい種別に見ると、身体障がい者では「健康」(53.6%)、知的障がい者では「親や配偶者に先立たれること」(44.6%)、精神障がい者では「健康」(51.1%)と「生活費」(50.4%)、障がい児では「親や配偶者に先立たれること」(41.1%)と「仕事」(37.5%)がそれぞれ高い割合となっている(次ページ参照)。

【障がい種別クロス集計結果】

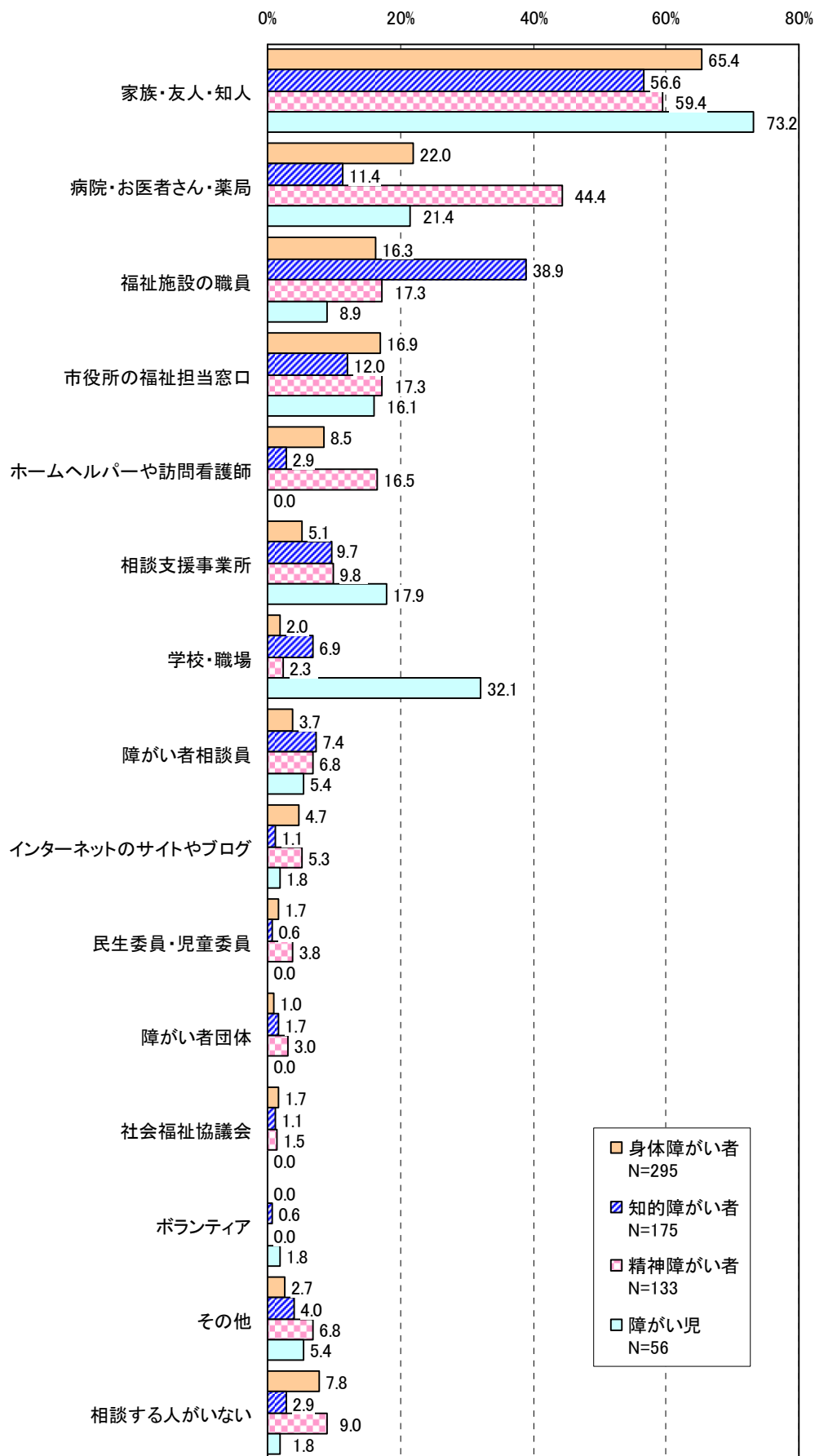


## 問23 困った時などに、いつも相談する人はだれですか。(あてはまるものすべてに○)



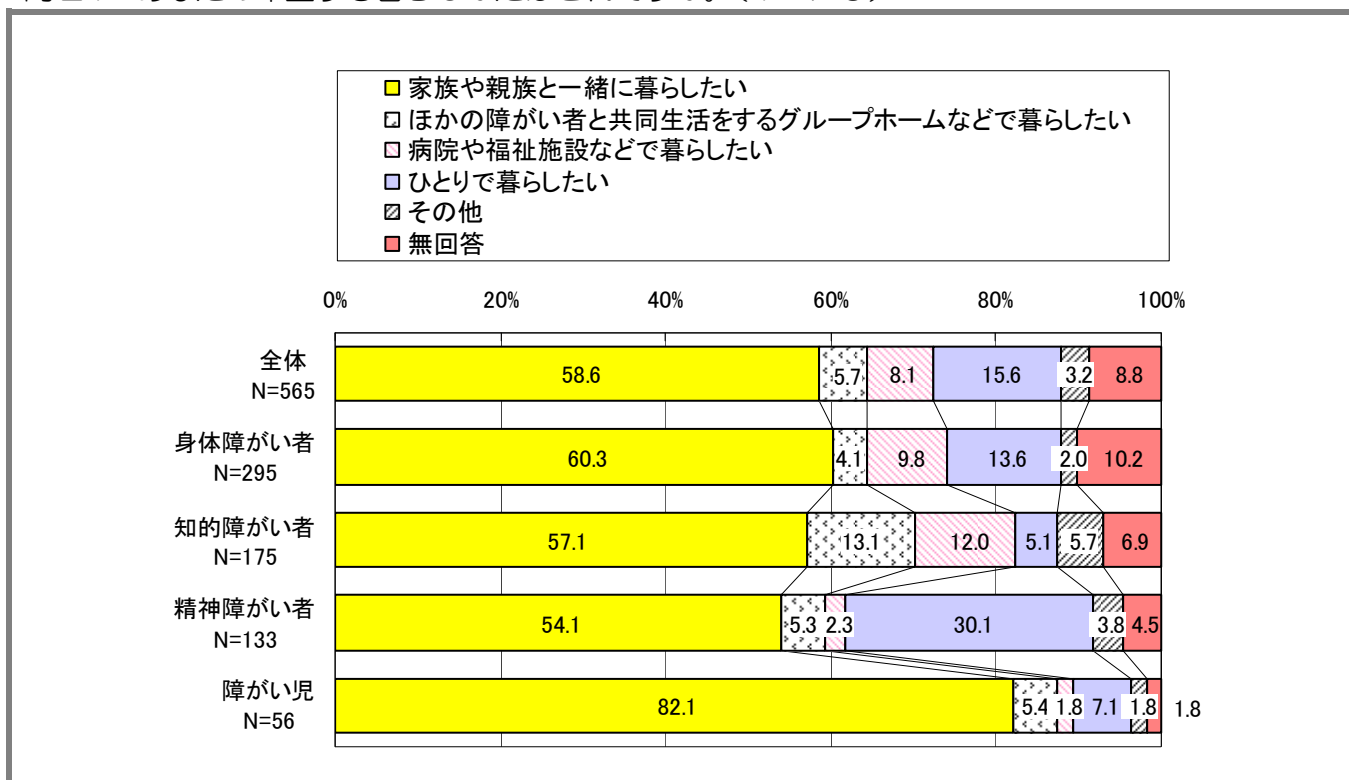
- 困った時の相談相手については、「家族・友人・知人」という回答が全体の 62.1%と最も多く、以下、「病院・お医者さん・薬局」(23.2%)、「福祉施設の職員」(21.2%)、「市役所の福祉担当窓口」(14.2%)と続いている。
- 障がい種別に見ても、最上位の「家族・友人・知人」は変わらないが、身体障がい者や精神障がい者では「病院・お医者さん・薬局」(身体：22.0%、精神：44.4%)、知的障がい者では「福祉施設の職員」(38.9%)、障がい児では「学校・職場」(32.1%)という回答が、それぞれ第2位となっている(次ページ参照)。

【障がい種別クロス集計結果】





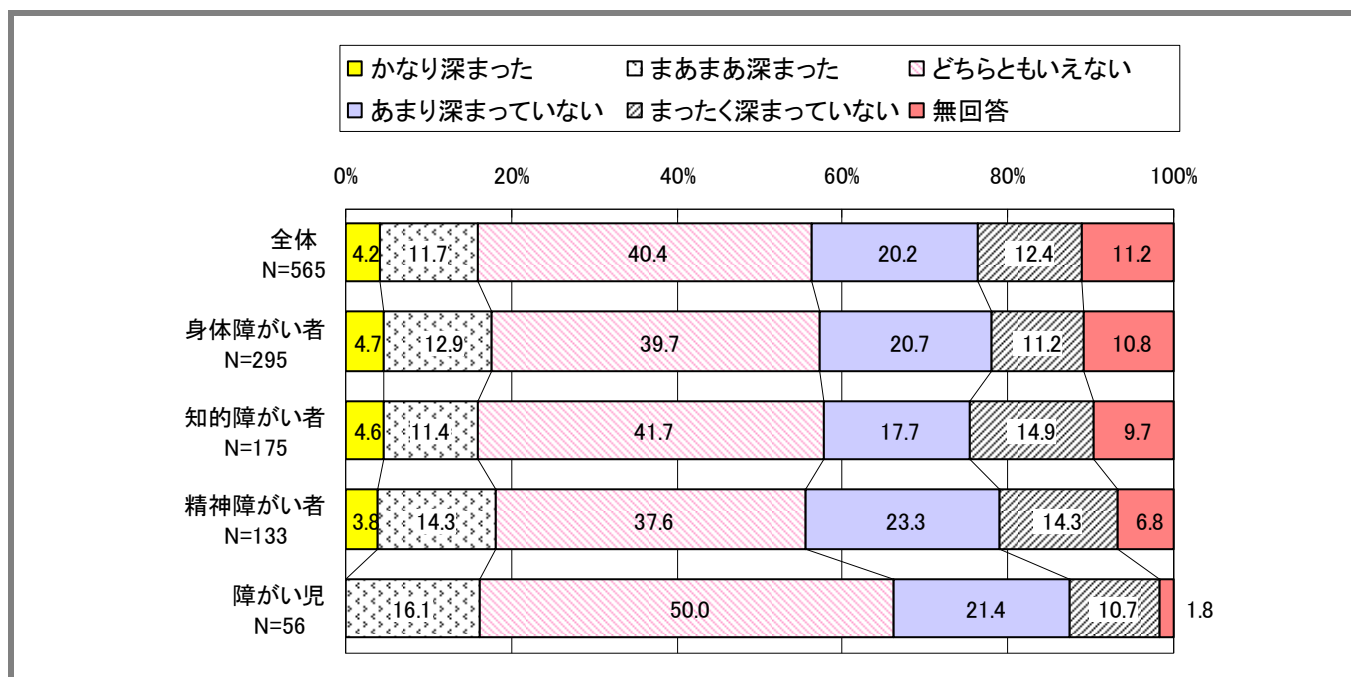
問24 あなたの希望する暮らしかたはどれですか。(1つに〇)



- 暮らし方については、いずれの障がい種別においても「家族や親族と一緒に暮らしたい」という回答が最も多く、全体の58.6%を占めている。
- 障がい種別に見ると、精神障がい者では「ひとりで暮らしたい」という回答が30.1%と、他の障がい種別に比べ高い割合となっている。

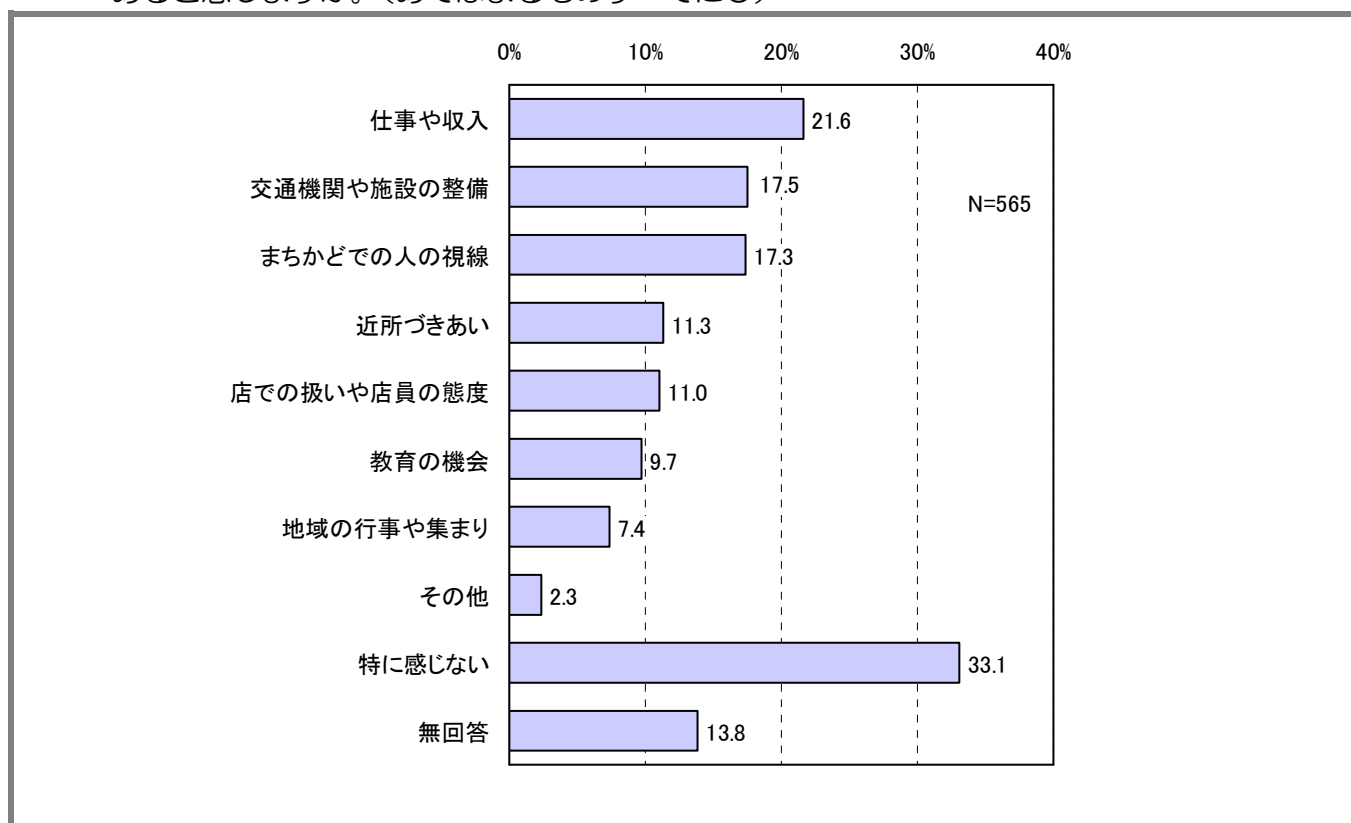
## Ⅷ 福祉全般について

問 25 あなたは、市全体で障がいへの理解が深まっていると感じますか。(1つに○)



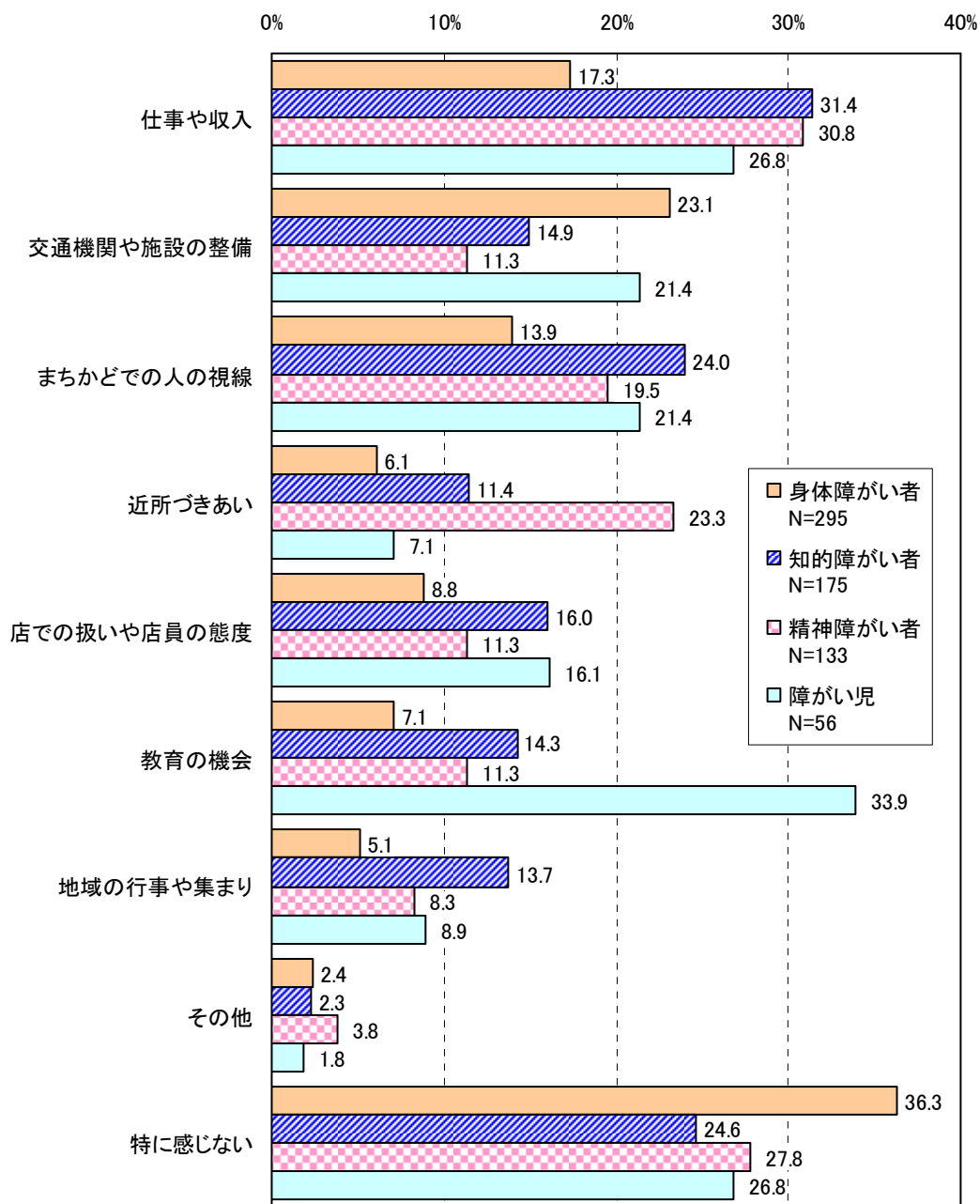
- 市全体で障がいへの理解が「かなり深まった」、「まあまあ深まった」と回答した人の割合は全体の 15.9%で、「あまり深まっていない」、「まったく深まっていない」と回答した人の割合 (32.6%) を 16.7 ポイント下回っている。

問 26 あなたはふだんのくらしのなかで、どのような機会や場所で、障がい者への差別や偏見があると感じますか。(あてはまるものすべてに○)

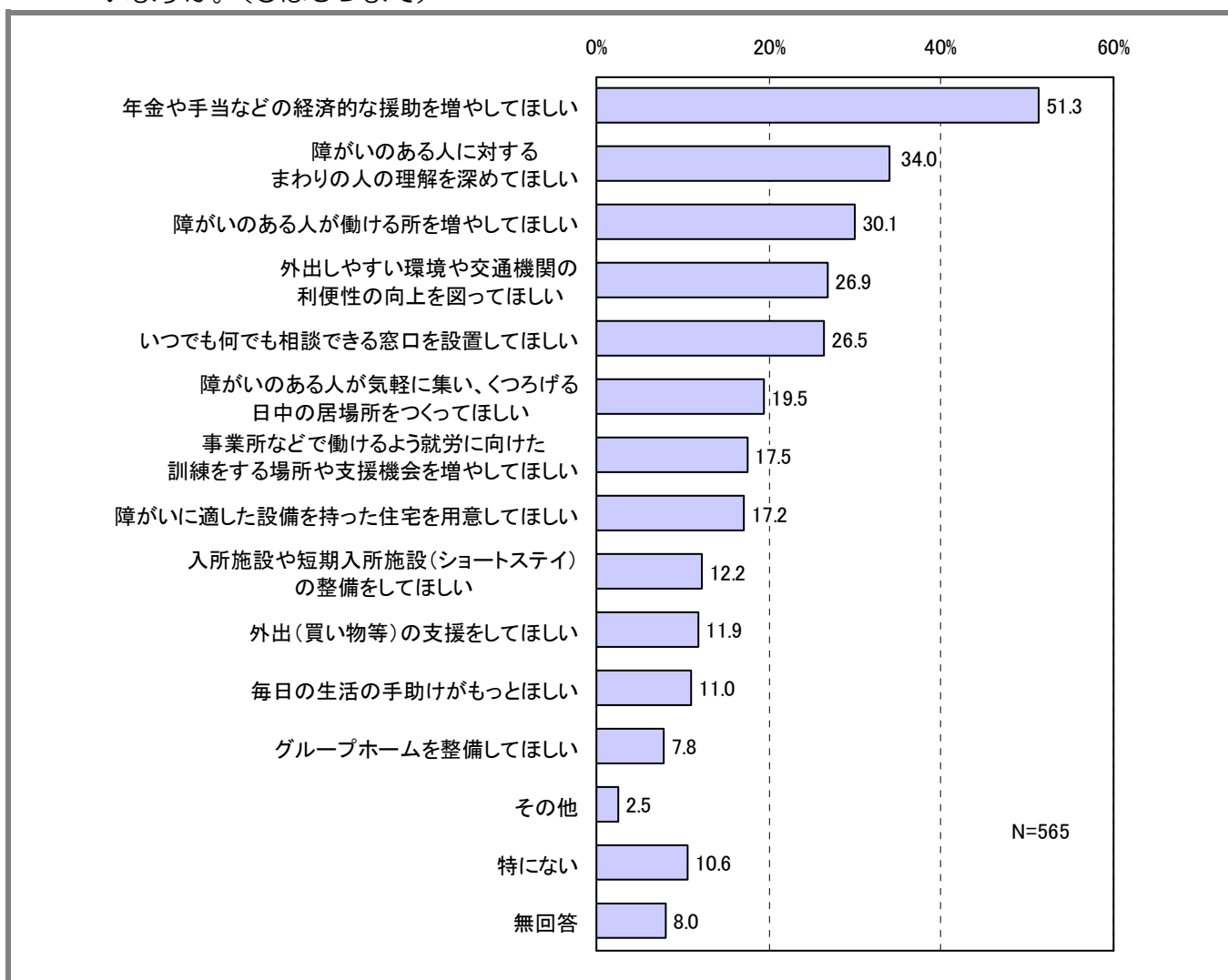


- ふだんのくらしのなかの、どのような機会や場所で、障がい者への差別や偏見があると感じるか尋ねたところ、「特に感じない」という回答が全体の33.1%と最も多くなっているが、これと無回答を除く、少なくとも53.1%の人は何らかの差別や偏見を感じていることがわかる。
- 差別や偏見を感じる機会や場所について、全体で最も多かったのは「仕事や収入」(21.6%)で、以下、「交通機関や施設の整備」(17.5%)、「まちかどでの人の視線」(17.3%)と続いている。
- 障がい種別に見ると、「仕事や収入」はいずれの障がい種別においても高い割合となっているが、他の障がい種別に比べ、身体障がい者では「交通機関や施設の整備」(23.1%)、知的障がい者では「まちかどでの人の視線」(24.0%)、精神障がい者では「近所づきあい」(23.3%)、障がい児では「教育の機会」(33.9%)という回答が、それぞれ高い割合となっている(次ページ参照)。

【障がい種別クロス集計結果】

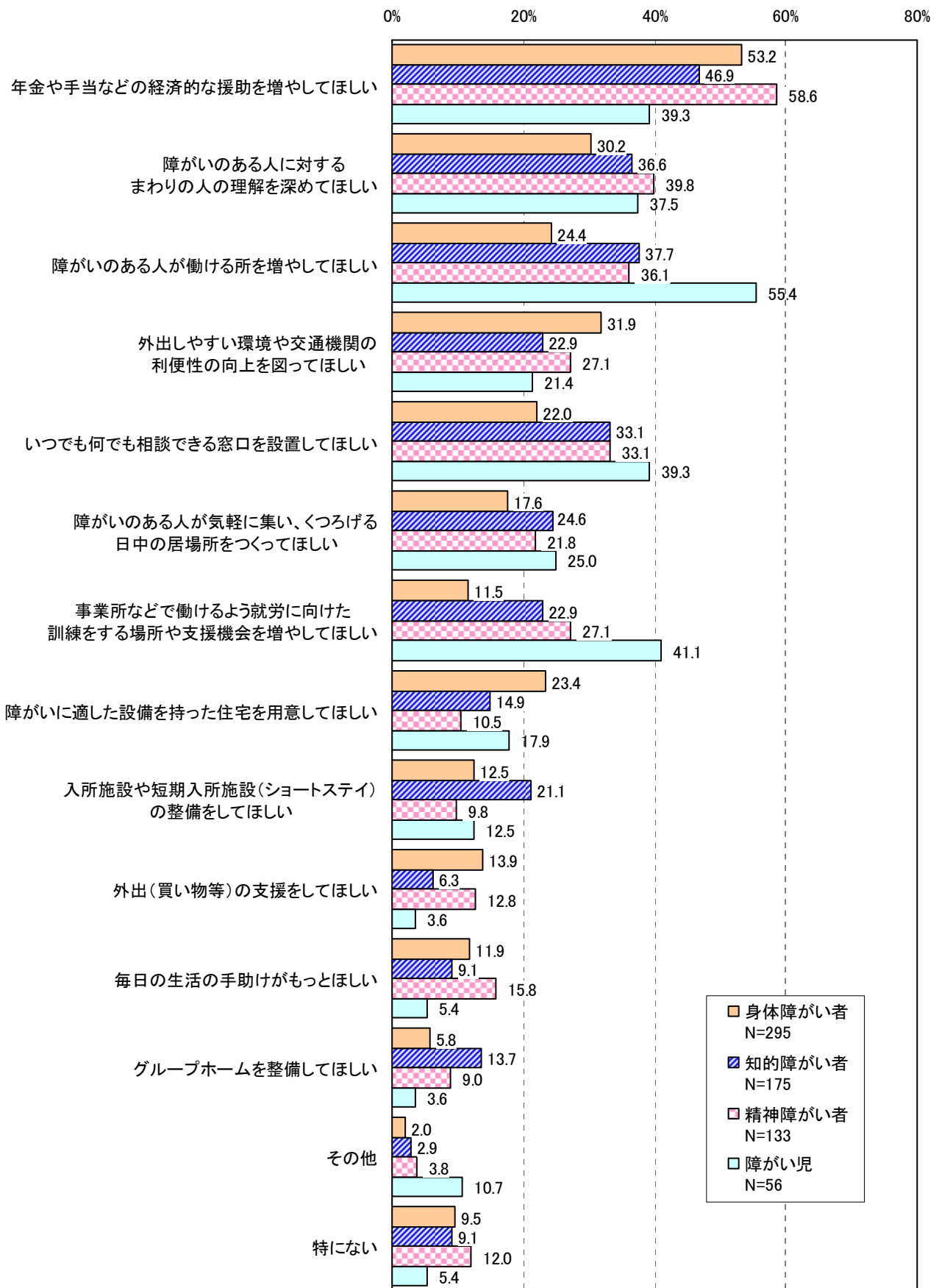


問 27 障がい者に対する支援として、行政（国・県・市）はどのようなことを充実すべきだと思いますか。（〇は5つまで）



- 障がい者に対する支援として、行政が充実すべきだと思うことについては、「年金や手当などの経済的な援助を増やしてほしい」という回答が全体の51.3%と最も多く、以下、「障がいのある人に対するまわりの人の理解を深めてほしい」（34.0%）、「障がいのある人が働ける所を増やしてほしい」（30.1%）、「外出しやすい環境や交通機関の利便性の向上を図ってほしい」（26.9%）、「いつでも何でも相談できる窓口を設置してほしい」（26.5%）と続いている。
- 障がい種別に見ても、「年金や手当などの経済的な援助を増やしてほしい」という回答は、障がい児を除くいずれの障がい種別でも最上位となっているが、身体障がい者については「外出しやすい環境や交通機関の利便性の向上を図ってほしい」（31.9%）、知的障がい者については「障がいのある人が働ける所を増やしてほしい」（37.7%）、精神障がい者については「障がいのある人に対するまわりの人の理解を深めてほしい」（39.8%）がそれぞれ第2位にあがっている（次ページ参照）。
- 障がい児については、「障がいのある人が働ける所を増やしてほしい」（55.4%）や「事業所などで働けるよう就労に向けた訓練をする場所や支援機会を増やしてほしい」など就労支援に関する内容が上位にあがっている。

【障がい種別クロス集計結果】



## IX 自由回答

問28 市の障がい者支援策への意見や提案などをご自由にお書きください。

NO.	障がい種別	内 容
1	身体	3級ですが他の病気などで毎月の薬代や病院代がきつい。少しでも人様に迷惑がかからないようにしていますが、生活保護者などと違いアルバイトをしているので病院代が高いので月に2回行きたいが1回に、薬もまとめてもらっています。税金を払っても生活保護などをもらっている人に比べ生活レベルは低いです。働くのをやめたくある時があります。
2	身体	ストマ申請のため3ヶ月に一度市役所の窓口に行きますが、玄関から窓口まで遠い。車いすを使って歩いていきますが汗をかきます。手続きが苦勞です。
3	身体	とても毎日の生活が困窮している。出費が増え収入が減ってきて生きていけない。
4	身体	外出しやすく交通機関を増やして下さい。
5	身体	学校等にエレベーター等を設置(車いすの児童等に対して)。学校等に障がい者と介護スタッフの補充(人生経験豊かな人)。障がい者移乗時の補助(車の機能等)。病院通院者における交通手段の方法、補助、介護者の検討。
6	身体	現在独身で両親も他界しており、大変な時も相談できる人がいません。生活が苦しく年金を払えないでいる時に病気になり、障がい者になってしまいました。そのため、障害者年金もない為に生活が不安です。国保を滞納しているため体調が悪くても保険証がないので病院へも行けません。市の方にも相談しましたが、親が残してくれた家に住んでいるので持ち家があると生活保護も難しいと言われました。今はなんとか仕事が出来ていますが年々、体がきつく将来が不安です。
7	身体	公園等公共施設及び公衆トイレ等に身障者が使用しやすい、また利用しやすいきれいなトイレが不足していて、外出しても心配で外出を控える事が多い。また歩道等の安全対策も充分ではないと思われる。
8	身体	今のところは自分で出来ています。だんだん手の動きが鈍くなってきます。
9	身体	最近感じたのは、田川市は保護をもらっている人が多く、その人々が必ず保護が必要という人が何人いるのかと思う。その費用を障がいを持つ人の費用に充てればもっといろいろ活用することが出来るのではと思いました。親が保護をもらい、子ども達(18~19才)の人も保護をもらい、それでは働く意欲がわかず、市の調査員はどんな調査をしているのか疑われる。このような状態で障がいを持つ人に対して何が出来るのか不安です。
10	身体	昨年の今ごろ人工透析をする身体になってしまいました。精神的にとっても落ち込みました。ひとつお願いがあります。障がい者専用の駐車場がいつも空いていません。健常者がいつも停めています。障がい者かどうかの確認ができないものではないでしょうか。先に停めた者勝ちと思えます。
11	身体	市民一人ひとりがどのような障がいがありどのような人が住んでいるのかしっかり知ってほしい。そして意識してほしい。障がい者が遠慮しながら生活しているということ。
12	身体	市役所の駐車場に障がい者の車を停める所が少なすぎる。職員の態度が悪い人が多すぎる。職員が立ってタバコを吸っている時に、車から降りるときなどにじっと見る人が多い、特に男性職員。
13	身体	私は6級の障がい者です。年金も少ない為生活を心配しています。せめて生活保護なみになればと思っています。

NO.	障がい種別	内 容
14	身体	私は身体に傷や骨が出てとてもおかしい身体で、地域で体操などあってもなかなかい事ができません。タクシー券は有りがたいと思います。人は一人では生きていく事は出来ないをつくづく思います。
15	身体	私は両変形性股関節症で■年と■年に両側の人工関節置換術を受けました。身障者手帳は入院中に医療機関からの勧めで手続きして取得しましたが、障害年金については病院でも行政の窓口でも教えてくれませんでした。60才になる直前に年金事務所に置いてあった冊子で知り年金事務所で申請のための書類をもらいました。身体障害者の手続きをする時点で障害年金の申請資格があったので、その時に障がい者の窓口で教えてもらえれば良かったのにと悔やまれます。障がい者のために思う気持ちがあれば年金の申請ができる事を知らせることができるのではないのでしょうか。現在月日が経ち過ぎての申請なので、初診日の認定でかなり困っています。あの時ならスムーズにできたのに。
16	身体	車いすで働ける一般企業の情報等を教えてほしい。田川市長さんからの障がい福祉に関するアンケート調査、娘が障がいになってから■年間で初めて頂きました。ありがとうございます。リハビリセンターを転々として助けて頂き最後、■で運転免許取得し生まれ育った田川で自立したいと帰ったのですが、車イスで働ける企業が無く、親子で諦めかけています。病気から障がいが残ри、田川市立病院に月に一度のお薬を続けるため通っています。玄関前の障がい者用駐車場の少なさにいつも困っています。車から降りて車イスを押して病院に入るのですが、ハイバックシンの枝先が伸びてどこが通れるのか分からず点字タイルの上を車イスで通るような状態で大変です。
17	身体	将来の経済的な不安があります。
18	身体	少しの時間でも良いので話し相手になってもらいたい。外出できないので。
19	身体	障がい者が働ける、自立する支援をしてほしい。
20	身体	障がい者として出来る限り自立したいと努力致していますが、思いにまかせられず涙が出るような悔しさでいっぱいです。少しでも地域にも貢献できるよう挑戦していきます。また障がい者の方々に寄り添っていけるように元気になります、なりたいです。
21	身体	障がい者控除を増やしてほしい(所得税、住民税等の減税)。
22	身体	障がい者駐車スペースがいつも、どこでも停めていて満車である。なんでもない普通の人がわれ先に止めている。もう少しマナーを守れないものか。
23	身体	障害課の方々に年に1~2回訪問して現状を把握してほしいと思います。現状も分かっていないのに相談に行っても理解してもらえない事が多い。
24	身体	色々な所で障がい者用の駐車場を何台分か作ってくれているが、障がいのない人が駐車している為、困るときがある。「まごころ駐車場」のマークを持っている人が遠くに駐車して、歩いて移動して大変な思いをした事があるので登録していない人は止めないように市から常に呼びかけをしてほしい。
25	身体	税金が高い。
26	身体	■みたいに、今いる社員の口ききの人だけでなく、幅広く社員の入社を支援させるよう意見の提案をしてほしい。
27	身体	駐車場の整備(障がい者用)。古い建物のバリアフリー化(階段が多い)。
28	身体	田川伊田駅にスロープを付けて下さい。



NO.	障がい種別	内 容
29	身体	田川市も市長様のご努力のおかげで明るい人生に希望が見えてきました。私の今後は年金も少ないし出来るだけ自分自身であまり迷惑をかけないで頑張っ生きていきたいと思ひますが、障がい者や年寄りには世間の風は冷たいと思ひ事が多い。病院に行つて検査を受けても説明が少ないし、検査結果用紙もくだらない事が多い。小学校等の空き地等で高齢者向けの施設が出来るとよいと思ひます。立派な施設は沢山ありますが、2人で30万以上の予算はありません。田川市立の施設が出来ないかと願つています。
30	身体	田川市障がい者福祉基本計画の冒頭にも掲げている「安心して生活できる環境づくりを進める」とありますが、私達は縁があり■に小さな二所帯住宅を建設、生活をしてはいますが、この地域の悪臭問題です。いかに市が、市長がこの地域をおざなりにし、悪臭のもとである養豚企業を応援し、助長させてきたか。市長を一番後援、援助する会社か。子どもの彼女が自宅に遊びに来て、この臭いでは結婚話に親を夏吉に呼べない、必ず反対される、と泣く。久しぶりに遊びに来た小学生の孫達も天気が良く外で食事と言つても臭いで泣き出す。自宅の洗濯物は天日に干せない、悪臭がとれない。この現実、市長も議長もこの地域を見殺し。■区の総会でも両者とも口をそろえて「高齢化が進み若者が住める町作り」を訴えてはいましたが悪臭問題は全くふれず。私は生まれも育ちも田川郡で同窓会等いつも参加しますが、人の帰省本能か、関東、関西の友人の相談で田川に帰りたいと相談を受けますが、田川市は絶対だめ、と説得します。何とか普通の生活ができる地域にお願いできないでしょうか。
31	身体	入所はしたものの自分の障がいの状態を考えると今の施設では不向きだったのではないかと後悔している。
32	身体	脳に障がいがなく、体に障がいがある方はある程度自分自身で行動できますが、脳に障がいがあり、車いす、寝たきりの場合、自由が出来ません。ヘルパーの利用時間を増やしてほしいです。少しの買い物や通院でぎりぎりです。越えた時間は別料金となり負担が増大します。
33	身体	本当に今現在支援のいる方への対応ができていますでしょうか。市の担当スタッフはどこまで(あらゆる障がいがあります)勉強し理解されているのでしょうか。人対人です。スタッフの方、市職員の方々の意識がわかりません。人によって事務的な対応で済ませることもあるでしょう。まずは障がいとひとくくりしないで、細かな対応ができるスタッフが一人でも多く育つてほしいと思ひます。
34	身体,知的	アンケート全体の活字が小さく思われます。もう少し大きい方が読みやすいと思ひます。障がい者が大であろうと小であろうと病院にかかっていると思ひます。支払いはいつも3割ですが手帳を持っている障がい者は全額無料にしてほしいと思ひます。障がい者を一家族の中で2~3人持っている家庭もおられると思ひます、一人ひとりで割り切れない親の負担は何倍にもなつてきます。心ある福祉であれば細かく配慮してほしいと思ひます。
35	身体,知的	施設入所中で月に2回程自宅に帰ります。家族も持病があるため、これ以上年を取ると自宅でのケアが困難になります。入所中の者が自宅に帰つた時、ヘルパーさんなどの手助けを受けられるとよいと思ひます。
36	身体,知的	障がい者にあつた自立サポート(パソコン等)の学習が最もしたいです。
37	身体,知的	目が悪いとの配慮から拡大したアンケート用紙、ありがとうございました。
38	身体,精神	会計の支払う場所をもう少し考へてほしい。
39	身体,精神	障がい者の結婚支援をしてほしい。何か見合いのようなものがあるといい。

NO.	障がい種別	内 容
40	身体,知的	私の子どもは■年間■の病院に入院しています。田川に市立病院や■病院があるのに障がいがあるため受け入れ、入院出来ない事が理解できない。何のための病院なのか。まして市立病院は田川市の職員であり、対応が悪い、患者が少ない、ドクターが悪いと聞きます。田川市として恥ずかしいことだと思ってほしい。本当に保護を必要としている人に保護をやる事は分かるが、パチンコや買い物にタクシーなど私達よりいい生活をしている人が多すぎ。市の職員はもっと調べるべき。手続きだけの離婚で母子手当をもらったりずるいです。市の職員も多すぎ。態度が悪い。
41	身体,知的,障害児	田川地区での入所施設等の整備をしてほしい。入所すると手当がもらえない等、経済的負担も大きい。入所後も手当の支給とまで言わないがもう少し負担減になればと思う。家庭で一緒に生活したいのが一番です。その為には補助と介助また医療機関の充実が不可欠です。前々から言われていますが田川市立病院の救急を含めた医療体制の充実をお願いしたい。
42	身体,精神	生活保護費をもらいたい。
43	身体,精神	田川市立病院で人工透析をしている者ですが、透析患者の送迎を市立病院にも希望します。
44	身体,障害児	障がいがある子を持つ親にとって市が行っている支援策がどんなものか情報も何もわからない。重度の障がいがあれば手帳があり、年金もあるが、ボーダーラインの障がいの子は手帳も年金ももらえない。障がい者と言ってもその人その人に適した支援が必要。
45	知的	30代の息子を持つ母親です。息子は知的障がいです。友達が一人もいなくていつも一人です。ボランティアで話し相手になってくれる人とかいたら助かります。月いちでも良いから何等かのサークル活動みたいなのに参加できれば。孤独からのストレスでたまに暴れそうになります。いつか犯罪を犯すのではないかと将来が心配です。
46	知的	7月26日、神奈川県相模原市の「津久井やまゆり園」においてかつて類を見ない凶悪な障がい者殺傷事件が起こった。当時者や家族関係者は非常にショックを受け、強い怒りを覚え、不安な日々を送っているものと思う。ハード面の支援もそうだが、それ以上にソフト面の充実、障がいのある人に対する差別意識の克服を図ってほしい。人権教育、人権啓発がまだまだ足りないと思う。もっと積極的に取り組んでほしい。
47	知的	ぎりぎりの生活で生きる意欲が出ない。
48	知的	以前に比べると人権擁護の観点や様々な視点から障がいのある人への見え方はこの10年で変わってきたように思う。しかしながら、障がいがある当事者にとってのサービス利用についてや申請などハードルが高く、思うように自由にできない事も多々ある。外出をするにしても坂道や段差が多く、社会モデルから見ると公共機関もまだまだハードルが高いと感じる。
49	知的	現在困っている事。母親が月～土の仕事で土曜は本人の姉に家でみえています。姉が仕事になったときは母親は8時間勤務を4時間働いて4時間休みを取ります。姉が結婚で家を出ると本人を見てくれる人がいないので母親が仕事を辞めるべきか悩んでいる。本人は月～金、作業所で働いています。土曜を他の場所へ行くのは疲れると思い、自宅で見られるようにできないものか相談したい。本人は身体が疲れると病気がちで毎日いれん止めの薬を飲んでる。障がい者が生活しやすいよう、家族が仕事しやすいように市は考えてほしい。

NO.	障がい種別	内 容
50	知的	私は仕事を見つけてもらっている最中なので、なかなか合った仕事が見つからず、外に出てはみたのですが人とコミュニケーションがうまく取れずに施設に行ったりして、落ち着いた所に就職ができない事です。
51	知的	私は■の救護施設■で■年間ほど生活していましたが、この施設はあまり障がい者に対してよくない施設だと思っています。
52	知的	住まいを変えることや引っ越しをさせてほしい。車の免許を取らせてほしい。
53	知的	障がいのある人達もストレス解消の為に楽しめるスポーツが必要だと思います。一般の方達が利用しているスポーツセンター等も利用できないこともないと思いますが、いろいろな事情でやはり気後れしてしまいます。特に重い知的障がいや身体の障がいのある人は、そういう所を利用することはほぼ無理な事だと思います。あくまでも提案にすぎませんが、スポーツセンター(スイミングや卓球場等)でそういう人達だけが利用できる、日にちや時間帯等あれば、利用したいと思う方も増えるのではないかと思います。
54	知的	障がい者がこのようなアンケートに答えるのはかなり難しいと思います。本人に聞いても答える事も内容も理解できません。特に知的障がいのある子どもは大変です。相談する人は誰ですか？親以外に自分から相談する事は難しいです。将来がとっても不安です。親以外にどのような手段で相談してよいのか全く解らない状態です。このようなアンケートを取ってもただ統計を取るだけなら意味がないと思います。障がい者も安心して暮らせるようにお願い致します。
55	知的	障がい者が安心、安全に生活できるように防犯対策など支援してほしいと思います。
56	知的	障がい者と言っても様々な方がいらっしゃいますが、知的障がい者は一見して分からないので、一言の発言でやはりびっくりされることが多く、ショックな場面があり、なかなか外出は避けるようになりました。危険ではないので温かいご支援をお願いします。
57	知的	田川市立病院の身障者駐車場について。県内及び他府県の総合病院の身障者駐車場に駐車する場合、ガードマンが運転者の身障者手帳の提示と確認をして駐車を許可しています。田川市立病院は玄関正面の駐車場に16台、西側の南面の向かい合わせに37台、入車通路の一番目に18台、計71台の駐車場が設置されております。院長先生を始め諸先生のご努力により、最近では患者が多くなってまいりました。曜日によっては朝10時前後に来院すると駐車場は満車に近く北側の1列から2列しか空いてなく、身障者は一番遠い所に駐車しなければならない。玄関の正面から受付が始まる前から来院した健常者が駐車し、ガードマンが駐車場に勤務についても身障手帳の確認もせず、なかには椅子に座って雑談しているガードマンもいる。■病院の身障駐車場は市立病院より少ないが、いつ来院しても身障者の止める場所は確保してもらえる。■病院のガードマンの勤務状態はどこの総合病院でも行っていることで市立病院の管理体制が悪い。病院の信頼を得て、患者が増えており市民としては喜ばしい事ですが、ある一面で信頼を裏切る行為が病院の信頼に影響を及ぼす事になりかねない。ガードマンは委託会社の派遣と見受ける。病院の安全管理の職務体制は短期や臨時採用でも、市の採用で事務管理課の配下に配置すべきで派遣会社からの人材では規定や規則の管理勤務は徹底できない。ガードマンの怠慢で方が一事故が起きてからでは間に合いません。ご検討いただきますようお願い申し上げます。

NO.	障がい種別	内 容
58	知的	障がい者の人達といろいろなコミュニケーションを取れる企画をもっと作ってほしい。障がい者であっても普通の人間と変わりはないことをもっと理解してほしい。障がいがあつて差別する人間がもっと少なくなつてほしい。生まれた時から障がいがあつて生まれてきたわけではないのですから何らかの病気で障がいになったのですから。もっと障がい者の人達を温かい目で見たい。ただ障がいがあるだけで嫌な顔してほしくないです。
59	知的	代理で書きましたが、質問に関して本人の意見等は全くあてにならず本人の意思はわからない。知的障がい者には難しいアンケートです。代理の者の意見が入ってしまい本当のアンケートとは言い切れないようです。
60	知的	入所施設を増やしてほしい。入所施設の職員の見る人数を増やしてほしい。職員の待遇(給料)をよくしてあげて下さい。職員さんの気持ちにもゆとりができてゆつたりと介助ができると思います。
61	知的,精神	障害者支援係の方には事あるごとにいろいろと教えて頂いています。今様々な障がいについて困っている悩んでいる障がい者がいることを理解し、窓口での豊富な知識として教えて頂きたいと思います。現在市内には障害者雇用枠を持つ一般企業がいくつありますか。その企業に何名のどんな障がいを持った人が働いていますか。市としてそんな雇用をきちんとしている会社へ問題点、困っている事を相談するシステムがあるといいと思います。企業と本人(親、家族)の間に入って専門的なアドバイスをさせていただきながら、障がいを持った人が仕事を続けられるようにサポートしてほしいと切に願っています。障がい者と言っても軽度発達障がいや広汎性発達障がいなど目に見えにくい、でも人とのコミュニケーションやこだわりなどで苦しみながら頑張っている障がい者がいます。親の思いは親が居なくなった後にある程度自立できているか、生きていけるかどうかです。家から出て仕事に行くこと。遅れても行くこと。時にパニックになりうつになり休む事があつても辞めることなく続けられる職場が増えてほしいです。できること、できないことのバランスが悪く、できるからといって、つい障がい者ではないような錯覚をおこされることもあつたりします。でも本人はとにかく一生懸命働こうとしています。障がい者雇用枠企業に就職できたからといって一人分みんなと同じにはならないのです。どうか一般の企業が障がい者を雇用する際には企業と本人だけではなく病院や支援センター、そして田川市としても企業を奨励していただくと共に雇用した一人ひとりの障がいを持たれた方の特性を理解し、仕事現場に周知して頂き、障がい者の自立支援に力添えして頂きたいです。企業、家族、病院、支援センター、そして市が手を取り合つて障がい者が頑張つて働ける、楽しく仕事ができる、仲間が集まつて話したり、作つたり、食べたり、遊んだりできる場所がある、そんな田川市をお願いしたいと思います。
62	知的,精神	現在は障がい者に対する、健常者から見る目、気持ち、支援は充分良くなったと感じており、感謝もしております。家族は障がい者が一人になった時どうして生活をして行けるかが一番の心配な事です。
63	知的,精神,障害児	児童発達の放課後デイサービスの利用日数の制限をできれば無くしてほしい。安心して仕事に行けない保護者はかなりいると思う。「決まりですから」と言つて事務的に処理されては発達障がいの子ども達は共働きの保護者が見られず周りで見ている人もいなければ仕事にも行けない状況がある。母子家庭ならなおさら生活保護をもらわなくては生活できないと思います。
64	知的,精神,障害児	放課後デイサービスの利用日数の制限をなくしてほしい。子どもを見てくれる人がいなければ生保の申請をしなくては行けない。自立して働きたいが利用日数の制限、近くに見てくれる人がいなければ仕事にも行けない。

NO.	障がい種別	内 容
65	知的, 障害児	小学入学時、放課後デイサービス利用日数に制限があるため、学童の申し込みをしました。学童の先生より「今の学童の先生の人数では不安な為、教育委員会へ増員をお母さんより申し出てほしい」と言われ、教育委員会へ電話にて申し出た。「学童利用したい」という意思を伝えた事に対して教育委員会は「施設は利用しないのか」とまず問われた。これに対しては利用したいと言っているのに話や子供の程度も聞かずとても不快な思いをした。名前を告げ増員の申し出をし、後日連絡するとの事でしたが連絡はなし。用事があり教育委員会へ行った時に尋ねると「あつ増員はできません」とひと言、子供の程度を見て学童の先生の増員は必要なしと判断したそうで、その判断に対して不服は全くありませんが、現場の学童の先生が不安がっている学童には親として預けたくない。このことに関して教育委員会と障害支援課と何か連携を取ったかと問うと「全く違う課で体制も判断基準も違うので連携は取れない」と言われた。ただこういう相談や要望があった事だけでも伝えるべきだと思うが(利用日数なども絡むので)、本当に教育委員会の配慮の無さに泣いて帰りました。ぜひ教育委員会で上の方に伝え指導をしてほしい。
66	知的, 障害児	障がいを持った子供がいると分かれば親は就職すら難しい。子どもが言葉を話せない障がいであると病院にかかっても先生たちにはわかってもらえない。支援センター、保育園、学校とかも割引なりタダにしてほしい。一家族に障がい者が何人かいるところもあるので、障がいの重い軽いに関係なく同じサービスが受けられるようにしてほしい。
67	知的, 障害児	窓口での書類の説明はこちら側の立場に立った説明をしてほしい。一方的に役所側のほしい内容だけを説明するのではなく、ゆっくりわかりやすく丁寧な説明は障がい者支援にとってあたりまえのことだと思う。役所が身体障がい者や知的障がい者を率先して雇用してほしい。特に知的障がいの雇用は少ないので。他の地域からよくないイメージの改善にもなるように、障がい者雇用に力を入れてほしい。障がい者の公務員雇用率を率先してアップしてもらいたい。各部署に一人は身体障がい者、知的障がい者を配置することにより共生する社会の見本となると思います。返信用封筒が小さ過ぎる、サイズが合っていない。障がいがあればなお入れにくい。
68	知的, 障害児	本人が未成年の為、次回、先行き提案できたらと思います。
69	精神	「障がい者福祉基本計画」を作る過程に当事者を参加させて下さい。内閣もそうしています。大学の先生や専門家の人達のようには行きませんが体験に根差した意見をくみ取ってください。二宮尊徳は苦の道德のモデルではなく「農村の育て直し」をした人です。まずその村が再建できるか否かきちんと検討する。一緒に村を立て直し、最後に村の人達に「自分たちで立ち直った」と思ってもらう。二宮を追いかけず、彼が去った村に「自生的リーダー」が残ります。これが地域福祉(コミュニティ、ケア)の日本モデルだと私は思います。グローバル世界ですから目配りはしておかねばなりません。田川の人が持っている力で地域をよくするしかないと思います。「シンクグローバル、アクトローカル」
70	精神	■年以上前からパニック発作で倒れたりする。何とかアルバイトをしているが倒れる度に「病気が治るまで仕事を休止したら？」と辞めざるを得ない立場になり仕事は長続きしない。同じ病気の人が障害年金をもらっている事を知り、申請したが発病当時、国民年金を払っていない時期があるとの事で却下された。5000円出して診断書も書いてもらったのに。プライドとして生活保護は受けたくない。
71	精神	移動手段があまりなく経済的にもタクシーを使用していくのに限りがあるので支援があると良いと思う。

NO.	障がい種別	内 容
72	精神	近所の人達に障がい者に対して理解してほしい。
73	精神	現在、障害年金としてふた月に一度、13万円程頂いていますが、とても助かっています。私は現在田川市内にある■という福祉作業所に通所して月20日程度働かせて頂いていますが、この■がとても気に入っています。それぞれの人の応じた作業を提供して下さりありがたくはたらいています。給料は平均すると25000円程度ですが障害年金も頂いていますので充分足りています。これからも体の続く限り■で作業させて頂きたいと願っています。これからも障がい者に優しい田川市でありますように。
74	精神	交通費の援助(特に生活保護の人は金銭面で負担が大きい)。歩道の整備、健常者でも歩くのが困難な所が多すぎる。
75	精神	子育てが済み働きたいけれどがんばりすぎると体の具合が悪くなる。子どもが大きくなれどお金は必要。年金だけで食べていけるのか心配です。薬を飲み働けると言われていますが、なかなか週に3回で5時間くらいの仕事が見つかりません。50代を過ぎるとパソコンも目が疲れなかなかうまくてきません。
76	精神	市のコミュニティバスを無料にしてほしい。土日でも運行してほしい。
77	精神	市の広報や社会福祉協議会のたよりが全市民に届いていない(行政区に所属したがない市民の存在)。その現状でいかに啓発活動をするか難しい問題だと思います。本アンケートの視点とは直接の関係はありませんが、「美しいまちづくり」を公約した二場市長にお願いがあります。日常ゴミ集積場所が汚い。他の市町村の行政と差があります。地域においても格差あり。「美しいまちづくり」は「美しい人間づくり」につながります。各地域の「ゴミ出し日」の集積場所の朝の様子(汚さ、臭い、その場所を小中学生が通学している)をぜひご覧になって下さい。
78	精神	市役所の職員の中にも障がい者への理解に薄い方がいる。こちらも一生懸命対応しているつもりだが、もう少し接し方や物言いを優しくできないだろうか。
79	精神	施設に入所しているが、施設職員の対応があまり良くなく、預けている家族としては心配している。
80	精神	私は現在■歳になります。20代の頃から■病院の精神科に通っています。20代後半に仕事を辞めて以来、障がいのために仕事に就くことができず、ずっと無職です。先々、一人になった時どうやって暮らしていったら良いかとても心配です。障がいのある人が一人でも生きていけるために年金や手当などの経済的な援助を充実させて頂きたいと願います。それから障がいのある人がいつでも何でも相談できる窓口を設置して、障がいのある人を見守って頂ける仕組みを充実させて頂きたいと思います。障がいのある人が安心して生きていける、優しい社会を実現させて頂きたいと心から願います。
81	精神	私は比較的軽い障がいなのですが、むしろそういう人達に関する支援策というのは少ないように感じます。例えば、就労継続支援の事業所はもう少し数を増やしてほしいです。一方でいくつかの事業所を利用して思ったのは、職員の質が良くないということでした。理想ばかりでは経営が成り立たないというのも分かります。しかし、言葉使いや利用者に対する態度や接し方など基本的なことはこういった仕事に就く以上きちんとしていただきたいです。介護の研修のように一定の講習を受けた人でなければたとえ沢山の資格を持っていても職員として働けないという、そういった制度もぜひご検討下さい。

NO.	障がい種別	内 容
82	精神	自分から障がいの事を相手に伝えるのが困難な時があるので、社会にはいろんな障がいを持っている人がいることを代弁してもらい、広めて理解を深めてほしい。障がい者への対応で数か所の施設の良くない話を耳にした。そういった施設の施設長、スタッフ、管理者に指導し良くしてほしい。泣き寝入りしている障がい者もいます。助けてやって下さい。
83	精神	巡回バスが■バスと同じくらい値段が高いので利用しにくいです。市政だよりに「障害者支援コーナー」を設けてもらって就労情報などいろいろな情報を載せてほしいです。
84	精神	障がい者に対する差別をなくすよう啓発運動を強化してください。地域で障がいのある人が豊かに生きていけるようにしてほしい。障がいのある人が65歳以上になると介護保険の対象になってしまう現実がある。
85	精神	障がい者の支援をする事は大変に素晴らしいことであるが、これ以上に田川市民一人ひとりがその思いを持つだけでも進展するのでは。
86	精神	身体障がいと違って精神的な障がいを持っている者は見た目が普通なので理解されにくいと思います。大変なのはどちらも同じだと思う。
87	精神	身体障がいの方は交通の面で金銭的に半割だったりするが、精神障がいはJR、バス、飛行機などは全く補助もなく、また金銭的に補助がとりにくい。働いているが体の不調がいつ出るかわからないのに補助がすぐに受けられなさそうなのが心配である。身体の方と同じように交通手段や金銭的補助をもう少ししっかりしてほしい。
88	精神	福祉の専門、知識がある人が支援対策をし、改善し、明るい日常生活を誰もができる市になってほしい。
89	精神	慢性疼痛性障害と診断され、自立支援医療を受けています。現在は痛みを抱えながらも仕事(フルタイム)、育児、親の介護をしてなんとか生活ができています。この先、体力的に自信がなく不安になる事もありますが今はなんとかやっています。自立支援医療が精神科のみでしか受けられない事が少し負担になります(年間5~10万円程の医療費は3割負担なので)。精神科のほかにペインクリニックにも通院しているので。働けて収入があるのでなんとかやっていますが。診療科の拡大が出来ればもう少し助かります。
90	障害児	現在発達障がいをもつ子どもが増えています。特別な支援が必要ではない場合が多いので、普通の保育所、学校に通う子がほとんどです。しかしその中で、「発達」についての知識を持つ先生は少なく、いないのに等しいのが現状です。「発達」は8才までの療育が大事とのデータもあります。親が認識できず、また認めることができずに療育のチャンスを逃すことも多々あります。公的機関、地域ともに「発達」を知ること。抵抗なく療育を始める入り口を作ることが早急に必要だと感じます。そして地域の取り組み方に大きな差があります。入園、入学の際もいい療育を受けたくても住所によって希望外への入学となることもあります。県や市の決まりではなく、その子にとって最善の教育、療育を受けられる対応をお願いします。
91	障害児	現市長が学業に力を入れてくださり、田川市の子育ても楽しみになってきました。健常者、障がい者(児)共に学力を向上させ、優れた施設が揃う田川市となりますように。子育て世代も頑張りたいと思います。より良い田川を願い、どの世代も協力が必要です。
92	障害児	今のところそこまで求めていない。「どうせ」というあきらめの気持ちもあります。しかしそれなりに良くはして頂いています。相談に行けば親身に話は聞いてくれます。
93	障害児	本人や親同士の交流の場を増やしてほしい。

NO.	障がい種別	内 容
94	障害児	本当に障がい者の方の不便さや心の底の悩みを知りたいのであれば、アンケートの始めから終わりまで年齢に合った質問を集めて問題を解決すべきだと思います。この内容の問い方では低年齢の子の親はとて書きづらく提出する意味があるのかと思いました。悩みは年齢や度合いで全て違うのです。「ひとつのアンケート用紙でみんなで答えましょう」みたいな質問の仕方は業務的だとしか思えなかった。もっと一人ひとりを見て欲しいと思いました。
95	不明	施設の中でもっと静かに暮らしたい。若い他の利用者の方とのコミュニケーションが疲れる。
96	不明	私は現在グループホームで生活しています。とくに不便なことはありませんが、将来倒れた時など誰に面倒を見てもらったらいいか一番心配です。
97	不明	障がい者も健常者も混ざった社会で誰もが生きていく価値があるという基礎教育をしてほしい。道徳感を成長させ、誰がいても不思議ではない世の中を。



# 田川市障がい福祉に関するアンケート調査結果報告書

平成 28 年 11 月

---

発 行 福岡県田川市  
企画・編集 田川市高齢障害課

〒825-8501 福岡県田川市中央町 1 番 1 号  
TEL 0947-44-2000 (代)  
FAX 0947-42-2000

---